No.

スリランカ国
観光振興プログラム
（シーギリア博物館活動振興）
プロジェクト形成調査報告書

平成19年3月
（2007年）

独立行政法人国際協力機構

アジア第二部

地二
ＪＲ
07-008

スリランカ国
観光振興プログラム
（シーギリア博物館活動振興）
プロジェクト形成調査報告書

平成19年3月
（2007年）

独立行政法人国際協力機構

アジア第二部

目　　次

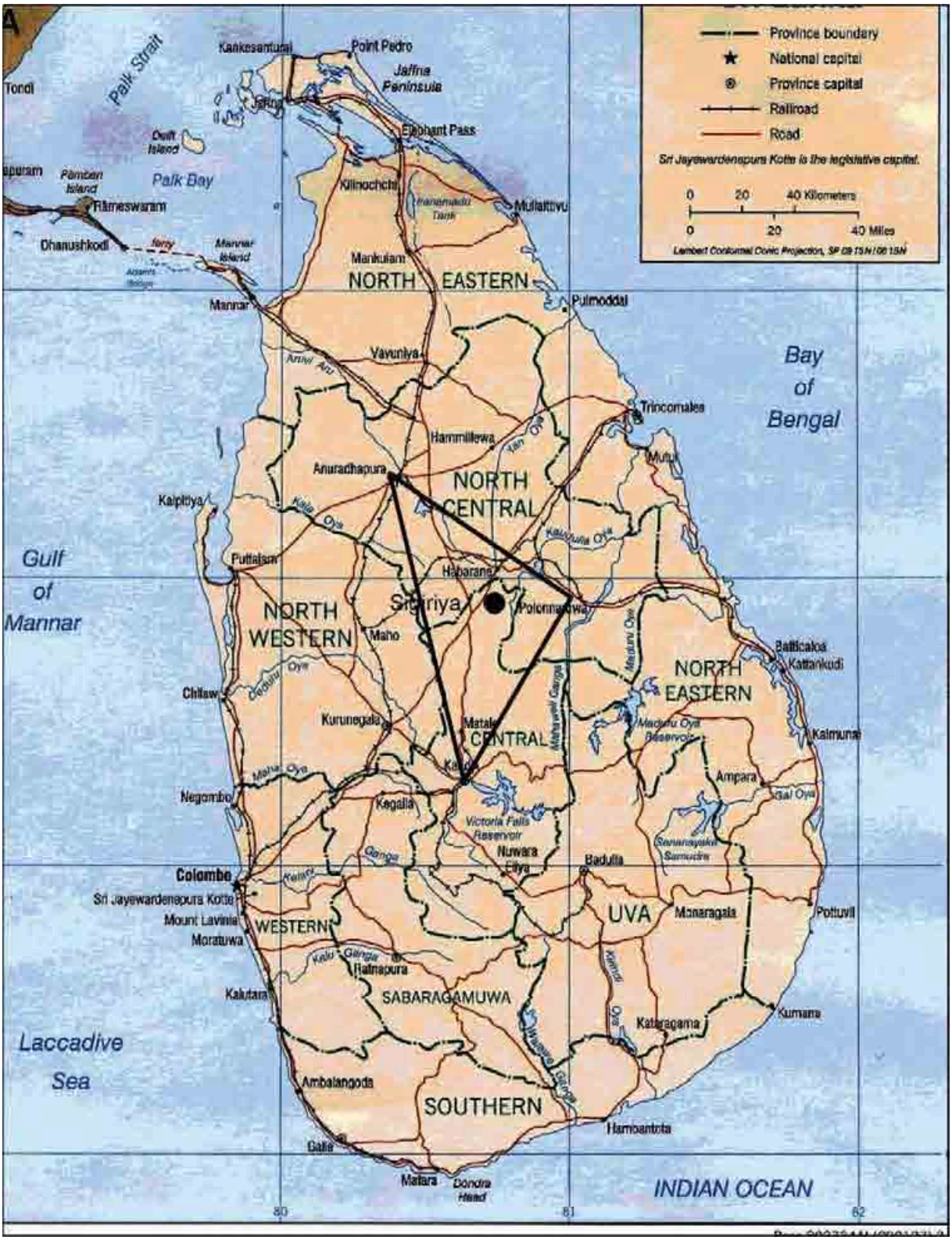
目　次
地　図
写　真
略　語　表
第１章　調査の概要…… 1
１－１　調査の背景 …… 1
１－２　プロジェクト形成調査の内容 …… 1
１－２－１　調査目的 …… 1
１－２－２　調査団員構成 …… 2
１－２－３　調査日程及び主要面談者 …… 2
１－３　調査結果概要 …… 7
１－３－１　シーギリア博物館展示計画案 …… 7
１－３－２　シーギリア地域の観光振興にかかるわが国技術協力の方向性 …… 8
第２章　スリランカにおける観光セクター概況…… 10
２－１　観光資源と観光客の動向 …… 10
２－２　観光行政 …… 13
２－３　ドナーの活動概要 …… 14
第３章　シーギリア遺跡を取り巻く状況…… 17
３－１　シーギリア遺跡の概要 …… 17
３－２　スリランカにおけるシーギリア遺跡の位置づけ …… 22
３－３　シーギリア遺跡の周辺環境 …… 23
３－４　シーギリア遺跡における新博物館の位置づけ …… 27
第４章　シーギリア博物館展示計画案…… 28
４－１　シーギリア博物館の機能 …… 28
４－２　シーギリア博物館の運営・維持管理 …… 28
４－３　展示基本コンセプト …… 33
４－４　展示内容と必要機材 …… 38
４－５　シーギリア博物館展示機材の維持管理 …… 53

第 5 章　シーギリア地域の観光振興にかかるわが国技術協力の方向性…… 54
5 － 1　シーギリア地域の関連プロジェクト概況 …… 54
5 － 2　シーギリア博物館活動振興と観光振興の連携 …… 54
5 － 3　前項を達成するための技術協力の方向性 …… 57

添付資料

１．委員会作成　シーギリア博物館建築計画案、展示計画案プレゼンテーション資料
（9 月 19 日発表）
①　建築家で新博物館設計者の Ellepola 氏プレゼンテーション資料　…… 63
②　シーギリア研究第一人者である考古学者 Bandaranayake 教授プレゼンテーション資料… 89
２．調査団作成　シーギリア博物館展示計画案プレゼンテーション資料（9 月 27 日発表）…… 92
３．収集資料リスト…… 99

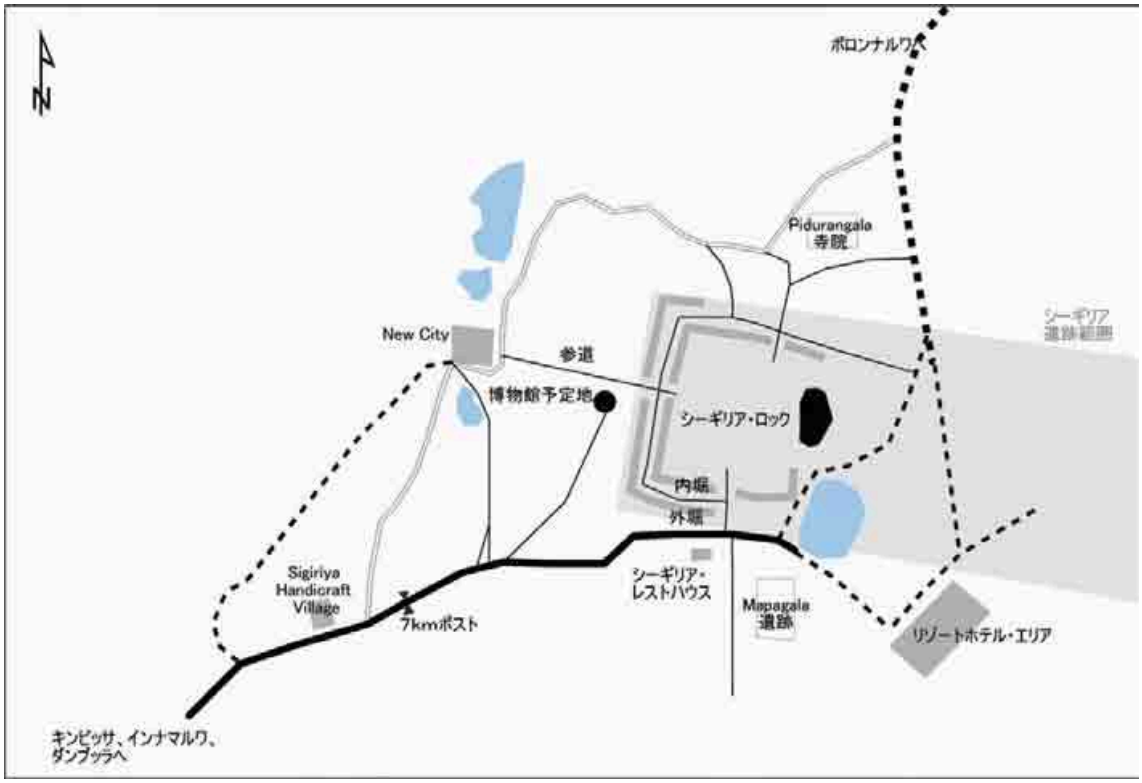
地図Ａ：　スリランカ国全体図とシーギリアの位置　（三角形は「文化三角地帯」）



出所：元図、CIA

地図Ｂ：　シーギリア周辺図

B-1:　シーギリア周辺施設とシーギリア遺跡（模式図、元図）



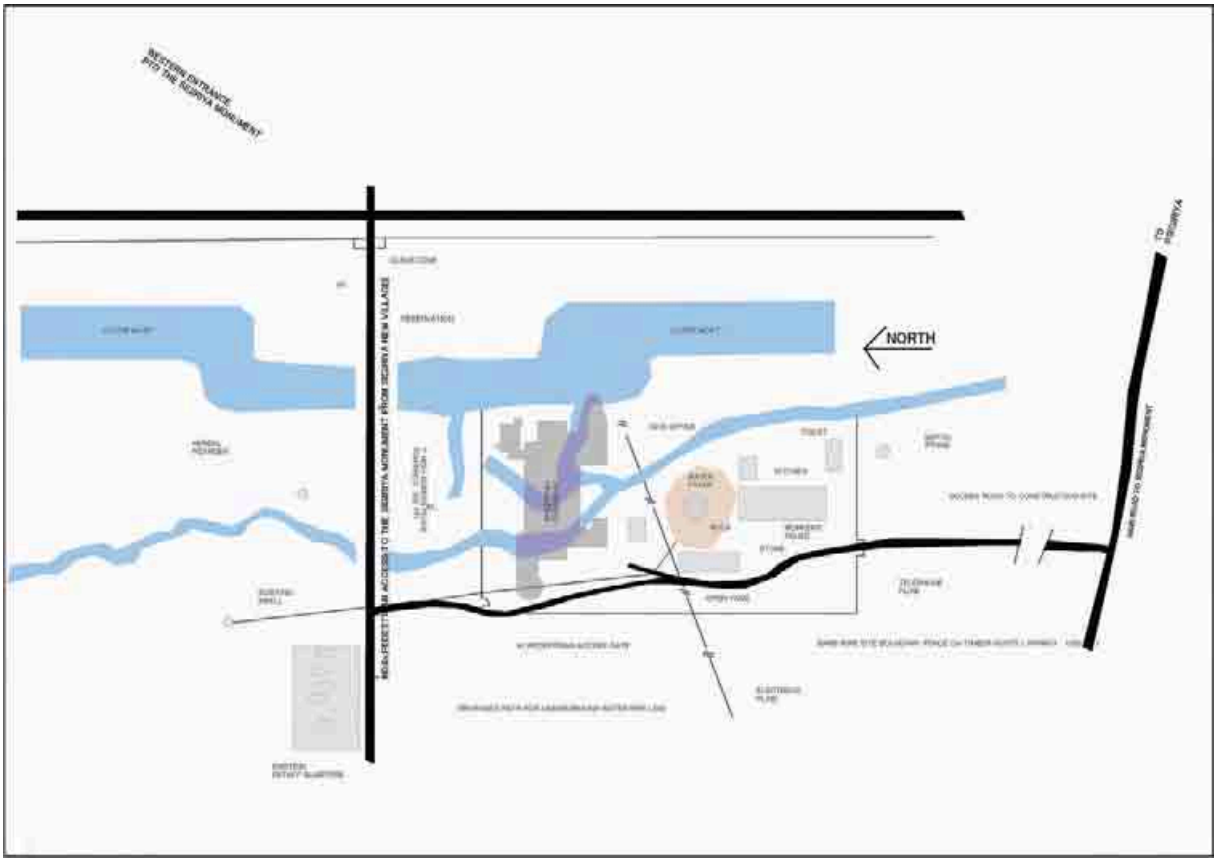
出所：JBIC、JICA

B-2:　シーギリア遺跡地図

出所：1999 年 CCF 出版の有料地図より転載

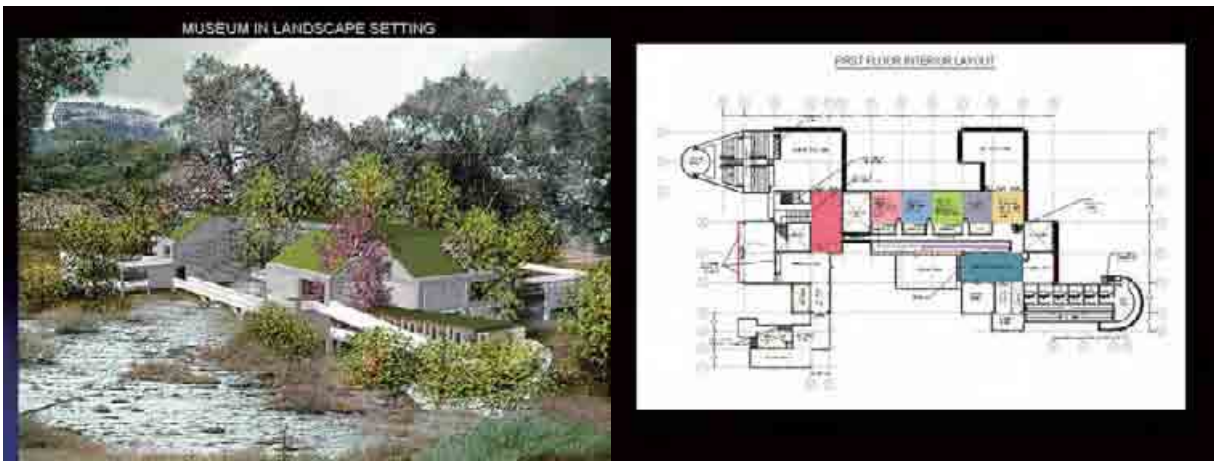
地図Ｃ：　新シーギリア博物館関連地図

C-1:　建築マスタープラン



出所：元図、設計者 Ellepola 氏提供

C-2:　博物館２階部分設計図と外観



出所：委員会提供、プレゼンテーション資料より

写　　真

シーギリア遺跡周辺

参道（New City 側）

参道（遺跡側）

現存　シーギリア博物館

Pidurangala 寺院　入口（後方岩山上にも建物）

Sigiriya　Handicraft　Village　入口

店舗用建物

シーギリア遺跡

ゲートより堀を渡り遺跡へ入場

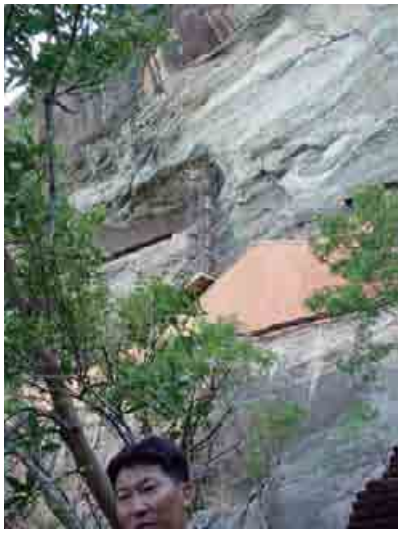
遺跡側　風景

整備された「水の庭園」

洞窟僧院跡にのこる碑文を解説するスリランカ国側

洞窟僧院と「岩の庭園」

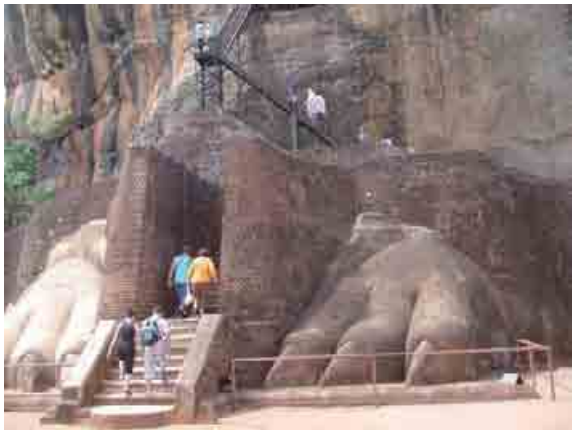
復元された「テラス庭園」が王宮のある岩山へ続く



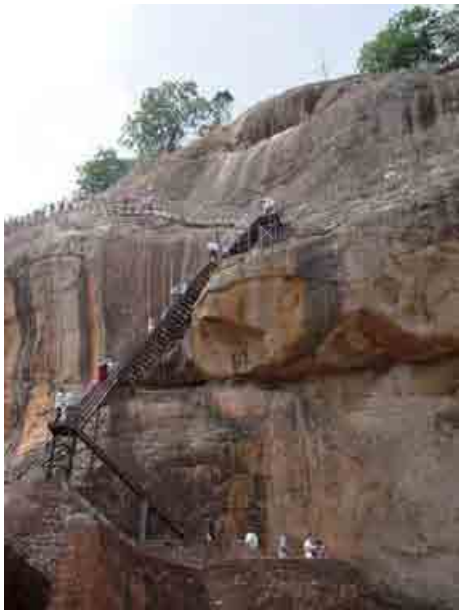
フレスコ・ポケットへ（左）「テラス庭園」を登りきる（中）「鏡の壁」レベルへ到達（右）　螺旋階段

フレスコ・ポケット内の「シーギリアレディー」画

現状での狭いアクセス回廊と
壁画保護カーテン



中腹のテラス「獅子の入口」



「獅子の入口」より山頂へ

山頂の王宮跡

王宮より眺めた「水の庭園」

その他（国立博物館（コロンボ））

概観

展示例（改装後）１　レプリカ

展示例（改装後）２　展示ケースと
３カ国語表示ラベル

展示例（改装後）３　パネル展示

略　語　表

CCF	Central Cultural Fund	中央文化基金
ICOMOS	International Council on Monuments and Sites	国際記念物遺跡会議
JBIC	Japan Bank for International Cooperation	国際協力銀行
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MoCANH	Ministry of Cultural Affairs and National Heritage	文化遺産省
MoFP	Ministry of Finance	財務計画省
MoT	Ministry of Tourism	観光省
SLTB	Sri Lanka Tourism Board	観光局
TRIP	Tourism Resources Improvement Project	JBIC による観光セクター開発事業
UNESCO	United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization	
委員会	National Team Appointed by the Ministry of Cultural Affairs and Heritage to Formulate a Presentation Concept for the Display of the Cultural Heritage at Sigiriya within the Proposed Sigiriya Museum Building currently under construction シーギリア博物館展示基本コンセプト作成委員会	

第１章　調査の概要

１－１　調査の背景

７つの世界遺産をはじめ、多くの文化遺産、国立公園や海岸など観光資源に恵まれたスリランカ民主社会主義共和国（以下「スリランカ」と記す）にとって、観光セクターは外貨収入や雇用創出の面できわめて重要である。現在、海外から訪れる観光客は年間 55 万人（2005 年）で、欧米やインドからが多い。2002 年には反政府勢力との間で停戦合意が行われ、国外からの観光客数は増加傾向となっている。今後は、日本などアジア諸国の人々をどう引きつけるかが課題である。

世界遺産の１つ、シーギリア遺跡は、スリランカ北部のアヌラーダプラとポロンナルワ、キャンディの３都市に囲まれた「文化三角地帯」の中心にあり、観光ルートの入口に位置している（地図Ａ）。今でも考古局の博物館があるが、規模・運営ともに観光客が満足できるレベルに達していないのが現状である。

そのため、スリランカ政府は新たな博物館の建設に着手した。その資金は日本政府の「貧困農民支援」の見返り資金によるものである。展示設備や機材の一部も、日本政府の文化無償協力で整備される予定である。

また、国際協力銀行（JBIC）の「観光セクター開発事業（TRIP）」が 2006 年度より開始された。さらにスリランカ政府は国際協力機構（JICA）に対し、博物館での観光振興活動に関する技術協力も要請している。このような総合的支援により、日本政府はスリランカ政府と手を携えながら、観光のモデルサイトの構築に取り組んでいる。

１－２　プロジェクト形成調査の内容

１－２－１　調査目的

主な調査の目的は以下のとおりである。

(1)　シーギリア遺跡を核とした本地域の観光振興について、わが国技術協力の方向性の検討。
(2)　シーギリア博物館の基本コンセプト案に対するコメントと、展示計画案（概算額を含む）の作成。
(3)　上記に関し、スリランカ国側との共通認識の醸成。

１－２－２　調査団員構成

分　野	氏　名	所　　属
総　　括	後藤　光	JICA スリランカ事務所　所員　（観光セクター担当）
観光・博物館学	石森　秀三	北海道大学観光学高等研究センター教授
展示計画	阿部　嘉子	国際航業株式会社
展示デザイン	永金　宏文	国際航業株式会社

１－２－３　調査日程及び主要面談者

(1)　調査日程：2006 年 9 月 16 日から 9 月 30 日（15 日間）

調査日程表

日付		行　　動	団員名	主な出席者名
9/16(土)	PM	移動（成田→コロンボ）	石森・阿部・永金	
9/17(日)	AM	移動（コロンボ→シーギリア）	後藤・石森・阿部・永金	
	PM	現調：シーギリア遺跡周辺視察	後藤・石森・阿部・永金	
9/18(月)	AM	現調：シーギリア遺跡視察	後藤・石森・阿部・永金	シーギリア博物館コンセプト委員会 Ellepola 氏、de Silva 氏 CCF　プロマネ Prathiraja 氏 その他 CCF/TRIP 関係３名
	PM	移動（シーギリア→コロンボ）	後藤・石森・阿部・永金	
9/19(火)	AM	I 調：委員会・CCF	後藤・石森・阿部・永金	委員会　Bandaranayake 氏 Ellepola 氏、de Silva 氏 CCF Prathiraja 氏
	PM	現調：国立博物館視察	後藤・石森・阿部・永金	在スリランカ日本大使館　阿藤書記官、委員会 Bandaranayake 氏 CCF Prathiraja 氏 博物館　Ranjit 氏、その他１名
		I 調：財務計画省日本デスク	後藤・石森・阿部・永金	Pathirana 氏
9/20(水)	AM	I 調：委員会・CCF	後藤・石森・阿部・永金	委員会　Bandaranayake 氏 Ellepola 氏、CCF Prathiraja 氏
	PM	I 調：文化遺産省	後藤・石森・阿部・永金	文化遺産省　Abeywardana 大臣 Samarasinghe 次官、FA アドバイザー Jayaweera 氏、CCF Prathiraja 氏 その他省関係２名
		I 調：JBIC/TRIP 事業担当者	後藤・石森・阿部・永金	JBIC　Elapata 氏

9/21(木)	AM	I 調：委員会・CCF	飯田・石森・阿部・永金	委員会　Bandaranayake 氏 Ellepola 氏、Lakusinghe 氏 CCF Wijayapala 局長、Prathiraja 氏 その他２名
	PM	I 調：CCF　TRIP・シーギリア事業担当	飯田・石森・阿部・永金	CCF プロマネ Cooray 氏
		I 調：委員会・CCF	飯田・Serasinghe・石森・阿部・永金	委員会　Bandaranayake 氏 Ellepola 氏、Lakusinghe 氏 de Silva 氏、CCF Prathiraja 氏
9/22(金)	AM	在スリランカ JICA 事務所打合せ	植嶋所長・飯田・Serasinghe・石森・阿部・永金	
	PM	Ellepola 氏打合せ	石森・阿部・永金	委員会　Ellepola 氏
	PM	移動（コロンボ→バンコク→成田）	石森	
9/23(土)	AM	展示計画案作成・資料整理	阿部・永金	
	PM	展示計画案作成・資料整理	阿部・永金	
9/24(日)	AM	展示計画案作成・資料整理	阿部・永金	
	PM	展示計画案作成・資料整理	阿部・永金	
9/25(月)	AM	I 調：文化遺産省、CCF、JBIC/TRIP、委員会	飯田・Serasinghe・阿部・永金	文化遺産省　Samarasinghe 次官 FA アドバイザー Jayaweera 氏 CCF Wijayapala 局長、Prathiraja 氏 CCF-TRIP Cooray 氏
	PM	I 調：委員会・CCF	飯田・Serasinghe・阿部・永金	委員会　Bandaranayake 氏 Ellepola 氏、Lakusinghe 氏 de Silva 氏、CCF Wijayapala 局長 Prathiraja 氏
9/26(火)	AM	現地最終プレゼンテーション案作成	阿部・永金	
	PM	現地最終プレゼンテーション案作成	阿部・永金	
		文化遺産省　招待ディナー		
9/27(水)	AM	現地最終プレゼンテーション案作成	阿部・永金	
	PM	現地最終プレゼンテーション及び質疑応答	飯田・Serasinghe・（後藤）・阿部・永金	文化遺産省　Samarasinghe 次官 Jayaweera 氏、CCF Wijayapala 局長 Prathiraja 氏、CCF-TRIP Cooray 氏 委員会　Bandaranayake 氏、Ellepola 氏 de Silva 氏、JBIC Elapata 氏 財務省 Pathirana 氏 観光省 Ramanujam 次官、大使館 芦田書記官、JICA 植嶋所長　他
9/28(木)	AM	在スリランカ日本大使館経過報告	植嶋所長・飯田・阿部・永金	在スリランカ日本大使館　荒木大使 宮原書記官、渡邊書記官
	PM	資料作成、資料収集	阿部・永金	

9/29(金)	AM	在スリランカ JICA 事務所 打合せ	Serasinghe・阿部・ 永金	委員会　Ellepola 氏
		関連機関挨拶	飯田・Serasinghe・ 阿部・永金	文化遺産省
	PM	移動　（コロンボ→バンコク→ 成田）	阿部・永金	
9/30(土)	AM	移動　（コロンボ→バンコク→ 成田）	阿部・永金	

(2)　主要面談者

①博物館展示基本コンセプト委員会（文化遺産省任命、以下「委員会」）

・ Deshamanya Dr. Roland SILVA

元考古局長、元中央文化基金（以下「CCF」）局長

・ Prof. Senaka BANDARANAYAKE

元ケラニア大学副学長、駐仏大使、UNESCO 大使、元 CCF 局長

元 CCF シーギリアプロジェクト局長、シーギリア考古学専門家

・ Deshamanya Archt.　Ashley DE VOS

建築家、元 ICOMOS スリランカ代表、遺跡保存・環境保護専門家

・ Mr. Siri Nimal LAKUSINGHE

元国立博物館所長、元考古学高等研究所所長、博物館学専門家

・ Prof. Archt. Nimal DE SILVA

現考古学高等研究所所長、モラトゥワ大学建築学教授、遺跡保存・絵画保存専門家

・ Archt. Chandana ELLEPOLA

建築家、現 CCF シーギリア保存プロジェクト局長、新博物館設計者

②シーギリア博物館実施機関（CCF）

・ Dr. W.H. WIJAYAPALA

CCF 局長

・ Mr. P.A.S. PRATHIRAJA

シーギリア博物館建築プロジェクトマネージャー

・ Mr. Nilan COORAY

CCF 開発局長、兼 JBIC/TRIP プロジェクトマネージャー

③その他主要面談者

文化遺産省

- Hon. Min. M.Y. ABEYWARDANA　大臣
- Mr. G.L.W. SAMARASINGHE　次官
- Mrs. H. JAYAWEERA　FA アドバイザー　他２名

財務計画省

- Mr. M.P.D.U.K Mapa PATHIRANA　対外援助局　日本課長

観光省

- Dr. Prathap RAMANUJAM　次官

日本大使館

- 荒木喜代志　大使
- 阿藤隆司　書記官（文化無償担当）
- 芦田克則　書記官（観光セクター担当）
- 宮原勇治　書記官
- 渡辺泰造　書記官

JBIC

- Mr. A.I. ELAPATA　プロジェクトスペシャリスト

JICA

- 植嶋　卓巳　JICA スリランカ事務所　所長
- 飯田　学　JICA スリランカ事務所　所員
- Dr. Priyantha SERASINGHE　JICA スリランカ事務所　現地所員

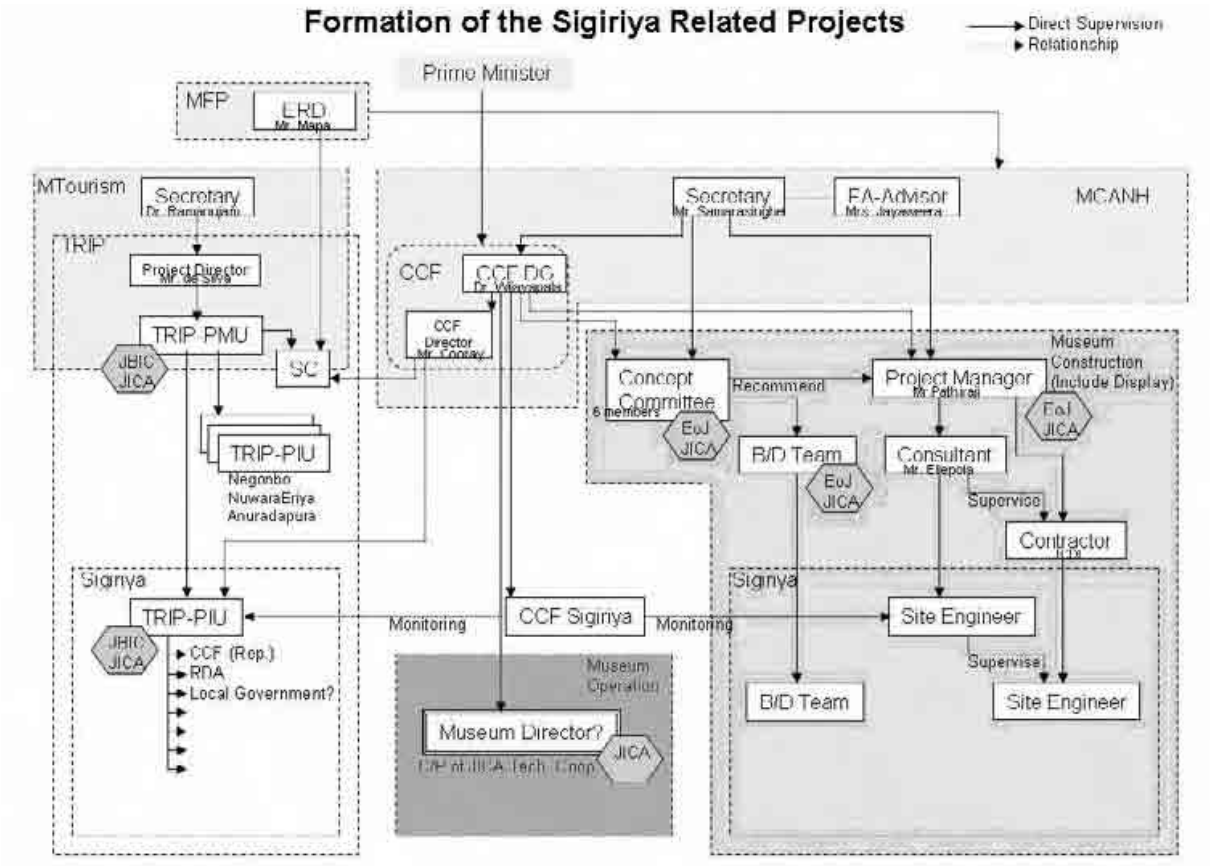


図１－１　シーギリア博物館及びシーギリア周辺観光振興活動関連組織　相互関係図

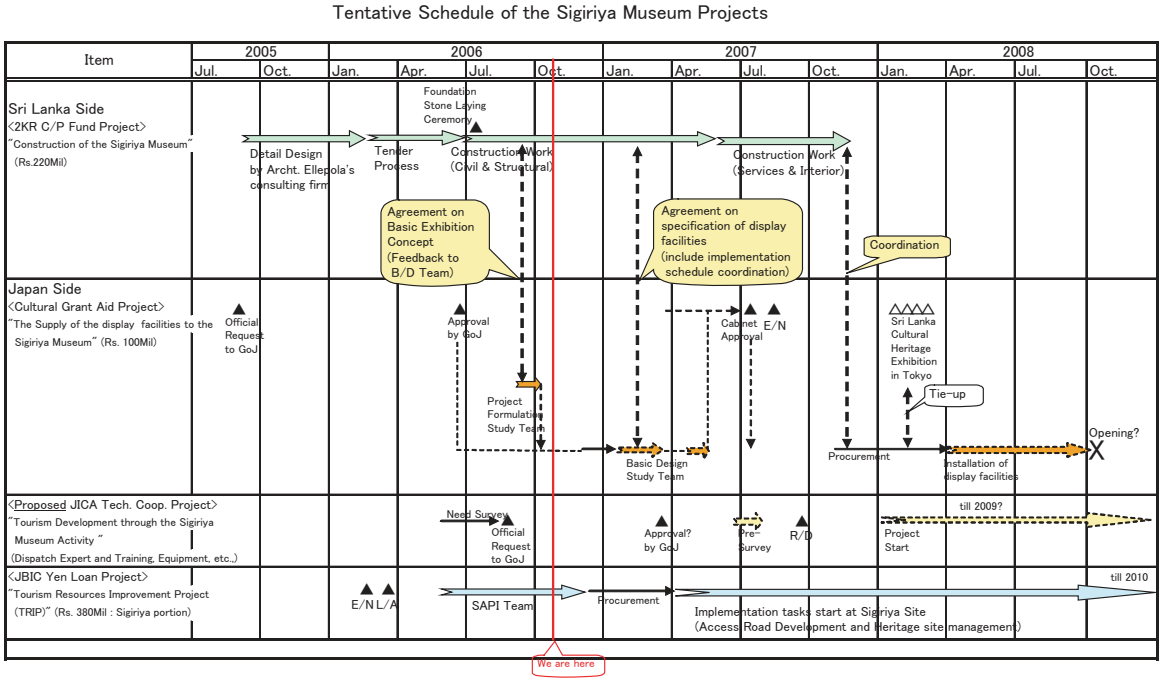


図１－２　シーギリア博物館及びシーギリア周辺観光振興活動　暫定予定表

１－３　調査結果概要

１－３－１　シーギリア博物館展示計画案

⑴　スリランカ国側、特にコンセプト委員会及びCCFとの協議をとおして以下の点を確認した。

1) スリランカ国側は博物館基本コンセプトとして、純粋に「考古学遺跡としてのシーギリア」を紹介する施設と考えていた。

2) スリランカ国側は詳細な展示内容案を準備しており、これはそのまま使える高度な内容である（添付プレゼン資料参照）。

3) スリランカ国側は、スリランカ国作成の展示内容案を具体化し、一級、かつ独特な、世界に通用する博物館となるような先進的な展示計画案の作成と、その実施においての機材とノウハウの援助を、日本側に求めている。

4) 機材に関しては保守しやすく技術レベルに適しているもののうち、可能なかぎり先進的な提案を日本側に求めている。

⑵　これを受けて、調査団は展示基本コンセプトとして以下の点をスリランカ国側との協議のうえ、提案した。

1) スリランカ国側が現在建築中のシーギリア博物館の建築設計を生かし、「考古学博物館」としての展示エリアと「ビジターセンター」的な目的も確認された、エントランスゾーンを明確に分けるとよい。分けることによって、観光振興活動での博物館利用の可能性も、博物館展示の魅力も、増加する。

2) 展示エリアでの展示内容はスリランカ国側が提示した内容を最大限活用するが、ストーリー性のある展示となるように中心となる展示を明確にして、展示内容ごとの割り振りもダイナミックな変化をつけ、ビジターへのメッセージがより明確に伝わるようにするとよい。

3) メッセージの明確化には、情報表示に（スリランカ国の従来の博物館より）重点を置き、情報をレベル化し、博物館内でビジターが全体の展示の流れのなかでの自分の位置が確認できるようにする必要がある。

⑶　また、展示計画案として具体的に以下の項目に関して協議し、提案した。

1) 中心となる展示案としてはシーギリア遺跡中心部のガラス張り床下、三次元的な「ランドスケープモデル」が、中心となるメッセージにも合致し、インパクト・独特性

もあるとして提案した。スリランカ国側も賛同し、有力案として現地最終プレゼンテーションで関係者に提示した※。

2) その他の展示デザインに関しても具体案を示し、使用機材・現在の建物設計に対する影響などにも言及したうえでスリランカ国側も賛同し、有力案として現地最終プレゼンテーションで関係者に提示した。

3) 上述の中心となる展示、及びその他の展示関係機材の概算額を現地最終プレゼンテーションで提示し、文化無償資金協力でカバーしきれない額であることを双方が確認した。

4) スリランカ国側は、自国で製作できる展示例・展示機材などを具体的に意見提供し、世界に通用する博物館を目指し積極的に参加する意思を各レベルで示した。同時に、展示製作など行う場合、その指導的立場で日本の技術協力を求める姿勢であることも示唆した。

※　最終プレゼンテーション質疑応答で、床下（足下）に寺院遺構を含むモデルを展示することについて宗教・文化的観点での敏感さを促す意見がでた。よって、今後スリランカ側でこの点がさらに協議されると思われ、中心となる展示案は変更する可能性もでた。

１－３－２　シーギリア地域の観光振興にかかるわが国技術協力の方向性

(1)　シーギリア遺跡周辺地域に関して以下の点を確認した。

1) 文化ツーリズムにおける観光客誘致には磁力ある文化遺産が必要であるが、シーギリア遺跡には十分その磁力がある。

2) シーギリア遺跡周辺には遺跡、宗教施設、バイオゾーン等アトラクションが存在し、コンパクトで密度ある観光エリアとなる資質もみられる。しかし、現状では特に客を宿泊、滞在させるような魅力に欠けるところがある。

3) JBIC/TRIP 事業のシーギリア・サブプロジェクトの活動計画は当面インフラや安全設備などに集中するが、例えばマーケティング（例:土産物開発、情報発信）やコミュニティー・デベロップメントなど JBIC/TRIP の業務計画内でシーギリアエリアに適用すべき項目がある。

(2)　シーギリア博物館と観光振興の連携に関しては以下の点を確認した。

1) 遺跡保護と観光振興の連携が不可欠である。

2) 新博物館は革新的博物館経営によって、国内での「博物館革命」のさきがけになりうる博物館である。

3) ビジター教育や情報発信面を強化することによって、博物館が直接観光振興の場となる。

4) ニーズを把握したうえでの、観光芸術の創造とミュージアムショップの活用、屋外劇場の利用を考えるべきである。

5) 博物館・博物館ビジネス先進国である日本にはこれらの面での技術協力ができる。

(3) 具体的には以下の提案をした。

1) 遺跡保護と観光振興の連携をする、Heritage Management/Heritage Tourism のスリランカ人専門家を養成するべきである。

2) Museum Coordinator という職種を配し、対外交渉・博物館間の連携・ニーズに合った情報発信能力を強化する必要があるが、スリランカ人人材育成と技術協力両面で協力が望ましい。

3) 博物館利用対象者第一の国内の学生、その他観光客ともに、Museum Educator という博物館教育専門職によってビジター体験の充実を図ることが必要である。この点でもスリランカ人人材育成と技術協力両面で協力が望ましい。

4) 観光省や自治体などにおける観光行政担当者に対する研修事業を行う必要がある。

5) 無形文化遺産活用、観光芸術創造、観光マーケティングなどの技術協力が望ましい。

第２章　スリランカにおける観光セクター概況

２－１　観光資源と観光客の動向

(1)　観光資源

スリランカ国は、南西部及び東部に広がるビーチエリア、世界遺産級の文化遺産が点在するフラットな内陸の北部・東部乾燥地帯、内陸南西部のウェットエリア、冷涼な気候と茶畑で知られる中央高地エリアと、多様なランドスケープを有する国である。気候は熱帯性モンスーン気候に属し、中央高地を除けばほぼ年間を通して 25 ～ 28 度と暑く、雨期と乾期が存在する。多様な地形と気候条件を持つスリランカには多様な自然資源(動植物)が生息し、「自然の楽園」と呼ばれる場所となっている。

スリランカにおける観光資源は自然資源と文化資源に大きく分けられ、自然資源の第１はビーチである。南西海岸地帯は特に各種ホテルリゾートが立ち並び、マリンスポーツなどの設備もある。また、世界自然遺産でもある南西部のシンハラジャ国立公園はじめ、南東部、中央高原にも大型動物サファリや野鳥観察の盛んな国立公園があり、ここも観光客を集める。さらに、セイロンと呼ばれた時代から有名な紅茶の茶畑は中央高地に広がり、イギリス植民地時代のコロニアル建築などとあわせるとほかの地帯とは異なる趣向を見せる。その他、植物園、ゾウの孤児院、滝など自然関連のアトラクションは豊富である。

しかし、文化資源も多々存在する。国内における文化資源は、有形のものは現在も信仰の対象となっている宗教施設と考古学的遺産が主である。ほかに無形文化遺産ももちろんある。文化遺産は主に文化三角地帯と呼ばれる国の中央部に集中しており、世界遺産は全国で７カ所、うち文化遺産は全国で６カ所登録されている（表２－1)。

これら文化遺産のうち、ポロンナルワ、アヌラーダプラ等、都市をまるごと遺産として指定しているものは各エリア内で多数の遺跡･史跡を含む。また、世界遺産以外も含む全国では、例えば考古局の管理遺跡地区は実に 220 カ所を超え、文化遺産の多さをうかがわせる。また、生きた宗教施設としての寺院も各地に点在し、アジア各地の仏教圏から巡礼客も訪れている。

文化資源のうち、主要なものは文化三角基金（CCF）という、文化遺産省管轄下（同時に首相直属でもある）の機構によって管理・運営されている。CCF 直轄の遺跡・史跡は表２－１のとおりである。

表２－１　スリランカ国の UNESCO 世界遺産

地　域	文化遺産	概　　要
北部乾燥地帯	ポロンナルワ　（古都）	スリランカ国中世（紀元後 11 ～ 13 世紀）の王都であり、古代の建築、美術、彫刻等が王宮跡及び寺院跡に数多く残る一大遺跡地帯。
北部乾燥地帯	シーギリア　（古都）	先史時代からキャンディ王朝時代まで長い歴史を刻む遺跡。世界的に有名なのは紀元５世紀にカシャパ王が築いた岩山上の王宮跡と岩山側面の美しい壁画や建造物。
北部乾燥地帯	ダンブッラ石窟寺院	2000 年以上もの歴史がある南アジアでも最大級の石窟寺院。
北部乾燥地帯	アヌラーダプラ　（聖都）	仏陀が悟りを開いた菩提樹の分木が紀元前３世紀に渡来し現在も守られている、仏教の聖地。スリランカ国の政治的・宗教的中心として 993 年に廃都となるまで 1300 年間栄えた王都でもある。
中央高地	キャンディ　（聖都）	イギリスに植民地化される 1805 年までの約 300 年間、王朝の都であった。仏歯寺で有名。
南西部	ゴール　（史跡）	アラブ商人の東方貿易の中継地として栄え、その後はポルトガル、オランダの要塞が築かれた町。往年の町並みが残る。
	自然遺産	
南西部	シンハラジャ国立公園	低地熱帯雨林の保護区。

表２－２　CCF 直轄の遺跡・史跡

地　域	文化遺産	うち、CCF 管轄の遺跡
北部乾燥地帯	ポロンナルワ　（古都）	Alahana Pirivena 僧院大学跡、王宮跡、王都跡
北部乾燥地帯	シーギリア　（古都）	王宮跡と庭園跡
北部乾燥地帯	ダンブッラ石窟寺院	石窟寺院、先史巨石墓群
北部乾燥地帯	アヌラーダプラ　（聖都）	Jetavana 仏塔及び寺域、Abhayagiri 仏塔及び僧院
中央高地	キャンディ　（聖都）	仏歯寺を含む寺院群

(2)　観光客の動向

・ 2004 年 12 月の津波の影響はみられるが、国際観光客数は伸び続けている（2005 年度で 55 万人、5.5%増）。しかし、収入としては減少がみられ、回復が待たれる状態である。

・ 年間サイクルとしては、11 月から１月にかけてピークとなり、さらに８月の「ペラヘラ祭り」期に小さいピークがある。

・ ヨーロッパ客が一番多く、続いてインド、日本人は全観光客数の３～４％（２万人以下）を占める。

表２－３　過去２年の外国人観光客トップテン

	2004 年			2005 年		
順位	国名	%	人	国名	%	人
1	英国	18.8	106,645	インド	20.6	113,323
2	インド	18.6	105,151	英国	16.9	92,629
3	ドイツ	10.3	58,258	ドイツ	8.4	46,350
4	フランス	5.3	29,996	フランス	4.9	26,653
5	オーストラリア	4.1	23,247	オーストラリア	4.7	25,986
6	オランダ	3.8	21,455	米国	4.6	25,272
7	**日本**	**3.5**	**19,641**	モルジブ	4.5	24,576
8	イタリア	3.3	18,862	カナダ	3.9	21,185
9	米国	2.7	15,126	**日本**	**3.1**	**17,148**
10	モルジブ	2.7	15,013	オランダ	2.8	15,156

出所：SLTB

・ 津波以前の統計では、平均滞在日数は 10 日前後であった。

・ 国内滞在先別に見ると、北部乾燥地帯の文化観光エリア（アヌラーダプラ、ポロンナルワ、シーギリア）は全体の 10%前後の観光客しか誘致しておらず､自然観光が文化観光を上回っている現状を提示する。統計上、そのなかでのシーギリア周辺は８％前後の客を獲得しているが（表２－４)、これは周辺大型リゾートホテルの数値と混在しているため、シーギリア遺跡周辺（調査対象地域）の数値とは一概に言えない。

表２－４　2005 年度　エリア別観光客滞在日数（人・日）

	国外客（人）	%	国内客（人）	%
コロンボ	965,541	34	141,198	17
コロンボ近郊	517,557	18	149,665	18
南西海岸部	666,320	23	203,116	25
東部	20,572	1	12,573	2
中央高地	140,710	5	70,485	9
キャンディ	263,297	9	103,203	13
アヌラーダプラ周辺	31,811	1	31,807	4
ポロンナルワ周辺	37,062	1	31,318	4
シーギリア周辺	**214,705**	**8**	**74,842**	**9**
合　　計	2,857,575		818,207	

出所：SLTB

・ シーギリア遺跡にかぎっての国別ビジター情報は存在しない（外国人・国内客総数はセクション４－２参照)。視察状況及び聞き取り調査では、外国客のうちやはりヨーロッパ客が一番多く、インドなど南アジアの観光客は比較的少ない。

スリランカ国は自然と文化資源の双方を備えた観光資源が豊かな国であるが、表２－３のとおり日本人客の訪問はいまだ相対的に少なく、表２－４のとおり現状としては自然観光資源の利用が大多数を占めている。

２－２　観光行政

観光に関する行政は観光省（Ministry of Tourism）が担っており、その所管の下に以下の３組織が活動を行っている。

- Sri Lanka Tourist Board (SLTB)
  業務は観光開発及び観光促進、そしてホテルの格付け等、観光業の規制。
- Ceylon Hotels Corporation (CHC)
  ホテル経営、運輸業、旅行代理店、航空券販売といった観光全般を手がける半官半民の組織。
- Sri Lanka Conventions Bureau (SLCB)
  観光省により設立された組織で、会議コンベンション等の促進が業務。

しかし、文化観光資源、特にシーギリア遺跡周辺の管轄は前述の CCF である。CCF は文化遺産省 (Ministry of Cultural Affairs and National Heritage) の所管の下にあり、組織としては省の傘下に、

- 中央文化基金（Central Cultural Fund）
- 考古局（Department of Archaeology）
- 国立博物館局（Department of National Museum）
- 文化局（Department of Cultural Affairs）

と関連組織が並列に並ぶ。

CCF は文化・宗教施設の開発、修復、保護、その他に対する運営管理機関として 1980 年に法令によって発足した。首相を長とする理事会によって運営され、現実的には時として文化遺産省を凌ぐ政治力がある団体となっている。

関連組織の関係を、シーギリアを例として解説すると、考古局はすべての遺跡に対して法的責任と法的所有権を有し、遺跡に付随する博物館の多く（現、シーギリア博物館含む）を所轄する。シーギリア出土遺物の一部、特に重要遺物は国立博物館に収蔵される。観光行政の観点から重要なのは、CCF が文化三角地帯の観光収入（入場券売買）を一手に握っていることである。

２－３　ドナーの活動概要

シーギリア周辺で重要なドナーはJBICのTRIP（Tourism Resources Improvement Project）である。シーギリアはTRIP活動エリア４カ所のうちの１カ所である（他にはアヌラーダプラ、ヌワラエリヤ、ニゴンボ)。

TRIPの主目的は以下のとおりである。

・ 観光振興目的のインフラ整備
・ 観光振興目的のマーケティング
・ 観光振興関連の人材育成
・ 観光振興関連の地域コミュニティ・デベロップメント

シーギリア遺跡周辺でのTRIPサブプロジェクトの活動計画には次の２つの焦点があり、両者とも上記の主目的中、「インフラ整備」に該当する。

(1)　遺跡自体においては、ビジター関連施設の整備を行う。

すでに承認済の案は以下のとおり。

・ シーギリア岩山中腹部、フレスコ画閲覧回廊の拡大
・ シーギリア岩山頂上の王宮へのアクセス路の拡大と双方向化
・ シーギリア岩山中腹部のテラスに地下式トイレの設置
・ 岩盤落下防止の調査と工事
・ 参道の整備と造園
・ 乾燥地帯植物園の整備（情報提供とピクニックエリア設置）

懸案事項は以下、

・ シーギリア岩山頂上の保存修復活動用の物資運搬用滑車の新設

(2)　遺跡周辺では、RDA（Road Development Authority)、地方行政（Dambulla地区行政）と協力して周辺道路アクセスの改善を行う。

どちらの活動にも、JBIC側は遺跡保存という側面の重要性を認識し、サブプロジェクトの窓口機関にCCFを指定して積極的に遺跡保全を心がけている。具体的に言えば、省庁の垣根を越えた新しい試みとして、

・ 国家レベルではJBIC―財務省―観光省―CCFの連携
・ 地方レベルでは文化省―RDA―地方行政―CCFの連携

と、体制としてCCFを組み込む体制をつくった。ちなみにTRIPプロジェクトには他の「文化観

光エリア」も含まれるが、このようにCCFが窓口となるTRIPサブプロジェクトはシーギリア・サブプロジェクトのみである。これには、シーギリア遺跡周辺のほとんどの現存施設が「考古保護区Archeological Reserve」内に建っており、CCFが法的には立ち退きなども要請できる強力な立場にあるからと思われる（しかし、現実には景観保護ポリシーなどでCCF側は住民との意見対立時に結果的には負けており、いろいろ複雑な事情があるようである）。

表２－５　JBIC/TRIPプロジェクト、シーギリア・サブプロジェクトのショッピングリスト

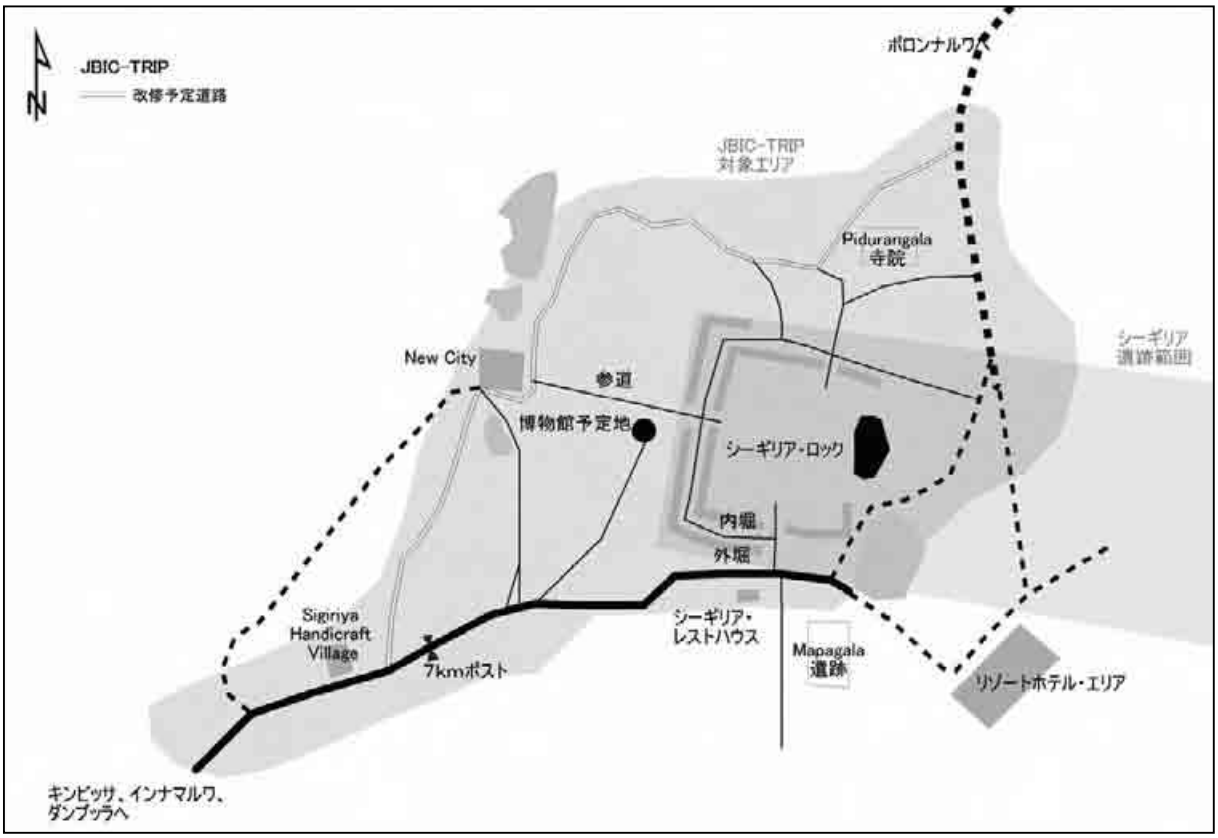
項　目	詳　細	申請予算（Rs.）
文化遺産改善	・フレスコポケット観覧プラットホーム改善（幅増、手すり追加、2.2km×1.2m）	11,200,000
	・鉄製螺旋階段の補修・改善（材料、労働、運搬）	6,400,000
	・ビジター安全設備導入（西側通路付近の落石防止または撤去13カ所）	8,000,000
	・ビジター設備：　インナーロード沿い３カ所にトイレ設置、「ライオンの前足」テラスにて地下トイレと飲み物販売施設設置（大型ポンプ、パイプ、地下ポンプ等の設置含む）	13,000,000
	・機材供与（頂上での考古修復活動のため、ウインチ機材購	3,000,000
	・造園改良（現存するハーブ園（４エーカー）の改良、シーギリア博物館周辺のランドスケーピング、駐車場及び歩行者の動線の改良（インナーロード改善）、国内客用のピクニックエリア	5,000,000
		46,600,000
アクセス改善	・アクセス道路　8.8km／分 ・（Innamaluwaより Sigiriya Villageまで） ・路盤造成、側溝の拡大、路面工事、橋、土留め、下水設備	42,000,000
	・アクセス道路　6.0km／分 ・（Mahanaragamより７kmポストまで） ・道幅増、路盤造成、側溝の拡大、路面工事、路肩工事、橋、土留め、下水設備等々	18,000,000
		60,000,000
シーギリア・TRIPサブプロジェクト申請予算　合計		106,600,000

出所：JBIC面談者提供

現時点ではCCFが観光振興プロジェクト窓口機関・複数省庁連携担当としての役割に慣れておらず、十分に担いきれていないというのがJBIC担当官の見解であった。また、シーギリア・サブプロジェクトとしてTRIPの「インフラ整備」以外の目的の計画予算の使用申請をすることも可能であるが、これもCCFが率先して計画・行動しなければならず、この点に関してもCCFの動きが他のサブプロジェクトに比べて鈍く、このままでは追加予算を取れないだろうとの見解

も示した。追加予算対象案としては、「人材育成」目的にからめた技術協力、「マーケティング」目的にからめた博物館ビジター用映像ソフト制作なども可能であろうとの見解を示した。

JBIC/TRIP の活動状況であるが、現時点で事業はすでに開始され、コンサルタントを募集している段階である。2010 年にすべてのサブプロジェクトが終了する予定である。シーギリアに関しては博物館完成との兼ね合いがあるので、一番早く、2008 年度にすべての活動が終了する予定である。



出所：JBIC 提供

図 2 － 1　シーギリア・TRIP サブプロジェクトエリア地図

第３章　シーギリア遺跡を取り巻く状況

３－１　シーギリア遺跡の概要

シーギリア遺跡はスリランカ国のほぼ中央、北部乾燥地帯（ドライゾーン）南端に位置し、中央高地からの主要道路、北の灌漑低地の各河川流域の上流に位置した交通の要衝であり、歴史的にも重要な場所であった。

出所：遺跡分布図、委員会プレゼンテーション資料より

図３－１　歴史的中心としてのシーギリア

現在では、コロンボからは車で約５時間、中央高地の町キャンディからは約３時間である（地図Ａ参照）。鉄道は通っていないが、チャーター機で利用できる空港は存在する。ほとんどの外国人観光客は乗用車またはバスをチャーターして訪れる。

シーギリア遺跡は、ジャングルの中に突如そそり立つ、垂直に 200m 切り立った岩山としてまず訪問者の目に入る（写真－１）。現地に着くと、その岩の上に王宮が建築されているという驚きとそこに 18 年間立てこもったカシャパ王の悲劇の伝説、岩山上の王宮の巨大な獅子型入口、王宮にともなう庭園、そして有名な美女のフレスコ画などの見所がある。フレスコ画や王宮にたどり着くには垂直な岩面に張り付くような古い鉄製の階段や通路を上ることになり、スリルもあり地形的変化に富んだ遺跡訪問体験となる。

写真－１

歴史背景をまず説明する。

シーギリア遺跡は有名なカシャパ王伝説の時代だけでなく、それ以前、それ以降のスリランカ国歴史のハイライトを詰め込んだような遺跡である。スリランカの歴史は先史時代（農耕以前)、原史時代（史書以前)、低地乾燥地帯で中央集権的巨大王朝が発展した歴史時代前半（アヌラーダプラ前・中・後期とポロンナルワ期（＝中世))、南西海岸部に政権が移り、ポルトガル、オランダをはじめとするヨーロッパの諸勢力に翻弄され始めた歴史時代後半、そしてついにイギリスの植民地（＝近世）となるわけであるが、シーギリアには先史、原史、歴史時代前半の各期の遺跡や遺構が揃い、そして後・近世についてもヨーロッパ勢力との抵抗の歴史などが遺跡・遺物として残っている。

まず、先史時代には、シーギリア周辺から重要な人骨はじめ遺物が出土している。原史時代は、南アジア地域でも早期に大規模な鉄生産が始められた跡がシーギリア周辺から発見されており、南アジア中に分布する「巨石墓」の国内最大規模の墓群もシーギリア近辺から発見されている。

スリランカの古代史は中央集権的に大規模な灌漑工事を施し、コメを栽培し、国内全体を支配した王朝を特徴とする。これら王朝が国家宗教として早期に仏教を取り込んだおかげで、仏陀が悟りを開いたといわれる菩提樹の分木や仏歯（仏舎利）も早くから伝わり、寺院・僧院も多数建立され、古くは中国から法顕上人も訪れるほどの宗教・思想的中心となって栄えていた。現在のスリランカでは上座部仏教が信仰されているが、古代においては大乗仏教思想発展の地でもあり、シーギリアにはその大乗仏教期の僧院跡がある。建物跡だけでなく、仏像や関連遺物、壁画なども発見されている。

僧院としてのシーギリアが一時期王宮に転用され一番の建築ラッシュを迎え、現在のシーギリア遺跡が形づくられた。これがカシャパ王の時代である。紀元後５世紀末に賢王ダトゥセナという、多数の灌漑工事を成し遂げ、王朝を栄えさせたことで有名な王がでた。この時期のスリランカの古代王朝はアヌラーダプラを首都としていた。が、王には２人の息子がおり、王は次男で妾腹のモガラナを寵愛したため、長男カシャパはついに父王を殺してしまい、弟モガラナはインドに逃げた。王となったカシャパはそのあと報復を恐れてアヌラーダプラからシーギリアに遷都し、岩山の頂上に王宮を築き、18 年間立てこもったのである。18 年後に弟モガラナが南インドより傭兵隊を引き連れてシーギリアを包囲し、戦闘の末、カシャパ王は孤立し自刃する。弟モガラナはその後アヌラーダプラに再度遷都した。

カシャパ王在位の間（一説ではそれ以前にダトゥセナ賢王によって）シーギリアは王宮として整備され、西側の王の私庭である「水の庭園」、頂上の王宮、そして東側に広がる廷臣の居住域を含む王城が建設された。これらは早期の都市計画・造園・建築の発展例として考古学的にも重要である。また、庭園から望める西側岩肌に現在も美女（一説では天女）のフレスコ画が残るが、

これはもともと西側の岩肌全面に描かれていた痕跡も見られ、美術的にも特筆すべき遺構である。

シーギリア遺跡はアヌラーダプラに政権が戻ってからも仏教僧院として存続し、また要砦として利用された。王宮跡にはフレスコ画を愛でる「元祖・観光客」が訪れ、「鏡の壁」と称される磨かれた壁面には多数の「落書き」詩が書き残され、現在でもシンハラ語及び文学の研究の礎となっている。また、フレスコ美人画の立体的レプリカで「元祖・観光土産」であるとされるテラコッタの像も発見されている。

時代をさらに経て僧院も廃れたあと、ヨーロッパとスリランカ国家との争乱時代に、シーギリアは交通の要衝及び要砦としてスリランカ側ゲリラに利用された跡がみられる。

このような歴史背景のあるシーギリア遺跡だが、ビジターの訪問の順番を追って、現状を説明してみたい（地図Ｂ参照）。

写真－２

現状では「カシャパ王の歴史」以外に認識される部分は少ない。例えば､訪れた外国人ビジターは遠目に岩を目にとどめたあと、車で直接ゲートまで乗りつけてしまう。ゲートは王城域の三重の城壁と堀のうち、内堀・内城壁のすぐ外に位置する。城壁と堀は復元修理されており、遺跡の王城としての規模は目に見える形で提示されている。

ゲートを通ると、そこは王宮西側の、カシャパ王の私空間でもあった水の庭園である。庭園は曼荼羅のように東西南北の垂線を基本に綿密に設計されたものであり、水利工学的にも古代の技術として面白い点が多数あるが、説明されないと、ただ一部復元されたレンガ遺構と緑地、池が配置されているのがわかるだけである（写真－３）。庭園部分はイギリス式の考古哲学に則り、半分は発掘・復元修理され、半分は未発掘のまま保存されている。

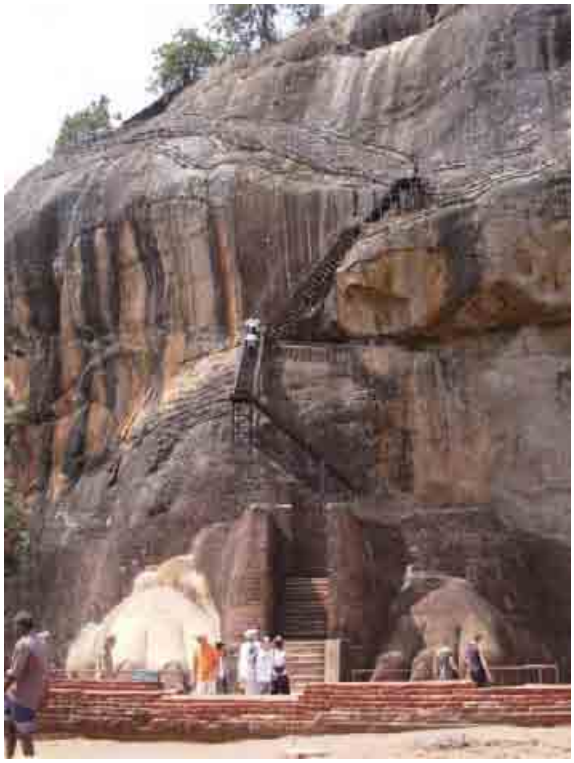
写真－３

水の庭園を通り抜け岩山本体に向かう途中に巨石が転がるエリアがあり、ここに僧院跡、及び巨石を利用した異なる種類の庭園建築が広がる。これも、説明なしでは簡単に通り過ぎてしまうのが現状である。スリランカ国側には遺跡ごとに番号を振り、ルート化したり、説明板を設置し、地図パンフレットを用意する予定はあるようだが、現状では説明板も数箇所あるのみで、地図も古い英語説明図が有料で手に入るのみ（しかも入口では売っていない）である。現地人ガイドを雇うのが基本であるようだが、現状では公許ガイドの区別ができる制服や名札などもなく、外国人個人客にはガイドを雇わずに市販のガイドブック片手に回る者も多数見られた。

写真－４

岩山では、ビジターはまず西面にある鉄の螺旋階段を上り、美女のフレスコ画に対面する（写真－４）。もう一本ある螺旋階段で下ると、古代詩の書かれた「鏡の壁」及び王宮時代の回廊に出て（写真－５）、そのまま「獅子の入口」のある岩山中部・北側のテラスに到着する。

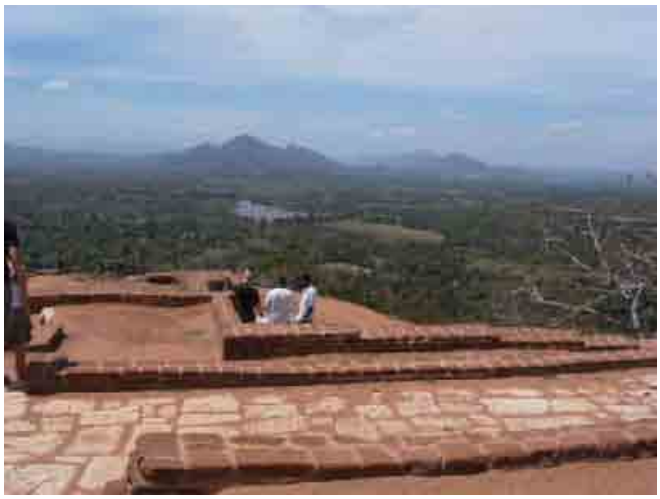
写真－５



写真－６

獅子の入口はレンガで造られていたものを 20 世紀初頭にイギリス考古学者が一部復元修理した形で残っている。獅子の前足にはさまれた入口から、岩山北面を蛇行する鉄の狭い階段を上って岩山頂上の王宮に到達する（写真－６）。

岩山頂上の王宮は建物の基礎部分がレンガ遺構として残っており、建物の形をたどることができる（写真－７）。また、王座など一部の石製の遺物がそのまま残っている。これら王宮建物も、建物名だけは説明板があるが、くわしい説明などはなく、例えば頂上から一望できる周辺遺跡に対する情報もなく、ただ「岩山の上に建物があった感動」だけで終わってしまっている。



写真－７

王宮を見たビジターはまた北面の階段を降りる。「獅子の入口」テラス以降は混雑を避けるために別ルートで水の庭園を抜け、ゲートに戻る。この帰路ルートにも僧院跡、王宮関係の建物などがあるが、ともすれば見落としがちである。

ゲートを出ると 50m ほど離れた地点にバンガロー状の建物があり、これが既存の博物館となっている（チケットを持たずに来たビジターは、チケット売り場が博物館裏手に位置しているために､博物館に先に入るかも知れない)。博物館は考古局により運営され､現在では５名程度のスタッフが、主に管理とセキュリティーに関して管理している。展示遺物は３部屋程度に展示され、ほとんどが土器片であり、重要遺物は他博物館（コロンボの国立博物館など）または奥の戸棚に鍵をかけてしまってある。この設備も遺跡同様に説明が少なく、興味ないビジターは５分もかからずに通り抜けてしまう程度の展示と規模である。博物館の既存機材は特にない（展示品は壁に直接打ち付けた棚等に並べてあり、あとは事務机と木製の戸棚などである)。この建物は岩山頂上及び入口付近から見ると目立つため、景観保護の観点から新博物館完成後に取り壊す予定である。現在のチケット売り場あたりの、植生に隠れた建物の一部は、新博物館の収蔵庫用に残す可能性もあるとの意見が聞かれた。

３－２　スリランカにおけるシーギリア遺跡の位置づけ

スリランカ国におけるシーギリア遺跡は、本当に特別な位置を占める。遺跡は歴史的重要性のみでなく、建築・美術・文学・言語学・工学的にも国内では情報量と情報の質において群を抜いているというのがシーギリア研究者の意見である。例をあげれば、フレスコ画の美術的価値、詩文の文学的・言語発展史上の価値、「水の庭園」の計画庭園としての南アジアでも早期の完成された形態、中国長安に次ぐ古さと計画性をみせる都市設計、灌漑施設のエンジニアリングや庭園での細かな導水にみられる古代工学・水資源工学の発達、レンガ・木材を使用し、巨石を元位置のままオーガニックに取り込む形態は技術的に難しくコンセプト的に新しい建築様式などである。

上述のとおり、シーギリア遺跡はスリランカの各重要時代区分（先史時代、原史時代、歴史時代（アヌラーダプラ王朝各期、中世、近世)）に何らかの関わりをもつ遺跡である。カシャパ王が立てこもり、岩山の上に王宮を築き上げた 18 年間ばかりが強調されがちだが、その遺跡としての真価は時間軸の深さにある。

現状では、「岩山の上に王宮がある」奇異として外国人観光客の一部には知られ、国内観光客も主にカシャパ王の伝説のみをシーギリアの歴史的情報として認識しているのが現状である。上述の情報がよりよくビジターに伝われば観光資源としての価値は上がると考えられる。

3－3　シーギリア遺跡の周辺環境

シーギリア遺跡周辺のアトラクションを以下に記す（地図 B 参照)。

(1)　Pidurangala 寺院

国内巡礼客には知られている近隣の僧院で、シーギリアを見渡せる観光スポットとしても見事であるが、現状での外国人観光客への知名度は低い。

(2)　Mapagala 古代城砦

カシャパ王が立てこもった時代より古く、同じように岩山を城砦化した跡がある遺跡。考古局の管轄であるが、案内人や情報表示などが無いために、訪問者もいない。

(3)　New City 土産物店と参道

シーギリア遺跡保護のため、CCF が New City に住民移転を行い、住宅、土産店施設、参道、寺院などを建設し開発したエリアがある。国内観光客の大型バスの発着場所となっており、それなりの賑わいは見せるが、土産物の質は悪く、周辺の清掃整備もされておらず、外国人観光客を引き付ける要素は現状では少ない。寺院は、シーギリア岩山頂上からの景観を考慮して計画整備されたが、その後僧侶らによってコンクリート製の大仏が建立されたことから、CCF 側研究者と地元民の不和と景観保護に関する見解の相違を物語るものとなっている。

国内観光客にしか現状では利用されていない New City と参道であるが、JBIC/TRIP は参道を整備し、外国人観光客にアピールするような施設としたいようである。しかし、その具体的内容は面談者によってまちまちであり、何が計画されているのか不確かな状況である。聞き取り調査では、主な案として以下の２案がある。

1)　外国人観光客専用の参道を New City から遺跡入口まで現存の道に並行して整備し、牛車（スリランカの田舎でまだ見られるもの）やゾウの乗物体験というエンターテインメント的要素を追加する。そのためには外国人観光客の交通機関も New City を発着点とする。

2)　参道を博物館・植物園エリアから遺跡入口までの区間のみを重点的に整備し、博物館・植物園と合わせて整備を行う。特に現状では不足している休憩・ピクニック設備を国内観光客用に整備する。1）案と相対し外国人観光客の交通機関は博物館の後方エリア発着を想定、New City への外国人観光客誘致を想定外としている。

(4)　シーギリア手工芸村（Sigiriya Handicraft Village）

2003 年に Ministry of Rural Industries and Self Employment Promotion によって開設された、手工芸品・土産物品実演販売施設である。広い敷地内には十数件の「スリランカ国学校型」の腰高の壁に囲まれたオープンな建物が立ち並び、設備としては立派だが入居者（販売者）が少なく、半数以上は空室のままであった。入居者や地元観光業者に簡単に聞き取った結果では、観光局の後押しがなく、観光業者（特にホテル、ガイド、ドライバー等）に斡旋もなく、開業当時から閑古鳥が鳴く状況であったらしい。

実演販売される土産物はスリランカの代表的工芸品（木彫り、銀細工、真鍮細工、等）であるが、伝統工芸品という面も手伝って、技法、製品の種類も少なく、洗練されておらず、コロンボなど他の場所と区別できる特徴も値幅もなかった。

JBIC、CCF 等現在進行中のシーギリア周辺プロジェクトの関係者はこの施設を対象としておらず、再生を目指す様子はない。困難であると思われるが、実演販売施設という強みを押し出し、例えば夜間営業などを実施し、土産物に（例えば日本人の好みに対応した）工夫を加え、値段の明示など外国人観光客へのプレゼンテーションに対する技術指導などをとおして再生できる可能性もあるというのが調査団の意見である。

(5)　乾燥地帯植物園（ハーブ園）

この施設は新博物館建設予定地の、参道を越えたはす向かいに位置する。ハーブ園・樹木ナーサリーとして現存するが、観光客に対しては情報が提示されておらず、どこに位置するのかもわからない状況である。JBIC のプロジェクトの一環として、公園・ピクニックエリア的な開発がされる予定である。

(6)　宿泊・食事設備

シーギリア直近（遺跡より 10 分程度）のホテル・エリアに以下の宿泊設備が揃っている。

・ リゾートホテル（US$50 ～ 100 程度)）（シーギリアビレッジ、ホテル・シーギリヤ）
・ 半公営のレストハウス（US$25 程度）（シーギリア・レストハウス）
・ 安宿（US$10 程度）（アジャンタ・ゲストハウス）

外国人客は、宿泊しないでこれらリゾートホテルやレストハウスのレストランを食事に利用するときもある。

宿泊設備について特記すべきは、国内で流行っている「大型高級リゾートホテル」がシーギリア遺跡直近にないことである。大型高級リゾートはデザイン性あふれた外観・内装、充実し

たレストラン設備、その他娯楽設備、ショップやエンターテインメントなど揃え、特に長期滞在客の活動拠点となっている。シーギリア近辺では、乗用車で１時間程度離れたダンブッラ地区やハバラナ地区にはすでに高級リゾートが多く存在し（例:カンダラマ・ホテル、カルチャー・クラブ、エレファント・コリダー、ハバラナ・ロッジ)、結果的にシーギリア直近エリアを「日帰りツアー」の位置に押し込めている。

観光客の移動パターンはいくつか考えられるが、観光業者の聞き取り調査によれば、現状での遺跡周辺施設の利用状況は外国人観光客にかぎっていえば「ほとんど無し」という状況である。外国人観光客はチャーターされたバスまたは乗用車で移動するが、シーギリア遺跡入口に早朝乗りつけ、気温が低いうちに遺跡観光をし、その後シーギリアエリア外に移動してしまうのが一般的のようである。早朝遺跡観光の場合、上記の１時間程度離れたダンブッラ、ハバラナ地区に昼食のために移動することも可能であり、そうすると滞在時間は３～５時間程度となる。

外国人観光客のチャーターバスまた乗用車のドライバーには周辺施設を斡旋することもできるが、現状では別に斡旋するだけの知識も需要もない状態である。未舗装の道路が大多数であるのも、一部観光客に受けが悪いのかもしれない。

国内観光客は、例えば団体バスなどで移動の場合、一部周辺施設（特に、Pidurangala 寺院）に立ち寄ることもあるようだ。また、団体バス、公共バスともに New City に発着するので、New City 土産物店、参道等は利用する。

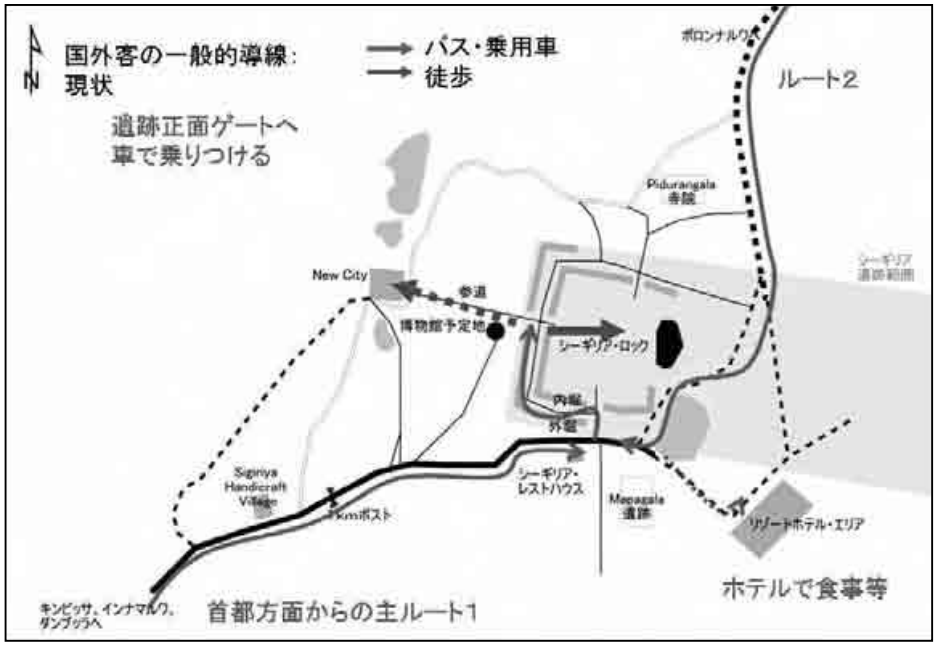


図３－２　外国人観光客：現状での遺跡周辺の導線（聞き取りによる模式図）

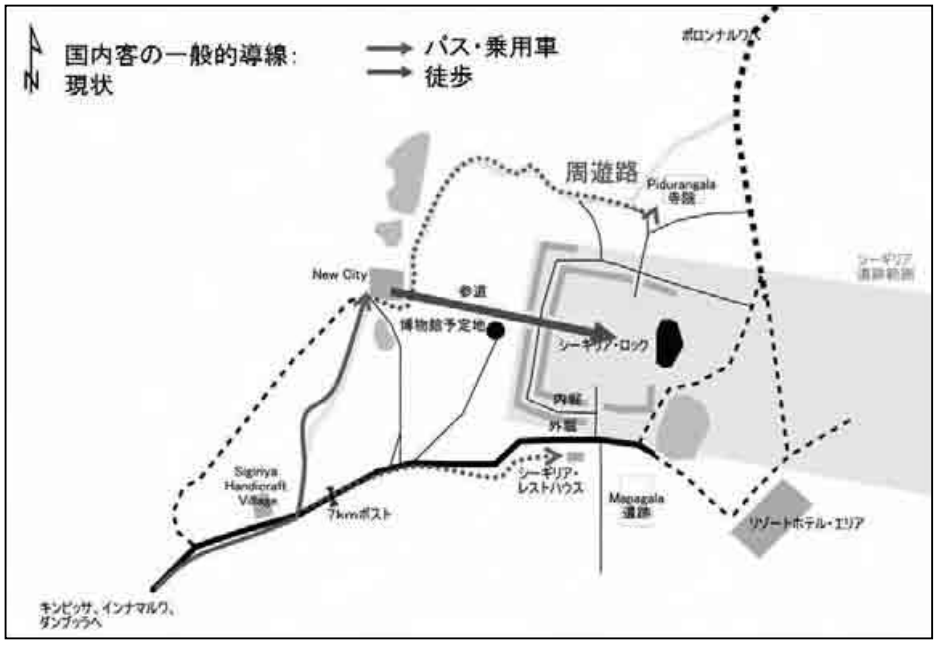


図３－３　国内観光客：現状での遺跡周辺の導線（聞き取りによる模式図）

JBIC/TRIP による周辺アクセス道路改善（セクション２－３参照）を経て、スリランカ側は図３－４のような「周遊型」導線への変更を計画している。周遊路へビジターを導くため、堀沿いの現在のゲート前までの道路を閉鎖するという意見も聞かれたが、確たる決断はなされていないようである。博物館関係者及び建築担当者からは新博物館裏手につながる道路を外国人観光客用のメインの遺跡用アクセス道路とし、博物館に利用者を誘導するとともに、外国人観光客が車外を長距離移動しなければならない事態を回避するべきという代替案が聞かれた。

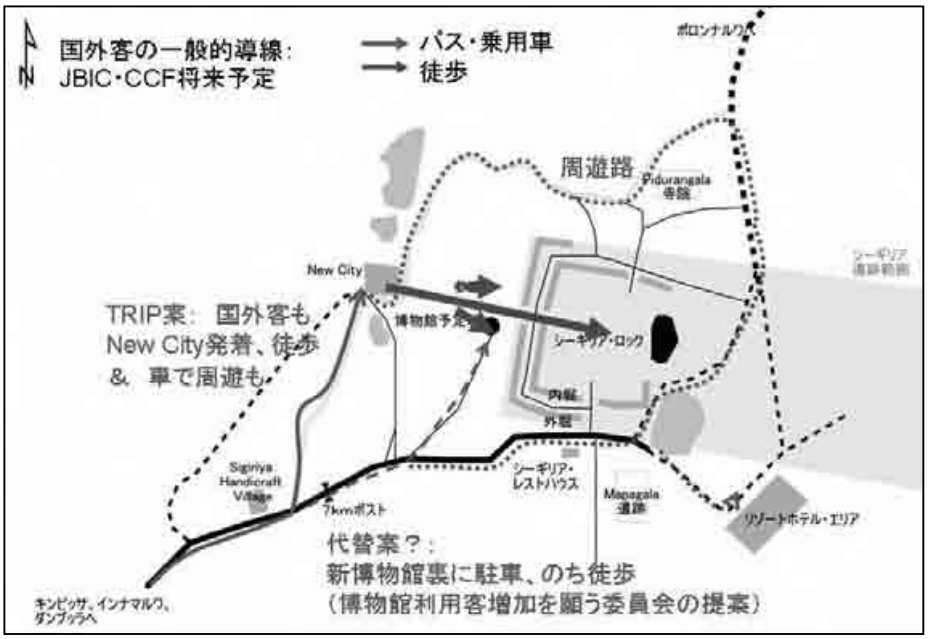


図３－４　外国人観光客の将来的な導線計画

３－４　シーギリア遺跡における新博物館の位置づけ

新博物館はスリランカ側によって建築中である（地図 C、添付資料の建築スケジュール参照）。

新博物館は第１に、シーギリア遺跡の真価を伝える設備として位置づけられる。つまり、ビジターに、幾層にもわたる歴史と考古学の背景を簡潔に面白く伝える機能がメインとなる。

また追加機能として、周辺状況からかんがみて、ビジターセンター的設備、つまり遺跡以外のアトラクションを紹介する機能も必要である。

また、ワークショップが開催できるセミナー室、演芸鑑賞できる劇場設備、休憩エリア、実演コーナー、ミュージアムショップなどが建物内にすでに設定されているので、これらを利用し、シーギリア周辺地域に不足している「遺跡見学以外の活動」、または「時間外の活動」を提供できる場所でもある。

展示設計によってこれらの複数要素・機能を十分に引き出すことが可能と考える。

第４章　シーギリア博物館展示計画案

４－１　シーギリア博物館の機能

博物館の想定機能ごとに、スリランカ国側（委員会）の提示する意向は以下のとおりであった。

(1)　展示施設

考古学的遺物展示。シーギリア遺跡の層の厚さ、考古学的多様さを説明したい。重要遺物を展示したい。

(2)　情報発信

同上、考古学的情報発信を主としたい。

(3)　教育

国内学生を第一対象とし、学習旅行で訪れる学生に対応した機能としたい。具体案としては、バスで訪れる学生に対応できる視聴覚設備（例：一人ずつしか使用できない機材は置かない）や建物設計、基本情報パンフレット等を有料化する場合は学生でも購入できる価格設定を、公用語３言語対応、など。

(4)　休憩所

必要であることは認識するが、展示エリアを汚さないことを第一とした。展示エリアを通り抜けたあと、外テラスなどにピクニックエリアを設置。

(5)　遺跡保存・研究活動

博物館１階部分はCCFの事務所エリアであり、ここにCCFシーギリア部門の各部署が入居し、その中には遺跡保存部も、遺物保存･修復部も存在する。しかし、これらは博物館（展示エリア）とは直接関わりない位置づけであるので、展示に関する保存・研究活動が必要と判断された場合は、博物館の貴重品収蔵室、館員・館長室は展示エリアに隣接する２階部分に設置することとする。

４－２　シーギリア博物館の運営・維持管理

シーギリア博物館の運営はCCFがあたる。文化無償資金協力申請書（2005年８月１日提出）にはSigiriya Heritage Foundation(SHF)という新団体を1998年の国会条例NO.62によって立ち上げる、とあったが、これは取りやめとなった（CCF・文化遺産省関係者双方から確認した）。CCFが、シーギリア遺跡と博物館の双方を管理することになるが、遺跡と博物館にはそれぞれ専属スタッフを置き、別々にマネージメントする予定である。先例としては、最近オランダの出資協力を得て改装されたポロンナルワ博物館とポロンナルワ古代都市のCCFによる運営があげられる。

CCF が運営管理する以上、ほとんどの出費は入場料から賄われ、国家予算案などとは関係がない。2005 年現在の入場料金設定は、以下のとおりである。

	シーギリアのみ	文化三角周遊	特記事項
外国人客	US$20	$40	12 歳以下半額
国内観光客	Rs.20（約 US$0.20）	（該当なし）	12 歳以下半額

表 4 － 1　シーギリア、過去の入場者数の推移

	外国人用チケット数 シーギリアのみ（A）	周遊券（B）	最大外国人 ビジター数（A+B）	国内客用チケット数 シーギリアのみ
2000	64,250	67,371	131,621	495,233
2001	51,618	50,653	102,271	570,569
2002				
2003	85,404	70,076	155,480	548,037
2004	98,944	83,956	182,900	397,968

出所：CCF

表 4 － 2　文化三角地帯各エリア別チケット販売・収入表

	2000		2001		2003		2004	
	チケット数	収入（ルピー）	チケット数	収入（ルピー）	チケット数	収入（ルピー）	チケット数	収入（ルピー）
外国人用チケット								
文化三角地帯周遊券	67,371	157,347,000	50,653	132,519,000	70,076	210,124,000	83,956	290,015,000
アヌラーダプラ	3,219	3,313,000	2,920	3,447,000	5,230	6,874,000	6,175	9,306,000
ポロンナルワ	44,806	47,862,000	32,537	40,665,000	51,808	70,709,000	57,288	88,921,000
シーギリア	64,250	67,492,000	51,618	59,286,000	85,404	115,558,000	98,944	154,858,000
リティガラ	8	3,000	10	4,000	0	0	0	0
キャンディ					0	0	0	0
ダンブッラ					3	1,000	17	7,000
	179,654	276,017,000	137,738	235,921,000	212,521	403,266,000	246,380	543,107,000
国内客用チケット								
シーギリア	495,233	4,200,000	570,569	5,692,000	548,037	10,272,000	397,968	6,844,000
アラハナ	92,778	1,253,000	111,685	1,627,000	126,420	1,957,000	109,987	1,693,000
ジェトワナ			3,946	36,000	18,572	155,000	15,175	128,000
アバヤギリヤ			6,789	61,000	17,164	140,000	7,633	69,000
ダンブッラ					179	3,000	1,968	29,000
	588,011	5,453,000	692,989	7,416,000	1,355,676	286,923,000	1,534,451	250,850,000
合　　計	767,665	281,470,000	830,727	243,337,000	1,568,197	690,189,000	1,780,831	793,957,000

出所：CCF

表４－３　中央文化基金全体の収支

(2002 停戦協定で上向)　　(2004 津波で下向)

資　　産	2002	2003	2004	2005
Fixed Assets	22,013,292.21	22,837,331.18	23,915,647.91	20,113,162.99
Current Assets:				
Term deposits	180,049,942.47	226,579,687.39	266,172,655.17	143,295,310.12
Loan to staff	47,336,882.72	63,482,724.61	64,015,366.14	58,956,652.63
Advances to staff	190,476.49	213,461.04	63,102.16	64,527.16
Deposits advance and Debtors	34,394,157.61	32,149,289.19	21,899,667.62	17,598,954.64
Stocks	26,941,343.24	38,394,531.47	62,615,192.51	70,394,041.54
Petty cash	26,010.00	26,010.00	24,998.00	16,998.00
Cash balances	266,399.49	9,252,057.54	6,871,162.57	2,639,679.00
	289,205,212.02	**370,097,761.24**	**421,662,144.17**	**292,966,163.09**
Less: Current Liabilities				
Creditors and accrued expenses	10,718,339.30	9,439,550.56	15,583,818.07	12,176,736.90
Miscellaneous and other deposits	8,081,915.81	9,553,506.27	8,122,863.44	8,481,222.44
Bank over draft according to cash book	7,389,641.11	9,999,316.64	10,171,791.82	22,928.50
	26,189,896.22	**28,992,373.47**	**33,878,473.33**	**20,680,887.84**
Working capital	263,015,315.80	341,205,387.77	387,883,670.84	272,284,275.25
	285,028,608.01	**364,042,718.95**	**411,799,318.75**	**290,628,438.24**
Represented by:				
Accumulated fund	17,314,180.01	17,314,180.01	18,231,009.51	18,759,147.01
Capital reserve balances on income and expenditure	8,742,521.01	8,742,521.01	8,742,521.01	8,742,521.01
Accounts	170,455,004.21	238,972,072.65	284,730,185.79	164,649,963.84
Provision for gratuity	55,610,766.49	55,325,385.25	65,411,788.05	69,494,074.71
Provision for ETF	7,135,909.52	2,110,419.47	1,960,733.03	190,733.03
Special fund	25,770,226.77	41,578,140.56	32,723,081.36	28,791,998.64
	285,028,608.01	**364,042,718.95**	**411,799,318.75**	**290,628,438.24**

収入・支出項目	2002	2003	2004	2005
Income:				
Sales of tourist tickets	256,459,824.09	415,642,542.13	551,470,821.26	295,192,917.05
Government grant	8,446,000.00	–	–	100,000,000.00
Grant from MoCANH to develop Kandy City	–	15,000,000.00	–	2,397,000.00
Public contributions	245,911.37	67,209.20	78,519.30	669,408.20
Publication sales	6,502,602.40	8,672,229.20	9,900,567.10	3,482,508.20
Sundry income	2,209,031.88	2,587,023.72	3,312,217.68	8,208,629.45
Interest on staff loan	1,654,915.57	2,401,309.77	2,539,985.55	2,650,434.98
Rent income	2,606,639.92	1,907,098.88	1,953,137.62	1,809,602.53
Interest on treasury bills	5,692,564.22	8,860,552.61	11,282,999.12	4,864,218.17
Interest on fixed and savings deposits	7,937,614.27	4,533,672.07	4,090,249.10	4,183,596.74
Interest on treasury bonds	9,967,211.95	4,825,362.83	4,255,197.19	3,487,773.59
	301,722,315.67	**464,497,000.41**	**588,883,693.92**	**426,946,088.91**
Less: Expenditure				
Provision for gratuities	8,024,732.91	975,802.00	11,789,950.00	8,681,481.85
Provision for depriciation	8,392,974.01	9,297,405.77	8,184,324.88	6,917,162.70
General	68,593,940.90	88,874,196.28	125,314,881.96	125,926,644.36
Conservation	134,340,102.60	175,884,449.09	252,513,349.62	249,545,230.67
Excavation	23,797,191.90	23,766,103.53	39,331,947.53	44,867,220.14
Central Service and other expenses	24,752,413.04	29,186,063.67	25,302,492.11	39,699,024.33
Laboratory infrastructure and publicity	8,202,672.74	12,234,953.27	21,699,609.16	8,839,919.54
Special projects (other cultural activities)	2,408,248.16	38,945,446.65	4,104,879.87	6,890,730.74
Projects outside Cultural Triangle	53,245,089.40	16,366,009.49	57,006,596.37	55,586,870.95
	331,757,365.66	**395,530,429.75**	**545,248,031.50**	**546,954,285.28**
Excess income over expenditure	(30,035,049.99)	68,966,570.66	43,635,662.42	(120,008,196.37)
Prior year adjustment	2,031,222.50	(451,502.22)	2,122,450.72	(72,025.58)
	(28,003,827.49)	**68,515,068.44**	**45,758,113.14**	**(120,080,221.95)**
Balance brought forward	198,458,821.70	170,455,004.21	238,972,072.65	284,730,185.79
	170,454,994.21	**238,970,072.65**	**284,730,185.79**	**164,649,963.84**

出所：CCF

CCF・文化遺産省関係者とも、資金面に関しては運営上問題ないことを強調し、文化遺産省としては緊急時に助成金を通して全面的にサポートする用意があること（事実、表４－３によれば津波の翌年に助成している）を言明した。

また、今後のチケット値段設定に関しては、外国人・国内観光客ともに「遺跡＋博物館」の共通チケットという現形態を保持していく考えを示した。これは、別チケットにすると博物館入場者が減ると思われるので、調査団としても賛意を示した。共通チケットの値段は当面値上げする予定はなく、新博物館を現収入レベルで運営できると想定しているようである。

維持管理に関しては、資金とともに人員配置も重要となる。表４－４がスリランカ国側の提示した人員配置予定表である。人材アポイントに関しては、ポロンナルワ博物館等の経験から開館１カ月前程度を目処に開始する予定であり、「開館時に全員を集める努力よりも、よき人材を時間をかけてリクルートする努力を優先したい」との方向性を CCF 及び文化遺産省幹部が面談時に示した。同時に、表４－４の Museum Curator が博物館長的な役割となるが、この人材は早期に目処をつけ、展示設計及び設置工事に立ち合わせ、初期から博物館計画に関わらせる用意があること。　同様に表４－４の Maintenance　Staff をまとめる Maintenance　Engineer も早期に選定し、建設工事後期より立ち合わせるなど、日本側の提案に柔軟に対応する用意があることがうかがわわれた。

表４－４　シーギリア遺跡の現状及びスリランカ国側予定人員配置

現　　状	シーギリア遺跡管理　幹部 （CCF 常勤雇用者）	人数	スタッフ（CCF 常勤雇用者）	人数	合計
	Site Manager	1			
	Senior Archaeologist	1	Field staff (中間管理職)	20	
	Senior Conservator (monuments and sites)	1	Excavation/conservation　assistants	125	
	Senior Conservator (artefacts)	1	Gardeners	40	
	Information and Public Relations Officer	1	Security staff	25	
	Garden curator	1	Ticket sellers	5	
			Administration staff	20	
		5		235	240
	現シーギリア博物館スタッフ （考古局）	人数		人数	合計
	Curator　※1	1	Staff　※1	4	5
スリランカ国 当初予定	シーギリア遺跡管理　幹部 （CCF 常勤雇用者）		スタッフ（CCF 常勤雇用者）		
	Site Manager Director (Archaeology) = Director of Museum Director (Conservation) = Museum Curator Senior Archaeologist Senior Conservator (monuments and sites) Senior Conservator (artefacts) Information and Public Relations Officer		(現状の人数を博物館と遺跡で振り分け)		
	シーギリア博物館 （CCF 雇用予定）				
	Director(Archaeology)=Director of Museum Museum Curator Exhibition Specialist　（新規） Documentation/Data Collection Specialist （新規） Training Specialist　（新規）		Administrative Staff Maintenance and Monitoring Staff　（新規）		
協議後スリランカ国予定	シーギリア遺跡管理　幹部 （CCF 常勤雇用者）		スタッフ（CCF 常勤雇用者）		
	Site Manager Director (Archaeology) = Director of Museum Director (Conservation) Senior Archaeologist Senior Conservator (monuments and sites) Senior Conservator (artefacts) Information and Public Relations Officer		(現状の人数を博物館と遺跡で振り分け)		
	シーギリア博物館 （CCF 雇用予定）				
	Director (Archaeology) = Director of Museum Museum Curator　※2 Exhibition Specialist　（新規） Documentation/Data Collection Specialist （新規） Museum Education Planner　※3　（新規） Museum Education Specialist　※3　（新規） Maintenance Engineer　※4　（新規）		(現状の人数を博物館と遺跡で振り分け Maintenance and Monitoring Staff　（新規）		

※１　注：現博物館スタッフは総数で４～５名であるが、幹部－スタッフの詳しい人数分けは未確認である。

※２　Museum Curator、実質の博物館長職を遺跡管理より切り離した

※３　当初予定の Training Specialist を二役にすることを推薦

※４　展示機材を含めた維持管理責任者

4－3　展示基本コンセプト

シーギリア博物館展示は純然たる考古学博物館としての展示ではなく、観光目的で訪れる見学者にも対応できる、ビジターセンターの要素を兼ね備えた博物館施設の展示が必要とされる。この観点から、委員会と協議のうえ、以下の展示基本コンセプトに合意した。

(1)　施設はロビーエリアを中心とした展示空間と、考古遺物を主体にした博物館の展示空間に大別され、２つの展示空間は古代建築様式のコーベルアーチのトンネルで結ばれる設計となっており、過去に遡る旅の入口としている。スリランカ国側の基本構想をそのまま生かし、機能分けをより明確にした。

(2)　ロビーエリアは屋外劇場の観覧目的を含めた遺跡観光インフォメーションセンターとしての展示構成を考慮した。観光情報センターとして情報ビデオの流れるオーディトリアムが利用される。

(3)　メインギャラリーは５つのギャラリーからなり、空間仕様は床レベルを二層とし、見学導線と展示に起伏を持たせる構造とした。また身障者対応としてフラットなデッキの見学導線も設置を考慮した。この２層構造によって、問題点であった天井高が低すぎる欠点を克服し、同時に下述床下ランドスケープ模型を可能とした。

(4)　メインギャラリーの展示にはストーリーを持たせ、展示の核となるセンターピースを設け、驚きと興味と期待の持てる展示構成にした。センターピースにはシーギリア・ロックを中心とした王宮遺跡のランドスケープ模型の展示とした。展示形体は透明ガラスに覆われた床下に設置し、遺跡上空より見て回る手法とした。

(5)　ギャラリー展示の後半は近年再発見された壁画の再現レプリカ展示等とし、ギャラリー出口の螺旋階段を上った見学者は、フレスコポケットのサイト見学疑似体験をしながら、過去に遡る旅は終わる。

(6)　見学者導線は、フレスコポケットエリアから斜路を通り展示・実演エリアに向かい、ブックギャラリーからロータスブリッジを通じ出口に向かう。

A.　館内空間の導線　（下「出入口」より順に、※印で階間を移動）

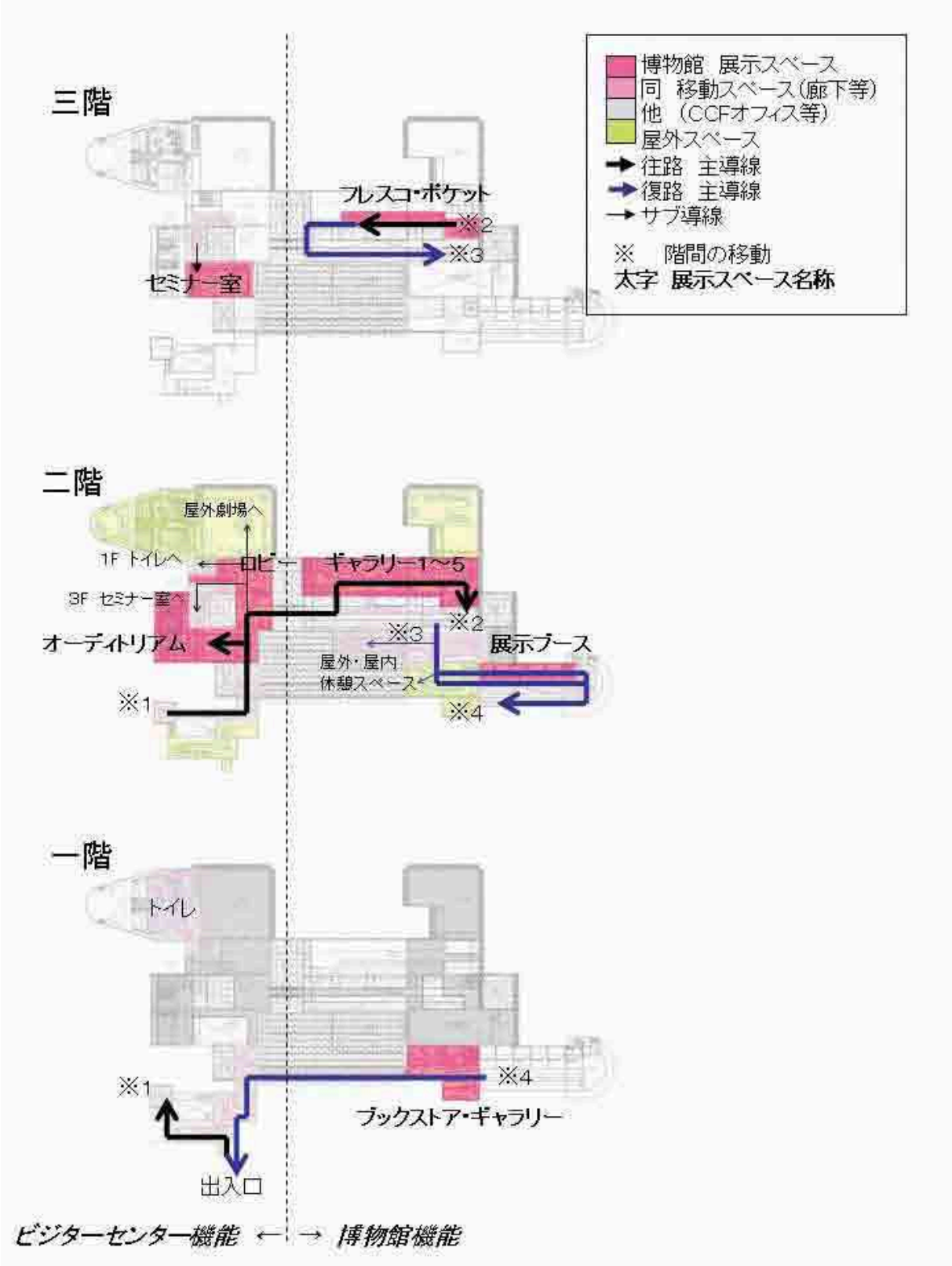
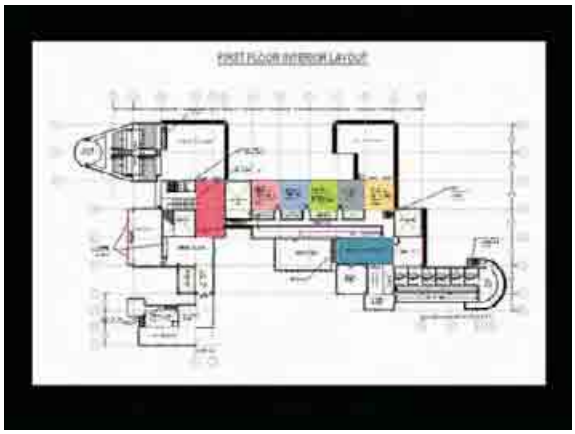


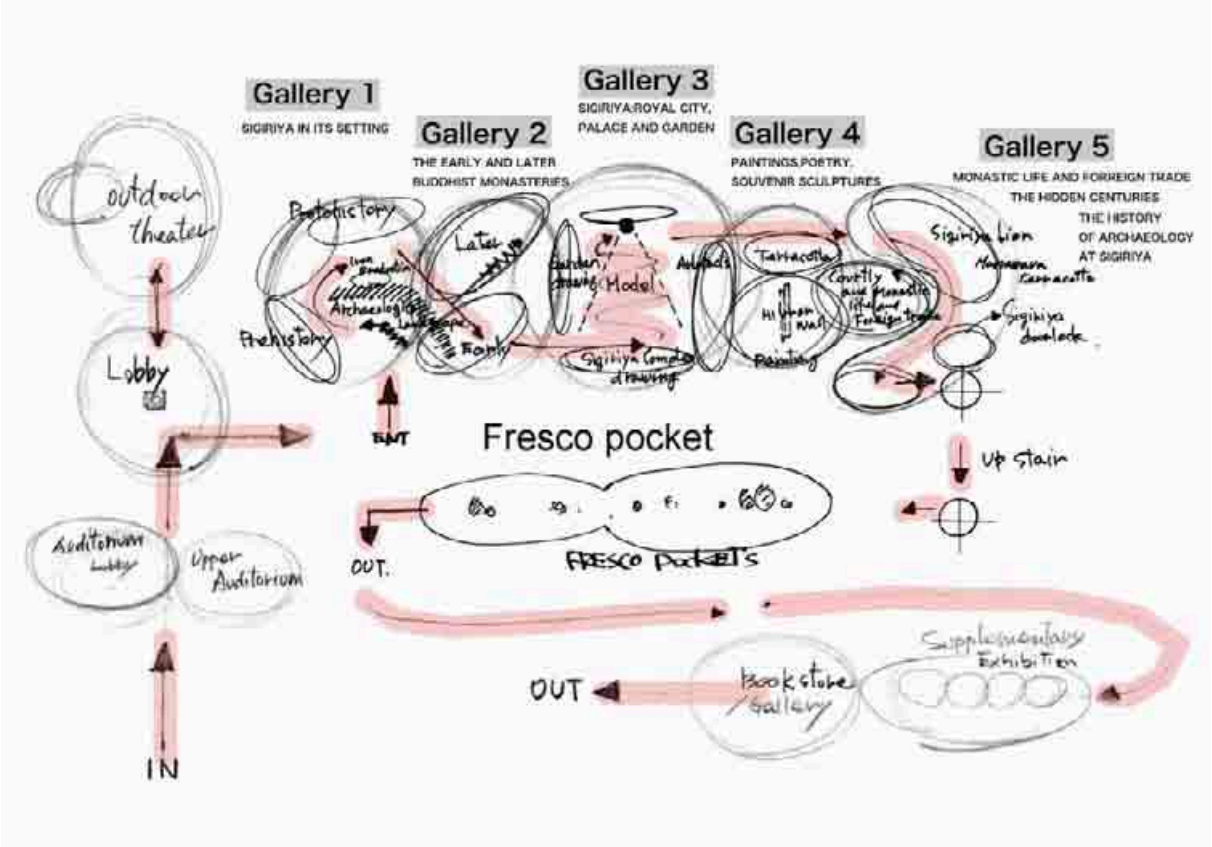
図４－５　展示ゾーニング／導線図

B.　展示の導線



左図：展示ギャラリーのある２階設計図
（委員会プレゼン資料より）

下図：　左下　「IN」　１階入口（左図非表示）　→
左中　オーディトリアムロビー（左図白）　→
左上　ロビー（左図濃ピンク）　→
右上　ギャラリー1～5（左図5色分け）　→
右中　螺旋階段で
３階 Fresco Pocket（左図非表示）　→
右下　スロープを降りて
追加展示スペース →
ブックストア・ギャラリー　→　「OUT」



A：ギャラリー（Gallery １～５）部分　平面図

・ビジターは左下通路より「route」矢印に従い第１ギャラリーに入り、主に二層床上層（茶色デッキ部分）を移動

・第２及び第４ギャラリー（G2,G4）は下層床（黒色部分）にビジターが移動可能

・スケールは図内に表示（7,500 フィート×37,500 フィート、右下にメートル・バー）

・図内「A」「B」「C」は次図側面図の位置を説明

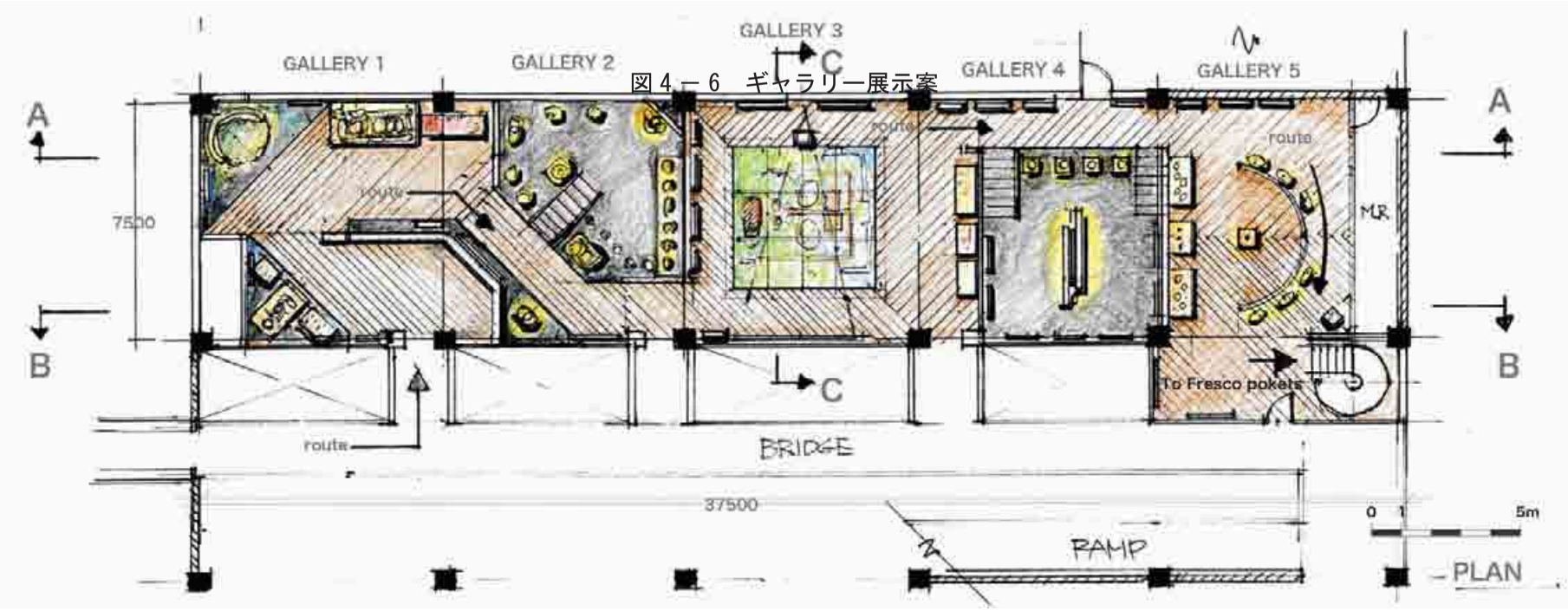


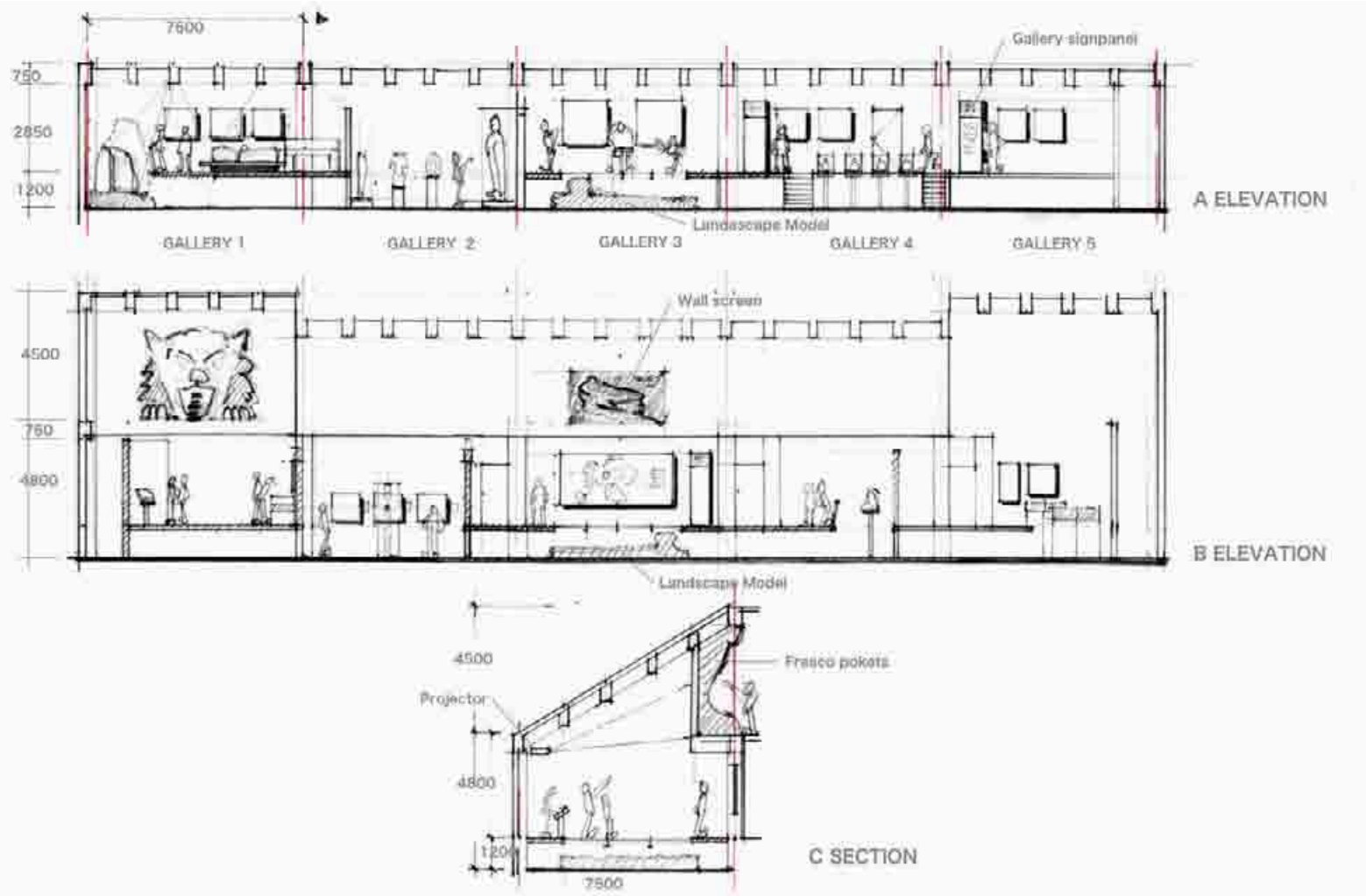
図４－６　ギャラリー展示案

B：ギャラリー側面図

上：エレベーションA（平面図上側壁面を眺める）、２層床の構造をイメージ（例:　G1 の溶鉱炉、G3 のランドスケープ模型、G2G4 展示ケースは下層に）

中：エレベーションB（同、下側の壁面）、G2 ～ 4 天井に 3 階「フレスコポケット」部分が張り出す。この天井が低い部分でスクリーン表示（G3）

下：エレベーションC（G3 をタテに割った図）、G3 でのランドスケープ模型と壁面・天井プロジェクター（２階）、フレスコポケット（３階）の関係



4－4　展示内容と必要機材

上述の見学者導線に沿って展示案を説明し、その後機材概算を提示する。

(1)　オーディトリアムロビー

・ オーディトリアムロビーはAV(オーディオビジュアル)による案内展示となる。

・ シーギリア遺跡の観光案内を兼ね、映像によるオリエンテーションエリアとする。映像機材は、多人数が一同に観賞可能な大型フラットモニターで立ち見とし、モニターは天井より吊り下げ式とした。

・ 映像時間は２～３分で、内容別に数本用意し、３カ所で放映する。対象言語は公用語３カ国語が必要、その他外国語も対応を検討する。

・ ロビーはさまざまな目的を持った訪問者が集う場であるため、具体的展示ではなく、象徴的展示とした。象徴展示の遺物はシーギリアを象徴する遺物、卒塔婆の中心より掘り出された「宇宙の柱」と、チューラバムサ史記の抜粋記述展示とした。

・ ３階に付属施設としてセミナー室を備えている（例：多人数の学生団体客や英語以外の案内必要とする外国人団体客に対応)。

機材：大型フラットモニター３カ所６台（配置：下図平面図参照、天井より吊り下げ）

ガラスケース（配置：ロビー中央、「宇宙の柱」展示用）

ギャラリー案内表示、解説表示等

左上：展示エリア入口を望む側面図。　左側窓ガラス上に史記エッチング、手前「宇宙の柱」展示ケース、中央にコーベルアーチの博物館入口、右側に博物館案内パネル

図中央（赤線）：平面図

右上：「宇宙の柱」展示ケース

左下：AV 機材を見るビジター（イメージ）

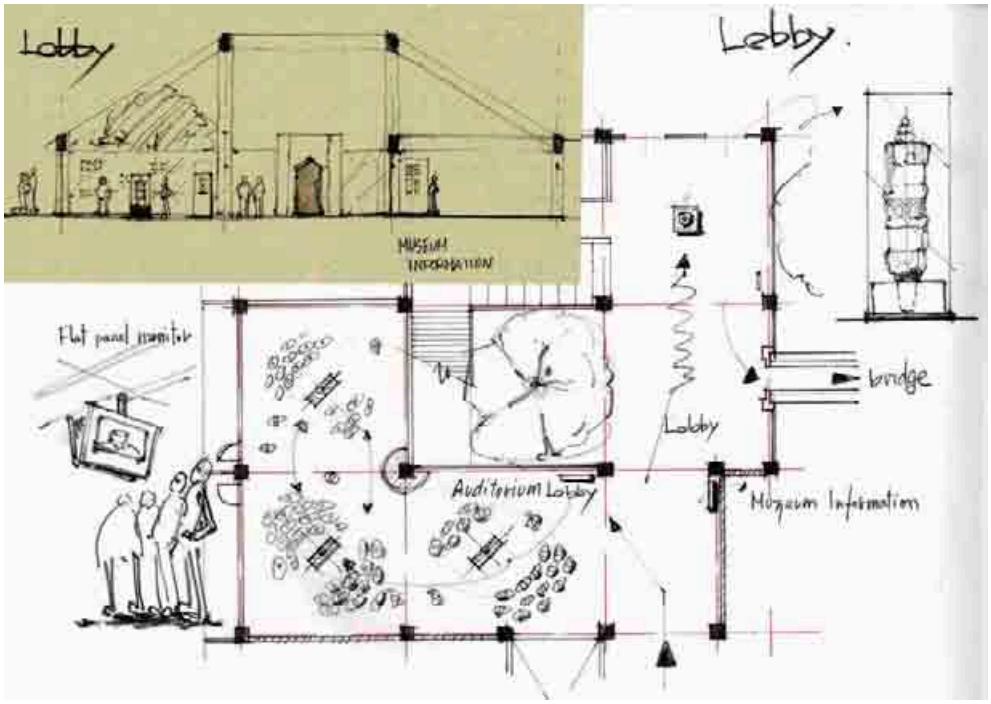


図４－７　オーディトリアムロビー

(2)　第１ギャラリー

・ 第１ギャラリーは、考古学的背景と先史、原史時代の旅の始まり空間で、背景にはパネル、先史～原史時代は発掘遺物とレプリカ（発掘時の人骨復元・石棺・溶鉱炉）による簡潔な展示とする。

・ 展示空間は通常床と見学デッキよる二層空間で構成。

・ デッキ通路で第２ギャラリーへ。

機材：レプリカ（配置：下図 Sketch ２参照、展示物：溶鉱炉１、石棺１、発掘時人骨１）

ガラスケース（配置:下図 Sketch ２参照、展示物:副葬品など（委員会プレゼンテーション資料参照））

ギャラリー案内表示、情報パネル、情報検索装置等

左上：ギャラリー全体図（図４－６）の中でのギャラリー位置（黄色）と図上の視点（青三角）
右上 Sketch 1：入口「考古学的背景」展示パネル
下 Sketch 2：パネル回って目に入る展示風景（イメージ）

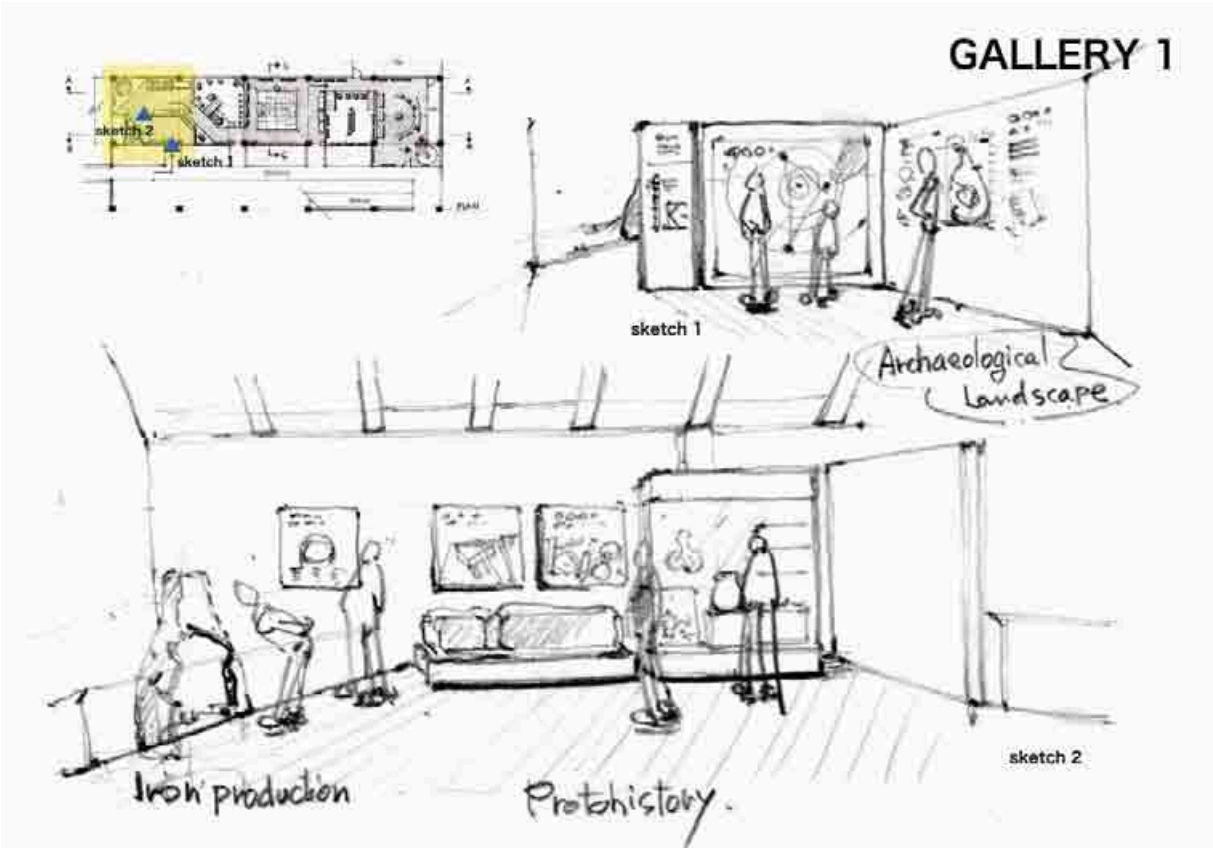


図４－８　第１ギャラリー

(3)　第２ギャラリー

・ 第２ギャラリーは、前期、後期の僧院時代の石像、塑像を中心に僧院跡の写真等による展示とした。

・ 展示空間は二層床を利用し、照明効果を取り入れた演出で、起伏富んだ幻想的なものとした。

・ 幻想空間を抜けると中心的展示となる第３ギャラリーへ続く。

機材：展示台（配置：下図参照、展示物：石像、塑像（委員会プレゼンテーション資料参照））
　　展示照明
　　ギャラリー案内表示、情報パネル、情報検索装置等

左上：ギャラリー全体図（図４－６）の中でのギャラリー位置（黄色）と図上の視点（青三角）
上　：石像、塑像の展示空間。　　左：照明効果と展示台
右下：下層床に降りたビジターが遺物を詳細に観察（イメージ）

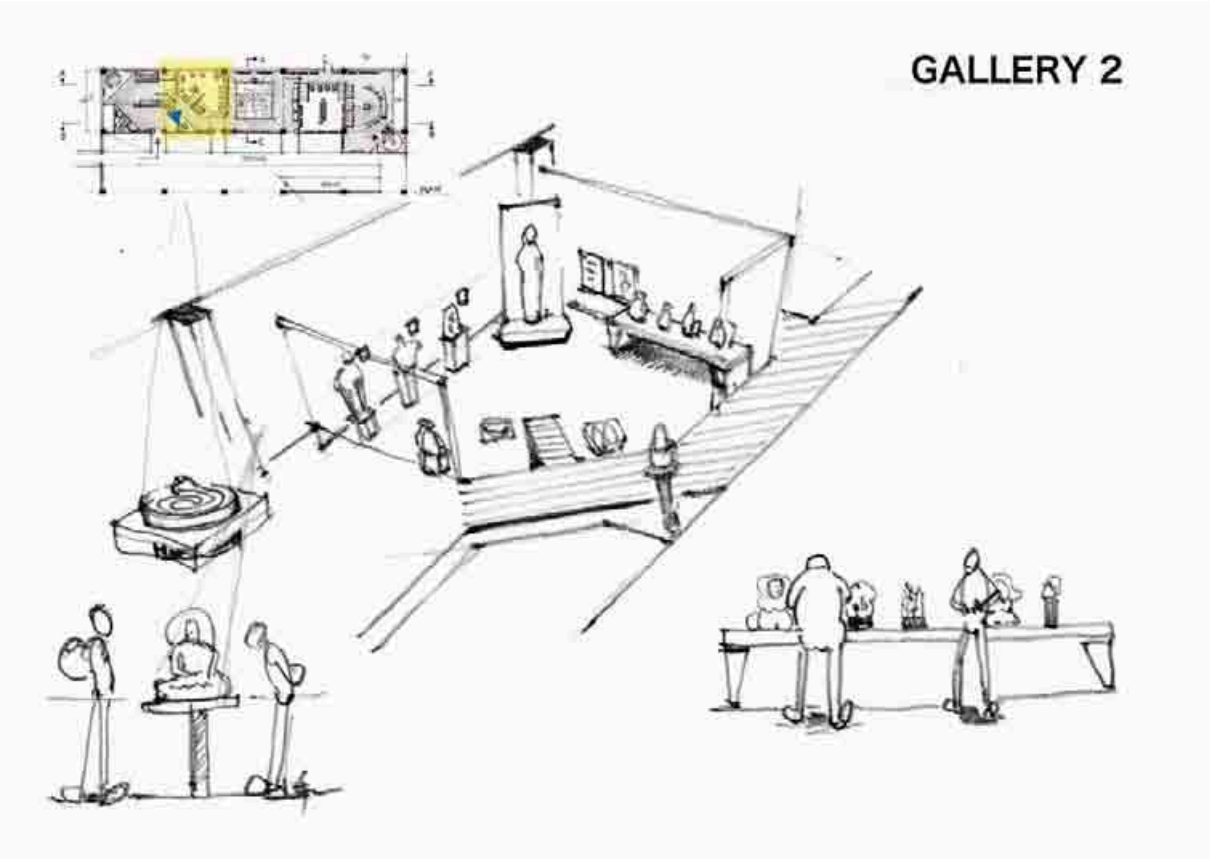


図４－９　第２ギャラリー

(4)　第３ギャラリー

第３ギャラリーは、シーギリア遺跡の絶頂期でもある王宮時代の展示で、内容的にも展示プラン的にも展示構成のセンターピースとしてとらえている。しかし王宮遺跡の遺物はあまりなく（建築資材やオーナメント類が主で）展示に工夫が必要となるため、以下のような案とした。

・ シーギリア・ロックを中心としたランドスケープ模型を、ギャラリー床下に設置し、床面を強化ガラスとし、床より遺跡模型を観て廻れる展示とした。
・ 幻想空間から第３ギャラリーへの移動で見学者は、床下に設置された模型に驚き、インパクトを与える展示となり、見学導線のなかでもこのギャラリーは溜まり場としても想定した。
・ 王宮遺跡はロック頂上の宮殿遺跡・岩の庭園・水の庭園を含め広範囲にわたり、模型サイズ（縮尺 1/200 ～ 1/250 で制作サイズ５ｍ角）も大きく、詳細に観賞できるギャラリースペースとして床下設置を想定した。
・ 展示のもう一つのフォーカスはロック頂上の宮殿想像図の展示である。宮殿想像図はさまざまな学者の案があり、特定した展示は難しいことからむしろ複数案の展示、展示手法は映像とした。
・ 見学者自身による操作（タッチパネル画像）でギャラリー壁面に大画面で投影し、見学者の参加体感型展示とした。
・ その他シーギリア遺跡全体については地図、図版、写真等による簡潔な解説、案内をする。

機材：模型（配置：下図参照、展示物：シーギリア全体のランドスケープ模型）、ガラス床
映像装置一式（プロジェクターとタッチパネル、配置：下図左側参照、展示物：王宮復元図）
ガラスケース（配置:壁沿い、展示物:王宮遺物の建物装飾品、等（委員会プレゼンテーション資料参照））、ギャラリー案内表示、情報パネル、情報検索装置等

左上：ギャラリー全体図（図４－６）の中でのギャラリー位置（グレー）と図上の視点（緑三角）

図説：ビジターが操作する上部プロジェクターが壁面に王宮復元図の大映像を投影（図４－６B・参照）、床下に広がるランドスケープ模型の上でさまざまな角度･姿勢で眺めるビジター、その他壁面展示。

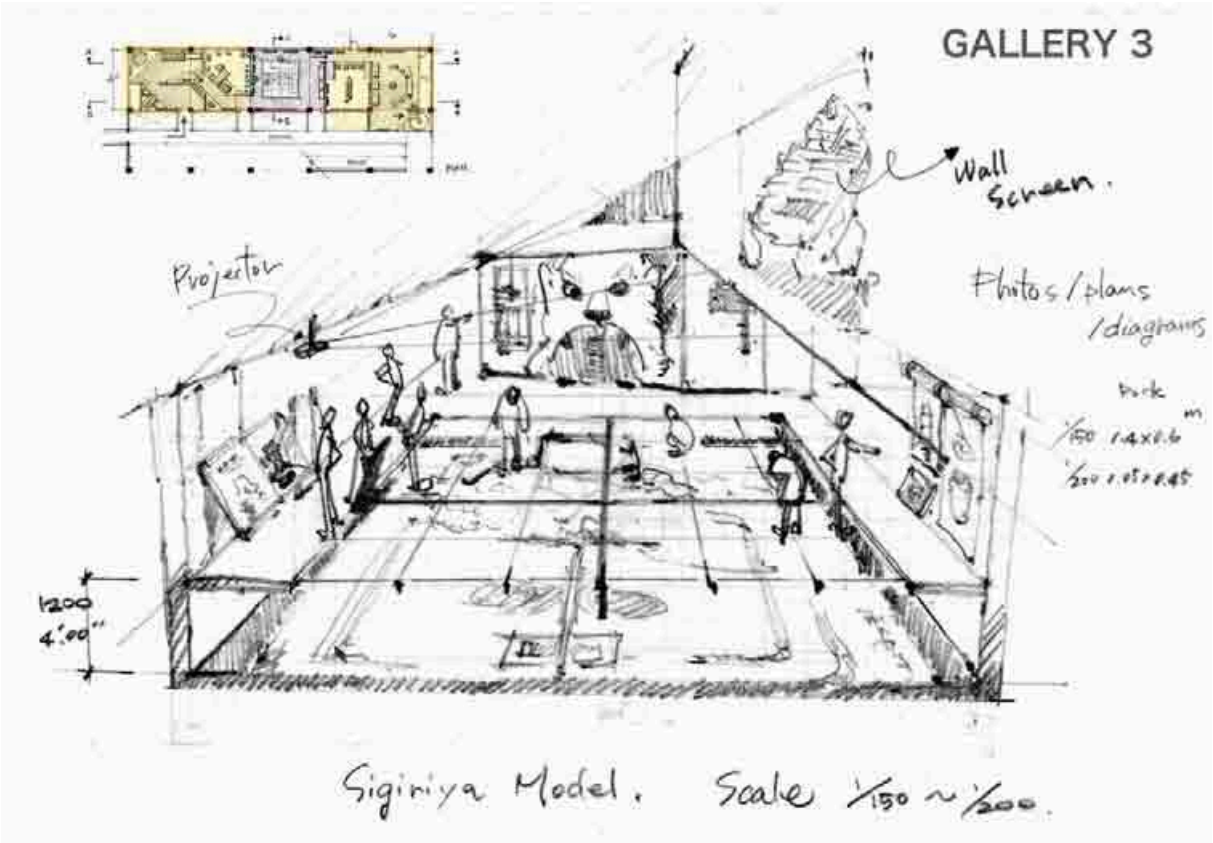


図４－10　第３ギャラリー

(5)　第４ギャラリー

・ 第４ギャラリーは、「鏡の壁」の展示を中心に、壁画や、当時の土産品として製作された「シーギリアレディー」の塑像群の展示とした。後者「元祖・お土産」は代表的遺物なので主導線近くの目立つ場所での展示とした。

・ 壁画はキャンバスによる複写画とし、「鏡の壁」は「落書き」古代詩がある面と外面（外壁は現場では観ることのできない場所で新たに発見された壁画を展示）を両面、レプリカで再現する。「落書き」古代詩はレプリカ見学ゾーンで音声でも流し、臨場感のある展示とする。

・ このギャラリーもデッキ床と基本床の二層床で空間構成をし、見学導線に起伏を与え、演出照明による幻想的な展示空間とした。

機材：レプリカ（配置：下図参照、展示物：「鏡の壁」）
　　ガラスケース（配置：下図参照、展示物：「お土産」塑像など）
　　音響機材（配置：レプリカ上の天井）、展示照明
　　ギャラリー案内表示、情報パネル、情報検索装置等

右下：ギャラリー全体図（図４－６）の中でのギャラリー位置（黄色）と図上の視点（青三角）
上：レプリカの設置される下層展示床より主導線床を見上げる（土産塑像のケースが上層床近くに並ぶ）
下：「鏡の壁」のレプリカ（イメージ）

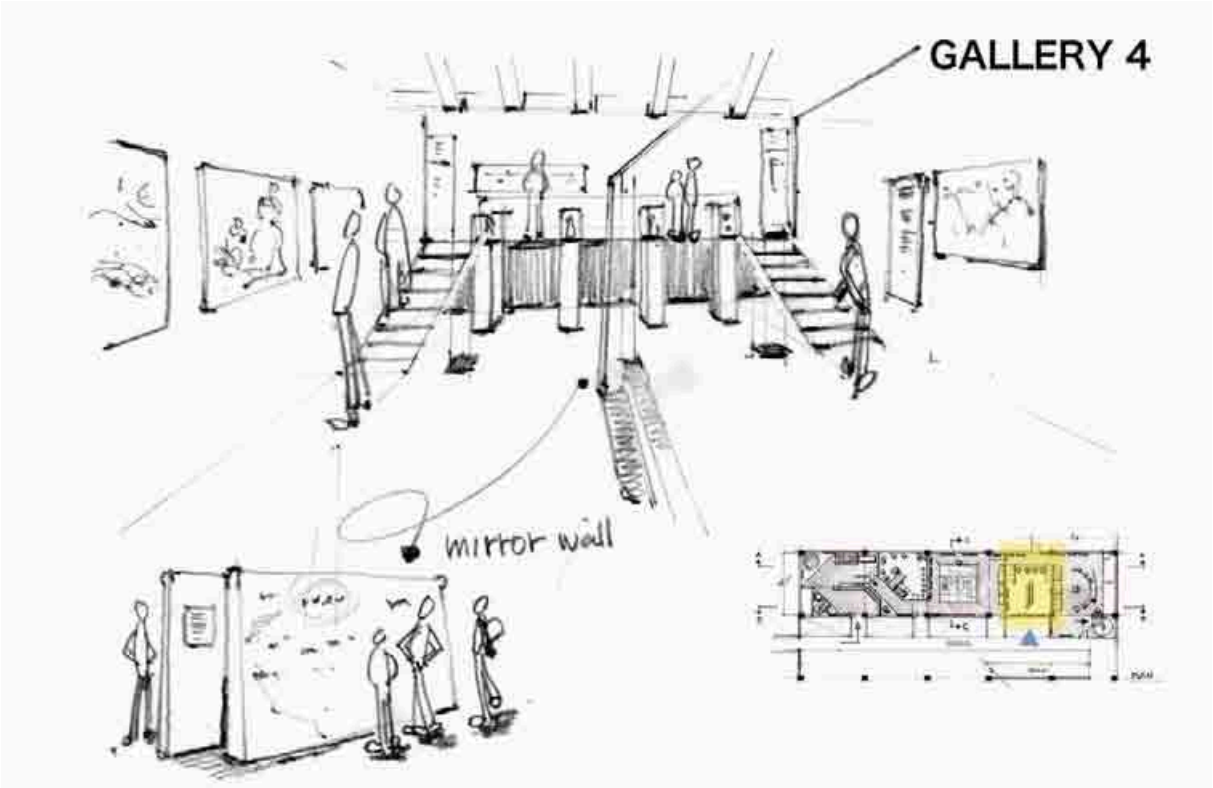


図４－11　第４ギャラリー

(6)　第５ギャラリー

・ 第５ギャラリーは、小品遺物が豊富にあり、ケース展示が主体となる。

・ なかでも「シーギリア耳飾り」を中心に展示構成し、耳飾りの演示にポイントおいた。ギャラリーの中心に曲面の展示壁を設け、その中心に耳飾りケース配す。

・ 耳飾りは一点展示で、レンズ機能付きのガラスケースとし、細部の細工が観賞できる演示とした。

・ 曲面壁は耳飾りの詳細写真のコラージュ展示とした。

・ 曲面壁の外側は、「シーギリアライオン」等、テラコッタ小品をアートギャラリー的展示とした。

機材：各種ガラスケース（配置：下図参照、展示物：「耳飾り」他各種遺物）、展示照明
　　ギャラリー案内表示、情報パネル、情報検索装置等

左上：ギャラリー全体図（図４－６）の中でのギャラリー位置（黄色）と図上の視点（青三角）
図説：耳飾りケースを中心とした曲面展示壁。左奥には外壁の展示パネルと遺物展示ケース、
　　右側には曲面壁裏側に取り付けた遺物展示ケースなど（イメージ）

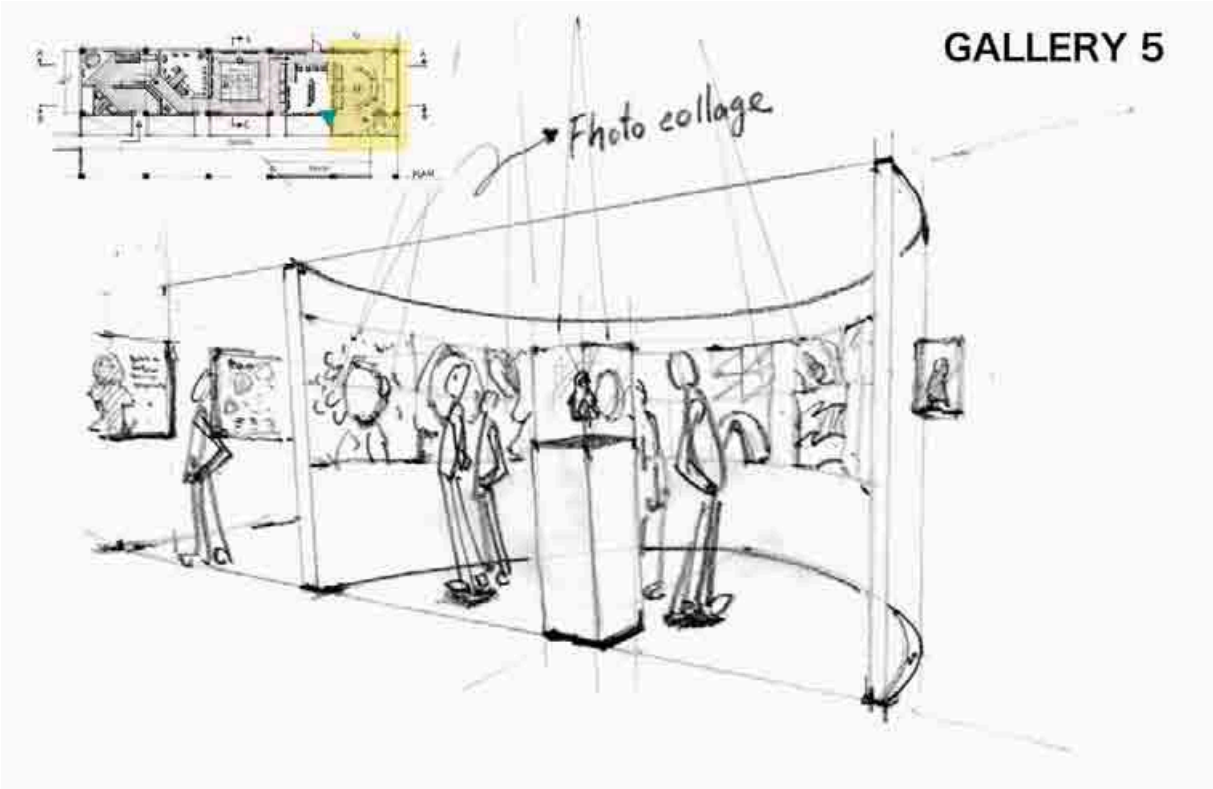


図４－12　第５ギャラリー

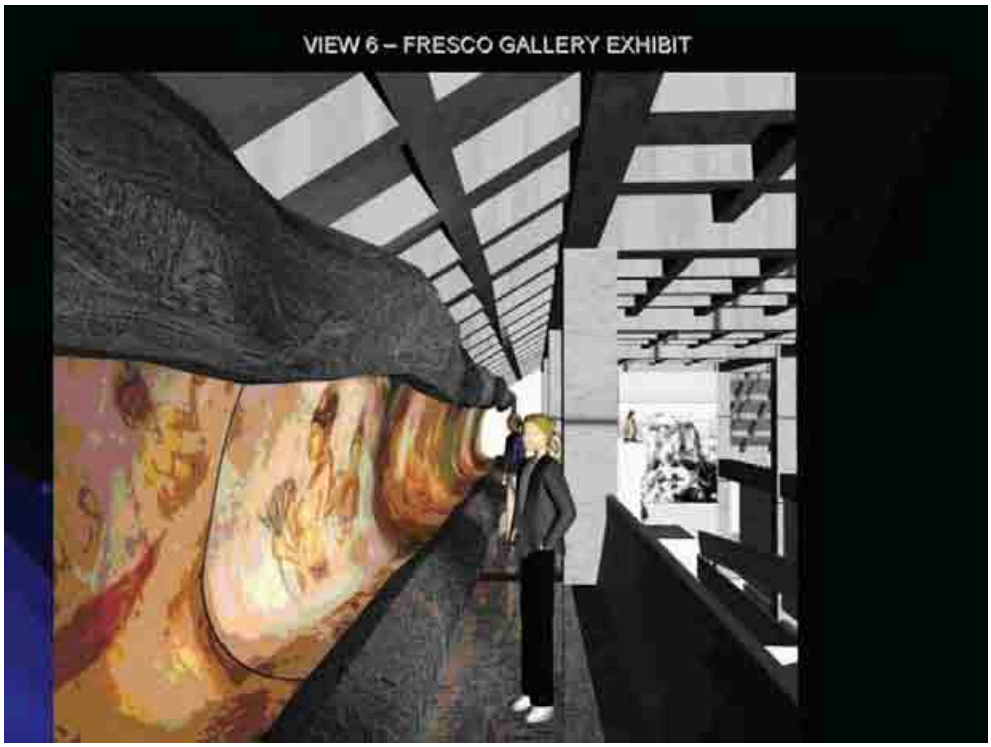
(7)　フレスコポケット（３階展示室）

・第５ギャラリー閲覧後、螺旋階段への入口付近に「考古学者によるシーギリア遺跡の再発見史」に関するパネル展示（写真等）を配し、フレスコポケットへ展示ストーリー的につなげる。

・螺旋階段通じ、見学者の疑似体験できる「フレスコポケット」壁画ギャラリーへとアクセスする（出口はスロープになっており、身障者等への対応も考慮）。

・位置的にはメインギャラリー上部で、岩壁側壁に描かれた壁画は実物大でのレプリカ展示となる。実物にアクセスできないビジターに臨場感あふれる体験をさせる施設とする。

機材：展示照明、ギャラリー案内表示、情報パネル等



出所：委員会プレゼンテーション資料より、CG 予想図

図４－13　フレスコポケット

(8)　ブックストア・ギャラリー

・ 博物館の主たる展示空間（２階）から３階フレスコポケットを抜け、スロープを降りると、展示・実演スペース、休憩スペース、ブックストアーと続く（図４－５参照）。そのなかで最後のブックストアーは展示情報書籍のギャラリーとしてとらえ、あくまでもギャラリーの一環とした。

・ ブックストアーは見学帰路にあることから入口を通路側に 45 度はみ出し、自然にギャラリー導入される工夫をした。

・ スリランカ国側はこの施設をブックストア・ギャラリーととらえているが、ミュージアムショップとして観光振興活動の一部ととらえることも可能である。

緑色部分がギャラリースペースとなる。

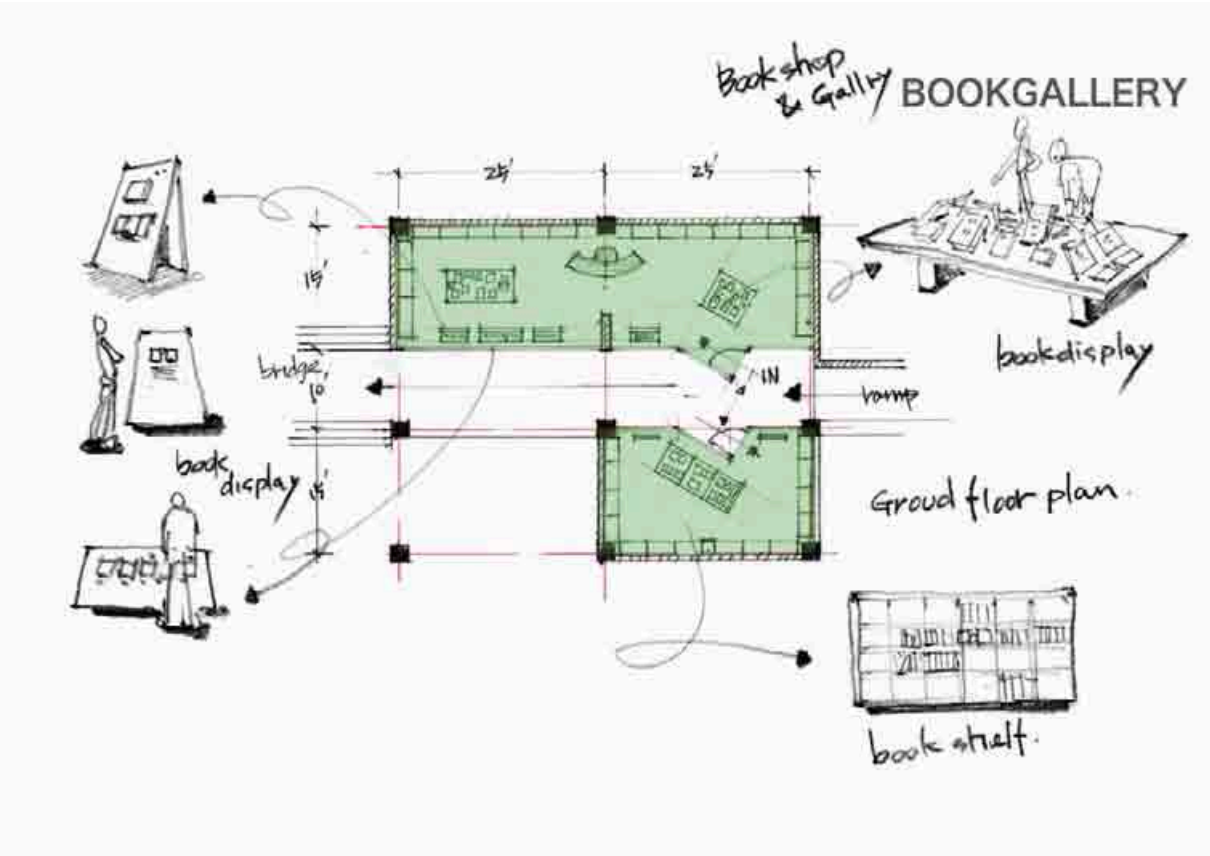


図４－14　ブックストア・ギャラリー

(9)　情報展示パネルについて

・ 博物館における情報表示は重要な展示機能の一つである。これは遺物ラベルや説明パネルだけでなく、訪問者を空間（博物館のどこにいて、次に何がくるか)、内容（ギャラリーの名前・テーマは何か)、時代（どの時代に関わる展示か）ともにガイダンスするシステムである。

・ 見学者の目的に沿った的確な情報の提示、見学者への誘導表示など、博物館での行動羅針盤として必要不可欠である。

・ 情報表示の流れは、博物館の全館案内に始まり、ギャラリー案内（コーナー表示)、展示項目解説、最後に遺物解説となり、情報をレベル化してビジターの「読むか読まないか」の取捨選択を容易にする工夫も必要である。

左上：展示空間内の「ギャラリー案内コーナー展示」パネル位置（緑色）

下図左より：博物館の全館案内、ギャラリー案内（コーナー表示)、展示項目解説（情報形態による大きさとパターン分けイメージ)、遺物解説ラベル

右上：ギャラリー案内において、年表に色づけして内容・時代のガイダンスとする案

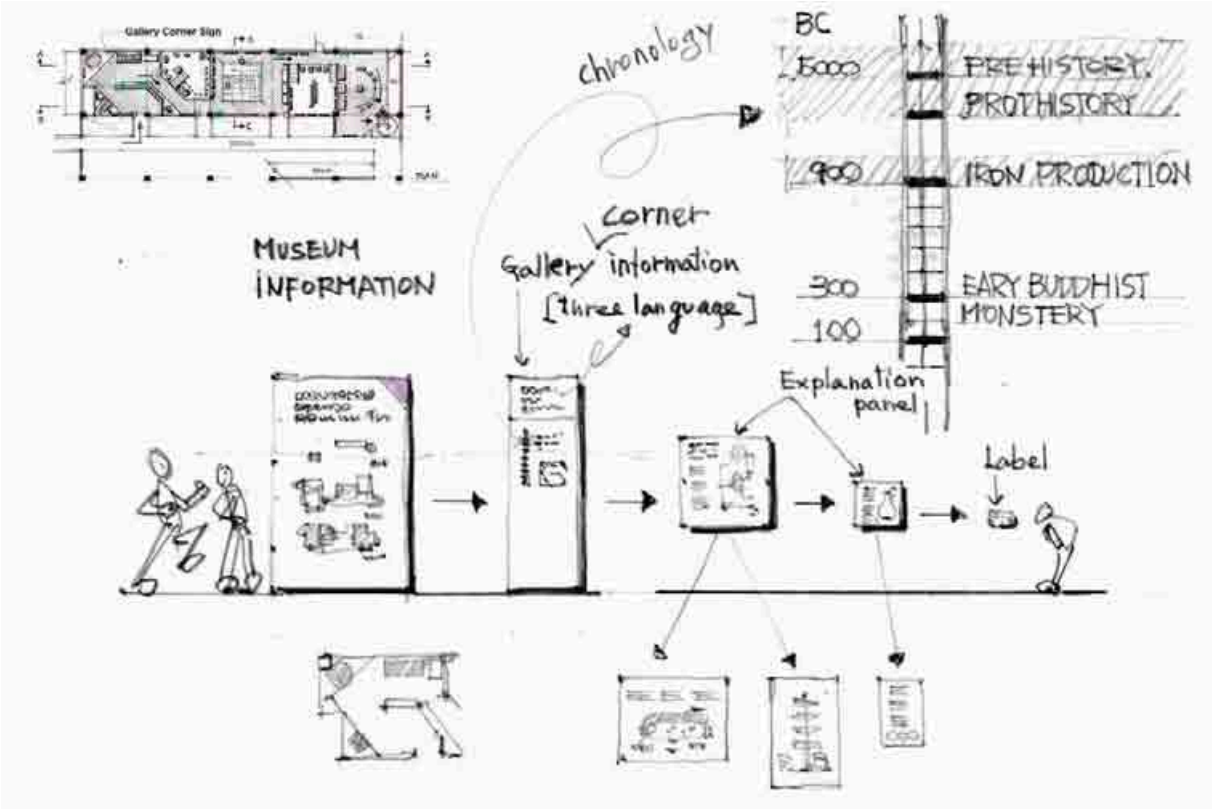


図４－15　情報展示パネルでの情報レベル化

まとめとして前述の展示基本コンセプト、博物館内の導線、展示内容案を「新博物館をビジターが体験」という架空の設定で以下に解説してみた（添付委員会プレゼンテーション資料を参照）。

シーギリア遺跡を見る前にＡさんは新しい新博物館に立ち寄った。博物館は木々に溶け込み、水路をまたぐ建物で、休憩スペースとしてもちょうどよいように見えた。１階入口から入り、すぐ博物館フロアである２階に向かった。２階に出ると屋外だか屋内だかわからない開放的な廊下が続き、左を見るとシーギリア・ロックを絵のように切り取った窓が見えたので、写真を撮った。

そのまま先に進むと広いロビー空間にでた。ちょっとしたリセプションなどもできそうな広い空間で、中央に展示ケースが１つ見える。展示ケースに寄っていくと、左側に解説ビデオが流れている部屋が見えたので入った。天井から釣り下がったモニターが数台見え、Ａさんは英語で遺跡案内が流れている画面の下で足を止めた。しばらく見たあと、さらに奥の画面に近寄ると内容が違うビデオであることがわかり、公用語３カ国語でループしていたので、英語になるのを待って見た。団体客が遺跡案内ビデオだけを見て、サッとグループで去って行くのが目に入った、博物館を見ずにそのまま遺跡に向かったようだ。

Ａさんはビデオが面白かったので博物館も見てみようと思った。ロビーに戻って先ほどの展示ケースを目指して歩き始めると、右手に博物館の案内パネルと、博物館の入口らしい、古代の建造物のようなアーチが見えた。パネルをしばらく読み、アーチへ進む。アーチの左右、色ガラスの壁の向こうに博物館が透けてみえ、期待が高まった。ちなみにロビーの奥は大きな窓の奥に大きな木があり、窓ガラスになにやら碑文のようなものも見え、それを見ているビジターもいる。展示ケースの中には石像があるようである。ロビー奥には屋外シアターへの入口も見えたのでＡさんは後で公演案内を手に入れようと思った。学生の団体が横手の階段から３階に上がるのが見えた、学習室でもあるのだろうか。

Ａさんは暗いトンネルのようなアーチを抜けて、明るく広い博物館スペースにでた。順路に従い１つ目の展示室に入ると、太古にシーギリア・ロックが形成された話から始まり、スリランカの遺跡分布が地図などで解説されている。Ａさんがパネルを確認すると、第１ギャラリー、テーマは考古学的背景と書いてあり、年表があって一番古い時代に自分がいるのがわかった。壁の図パネルや解説パネルを読みながら進むと、おおきな溶鉱炉とお墓が展示されている。全部レプリカのようだが、精巧にできている。シーギリアで大掛かりな鉄生産が、南アジアでも早い時期に行われていたことをＡさんは初めて知った。巨石墓のこともあまり知らなかったので、シーギリアの周辺で出土したという遺物を興味深く見た。副葬品は本物が展示されていた。

そのまま進むと、左手にアートギャラリーのような空間があった。第２ギャラリーである。

古そうな仏像や埴輪像のようなものが、一段低い床の暗い空間にライトアップされている。仏足石やら、変わった形のものも見える。パネルをざっと読むと、シーギリアは昔、僧院だったらしい。一段下に下りて仏像を近くから眺める人もいたが、A さんはそのまま進んだ。

暗いギャラリーを過ぎて突然、床が明るいので A さんは驚き足を止めた。第３ギャラリーではガラスの床が広がり、床下に遺跡の模型がある。部屋全体が模型のようだ。他のビジターは、立ったりしゃがんだり、ガラスに乗って模型を見ている。A さんもガラスを踏むと空中を歩くようでわくわくした。上空から見るとシーギリアは遺跡が整然と並んでいるのが見える。壁を見るとマンダラのように設計された水中庭園と解説してあった。A さんはさらに他の庭園もあることを初めて知り、解説と模型を比べて模型の上を歩いた。僧院も場所をチェックし、遺跡に行った際に寄ろうと考えた。

A さんは岩の上に王宮があるとは聞いていたが、模型で見るとやはり驚いた。そして実際の遺跡がかなり大きいとわかったが、壁の地図によると昔の「王城」域はさらに大きかったらしく、それが印象に残った。他のビジターが何かパネルを操作している。見ると、天井近くの壁面に頂上の王宮の復元図が映しだされていた。ボタンを押すと別の図に変わるらしく、A さんもやってみた。復元にはいろいろな学説があるようで、屋根が奇抜な復元図、王宮の入口にライオンがまるごと彫刻されている復元図もあった。このような王宮をつくった「伝説のカシャパ王」に興味が沸き、A さんは続けて壁面のパネルをしばらく読んだ。

A さんが第４ギャラリーに進むと、第２ギャラリー同様、一段低い床の部分があり、「鏡の壁」の実物大レプリカがあった。A さんが降りてレプリカに近づくと、詩の朗読が聞こえた。「鏡の壁」に彫ってある詩のようだ、古代シンハラ語だろうか？周りにはフレスコ画のパネルが展示されている。有名なシーギリアレディーのフレスコ画以外にもいろいろあったようだと A さんは理解した。「鏡の壁」の反対側にもフレスコ画があったらしい、あの、模型でみた大きな岩山全面に絵が描かれていた可能性もあることを A さんは初めて知り、驚いた。A さんは通路に戻るとき、通路近くの展示ケースに注目した。そこにはテラコッタの女性像があり、古代のお土産品だったと書いてある。同じものがミュージアムショップにあるといいな、と A さんは思った。

パネルによれば、続く第５ギャラリーの標題は「宮廷や僧院での生活」である。A さんはまず部屋の真ん中にある展示に惹かれ、寄ってみた。大きな金と宝石のちりばめた耳飾りで、囲むように写真パネルが飾ってある。展示ケースにはレンズも付いており、耳飾りを拡大して見ることができるようだったが、少し混んでいたので A さんは写真パネルをざっと見てそのまま移動した。宮廷や僧院で使ったさまざまな考古学遺物があちこちに展示解説してあり、A さん

は少しずつ拾い読みしながら先に進んだ。

ギャラリーの最後にヨーロッパのものと思われる大きな錠が出てきてＡさんは驚いた。解説を読むと、ヨーロッパ勢力にスリランカ人が対抗した時代、シーギリアは一時アジトとして利用されたようである。ポルトガルの砦の錠だったのだろうか。カシャパ王の時代の後、シーギリアはジャングルに埋もれていたと思っていたが、第４ギャラリーのお土産品といい、この錠といい、人の出入りは続いたのだとＡさんは初めて知った。

最後に昔の白黒写真を大きく引き伸ばしたものがＡさんの目にとまった。シーギリアを遺跡として再発見した考古学者だろうか、西欧の学者が大きなブランコのようなものにつかまって、空中からフレスコ画を調べている写真だ。ギャラリー出口部分に螺旋階段があり、３階に続いている。遺跡では螺旋階段でフレスコ画を見にいくと知っていたので、Ａさんはほかのビジターとともに螺旋階段を上った。やはり、フレスコ画があった。細長い空間に、実物大モデルが展示してある。Ａさんは本物を見にいくつもりなので、立ち止まるビジターの間を通り抜けて､フレスコ画を軽く鑑賞しつつ出口のスロープに向かった。どうやら展示は終わりのようだ。

スロープは広い吹き抜け空間を通っており、Ａさんはガラス壁を通る自然光と開けた視界を楽しんだ。３階から２階へスロープを降りきると広い部屋があり、外のテラスにも出られるようだ。飲み物やお菓子を売っていて、外では家族連れがお弁当を広げていた。

Ａさんは休まずに休憩スペースを通りすぎ、出口に向かった。２階から１階へもスロープが続く。途中、右手に６部屋ほど展示ブースがあり、古代建築装飾の木彫り実演や、シンハラ語文字の発達のパネル展示があったので、Ａさんはつい立ち寄った。スロープに戻らずともブースからブースへと出口に向かえるようだったので、Ａさんはそのまま幾部屋か通り抜けた。

１階部分に到達すると、左右にブックショップが広がっている。Ａさんはスリランカの歴史に少々興味がわいたので入ってみた。きれいな写真集や専門書が展示するように並んでいる。博物館の解説パネルを小冊子にまとめたものが安かったのでＡさんは購入した。現地語版を購入する学生の姿も見えた。ギャラリーで見たテラコッタ「古代お土産」の複製品は精巧なものを売っていたが高かったのでやめた。しかし、そのほかのお土産品はちょっとしゃれたものを売っていたので購入した。

ブックショップから出口へ向かう通路は、手すり部分に水蓮が植わっているきれいな渡り廊下であった。下には水路が見え、緑に囲まれ、Ａさんは王宮の庭園もこういう感じだったのかなと、ふと思った。そして、遺跡のどの部分を見ようかと楽しく考えながら遺跡へと向かった。

(10) 機材概算

ここではギャラリー内装を含め、展示に関する費用を算出し、機材大概算とした。ただし映像ソフトに関しては、シナリオ等の内容により、積算条件が大きく異なるため積算外とした。項目は以下のとおりである。

強調しておきたいのは、これは展示内容物の概略をもとに試算した大概算であるという点、そして、これはすべてで日本国内製作として算出しているという点である。今後の調査段階でスリランカ国側と協議し、役割を分担することを前提としている。

また、例として機材概算には設計費等を含めた経費 20%を含めた。

1. 内装造作費			¥ 27,250,000
床	200 ㎡ × @50,000	=10,000,000	
階段	3 カ所　3 × @250,000	=750,000	
手摺	33m × @15,000	=500,000	
ガラス床	20 ㎡ × @800,000	=16,000,000	
2. 展示造作費			¥ 1,500,000
展示壁	43m × @35,000	=1,505,000	
3. 展示機材費			¥ 19,300,000
ガラスケース	18 台 × @750,000	=13,500,000	
展示台	13 台 × @100,000	=1,300,000	
演示具	100 × @45,000	=4,500,000	
4. 情報機材費			
a) グラフィックパネル、解説・誘導サインパネル等			¥ 13,600,000
コーナー表示	7 台 × @300,000	=2,100,000	
グラフィック	30 枚 × @300,000	=9,000,000	
解説・キャプション	500 枚 × @5,000	=2,500,000	
b) 模型、レプリカ、ジオラマ等			¥ 49,300,000
模型（遺跡ランドスケープ）	38,800,000		
サイズ　5m × 5m			
縮尺　1/200 から 1/250			
レプリカ			
人骨　1m × 2m		=3,000,000	
石棺　1m × 2m		=3,000,000	
溶鉱炉　直径 2m × 2m		=4,500,000	

c) オーディオビジュアル（AV）機材	￥ 13,000,000
ロビー AV 機材（３セット @ １セット　3,100,000）	=9,300,000
1セット: フラットモニター (50 インチ) ２台 × @800,000	=1,600,000
ハードディスク、DVD、etc. 一式	=1,500,000
プロジェクター（ギャラリー３）一式 3,700,000	
一式 : プロジェクター（ANS3000 以上）	=2,000,000
タッチパネル、PC、etc.	=1,700,000
d) IT 機材（検索装置等）	￥ 7,500,000
検索装置 (メインギャラリーうち5カ所）タッチパネル、PC、etc. @ 1,500,000	
5. 展示照明機材費	￥ 3,500,000
スポット照明機材（100 灯）	
小　計	￥ 134,950,000
設計費等を含めた経費（例として 134,950,000 × 20%）	￥ 27,000,000
全部日本で製作した場合の合計（映像ソフト除く）	￥ 162,000,000

4－5　シーギリア博物館展示機材の維持管理

展示機材の維持管理に関しては、スリランカ側は、1) 自国の技術レベルに即した機材の導入 (例: メンテナンスの高価な機材は避ける、入手しやすい照明具などを使用する）という配慮を求めている。2) 維持管理の指導という面での技術協力も求めている。ことが判明した。

さらに、協議のうえ、維持管理に関わる以下の具体的提案がスリランカ側からあげられ、調査団として賛意を示した。

- 展示デザインの趣旨を博物館責任者によく理解してもらうため、早期に Museum Curator となる人材を指定し、展示機材供与の設計・実施段階でカウンターパートとして関わらせることとしたい。
- 設備・機材のメンテナンスに関しては、Maintenance Engineer の役職者を博物館建設の最終段階（配線・配管時）及び展示機材供与の実施期間中にカウンターパートとして関わらせることとしたい。
- 各段階での継続性をもたせるため、例えば現調査団のために組織されたスリランカ側の委員会をアドバイザー的立場で存続させるとよい。
- 展示機材の一部及び映像ソフト等はスリランカ側で製作することになると思われるが、その製作指導管理に対する技術協力も日本に求めたい。

第５章　シーギリア地域の観光振興にかかるわが国技術協力の方向性

５－１　シーギリア地域の関連プロジェクト概況

JBIC の観光振興プロジェクトが現在進行中であり、スリランカ国側より、最近、日本の技術協力を求める要請書が提出された。前者に関しては２－３「ドナーの活動概要」参照。

５－２　シーギリア博物館活動振興と観光振興の連携

スリランカ国における国際観光の振興は国家的課題である。すでに 1970 年に The Development of Cultural Tourism in Ceylon と題する最初の内閣メモランダムがまとめられている。世界の中でも、最も早い時期に文化観光の重要性に気づいていた国であるが、その後の展開は必ずしも順調ではなかった。現在のスリランカにおける国際観光は、主としてヨーロッパからのビーチリゾート客が中心であり、今後はビーチリゾートとは異なる観光を魅力とした開発が必要になっている。その際に、スリランカが豊富に有する文化遺産を持続可能な形で活用する文化観光の推進が不可欠である。

文化観光を成功させるためには、強力な磁力を持つ文化遺産の存在が必要である。文化三角地帯には世界遺産をはじめ、数多くの文化遺産があり、それらが強力な磁力（magnetism）を発揮するので、国際観光の面で成功しうる可能性が高い。

以下、文化観光を成功させるために必要となる人員について考察する。

(1)　遺跡保護と観光振興の連携：heritage management/heritage tourism 専門家

文化三角地帯における文化観光を成功させるためには、文化遺産の保護と観光振興のバランスを図ることが不可欠であるとともに、国、province, district, municipality などが効率的に連携を図ることが重要である。特に、国の機関としては、観光省と国家文化遺産省がより有効なコラボレーションを図ることが求められている。文化遺産の保護と観光振興のバランスを図ることのできる heritage management や heritage tourism のノウハウを習得した専門家とともに、政府や自治体の各機関間のコラボレーションを円滑に推進できるコーディネーター（museum coordinator、後述）の養成が必要である。

(2)　革新的な博物館運営：マネージメント感覚を有する館長

文化三角地帯における文化観光を推進するうえで、シーギリア博物館は重要な役割を果たすことが期待されている。シーギリア博物館は、国内における「博物館革命」のさきがけになりうる博物館である。「博物館革命」の意味は、従来の国内の博物館にはない斬新な建物

の建設、革新的な展示の導入、先進的な教育プログラムの提供、来館者の満足の最大化、文化遺産の保護と活用のバランス化への貢献、新しい文化の創造への寄与、観光振興への貢献、地域社会の参画への配慮など、新しい基軸を打ち出し、グローバルスタンダードに見合う新しい博物館のさきがけになりうるということである。「博物館革命」を可能にするためには、新しい視点でミュージアム・マネージメントの革新を図らなければならない。博物館が有する各種の資源（人材、予算、資料、建物等）を戦略的かつ効率的に配分して、博物館のミッションの達成が必要になる。そのためには、優れたマネージメント感覚を有する館長の抜擢が求められる。

(3) 観光振興とビジター教育：博物館教育要員（museum educator/teacher）

シーギリアを訪れる観光客にとって、シーギリア博物館は情報センターやビジターセンターの役割を果たす重要な拠点になりうるものである。調査研究の専門家や保存・修復の専門家だけではなく、museum educator や museum teacher、後述の museum coordinator などの配置が必要になる。museum educator の役割は博物館における教育プログラムの策定であり、museum teacher の役割は教育プログラムに基づいて実際の教育を行うことである。

(4) 観光振興と情報発信：コーディネーター（museum coordinator）

シーギリア博物館には、museum coordinator という新しいタイプの専門家を配置すべきである。 museum coordinator は、博物館と博物館の外部の各セクターやアクターとをつなぐ役割を担っており、新しい文化の創造への寄与、観光振興への貢献、地域社会の参画への配慮などの重要課題の担当者として役割を果たすことが期待されている。museum coordinator は、トラベル･エージェントとのコラボレーションによって、シーギリア博物館を核にしたツアーを企画し、文化観光の振興の面で重要な役割を果たすことが期待されている。

museum coordinator はまた、museum industry の振興を図る役割を果たすことが求められている。museum industry とは、博物館が有する各種の資源を有効に活用して、新しい文化産業の振興を図ることが意味されている。たとえば、博物館のコレクションの一部を複製して販売するとか、博物館のコレクションや情報に基づいて新しい工芸品を創造して販売するなど、博物館資料の商品化を積極的に図るべきである。その際に、museum coordinator が館外の各セクターやアクターに積極的に働きかけて、博物館資料の商品化を推進しなければならない。

さらに、museum coordinator は、文化の三角地帯における多数の博物館をネットワーク化して、観光客やビジターがそれらの博物館を訪問しやすいように便宜を図るとともに、情報の共有化や情報の共同発信や出版物の流通などでも効率化を図ることが期待されている。

(5)　観光芸術の創造と顧客に対応した観光振興

文化三角地帯における文化観光の振興の面で、有形の文化遺産だけに頼るのではなく、伝統音楽や伝統舞踊などの無形文化遺産を観光の面で創造的に活用すべきである。シーギリア博物館の野外施設は野外劇場として活用できるので、観光客向けにパフォーミングアートを演じる空間として活用すべきである。伝統工芸や伝統芸能の技法を駆使して、観光芸術（tourist arts）という新しいジャンルの芸術を創造することが求められている。観光芸術は、観光客向けに創られる工芸や芸能を意味しているが、それらは伝統的な芸術に基づいており、新しい文化の創造という意味づけがある。

文化三角地帯では、文化観光だけでなく、エコツーリズムの開発も重要であり、近隣の植物園やアグリ・パークなどの利用を積極的に図るべきである。また、日本人観光客は文化観光も好きであるが、近年は健康志向が強いので、シーギリアエリアでもアユルベーダ（伝統医学）を活用した medical tourism の開発にも力を入れるべきである。

外国人観光客のニーズを確実にマーケティングする体制を整えることも必要であり、観光マーケティングをきちんと実施してニーズを確かめながら観光振興を図ることが不可欠である。特に、日本人観光客の行動パターンは独特なものがあるので、そのニーズを的確に把握したうえで、観光ルートの設定、情報発信の効率化などを図る必要がある。

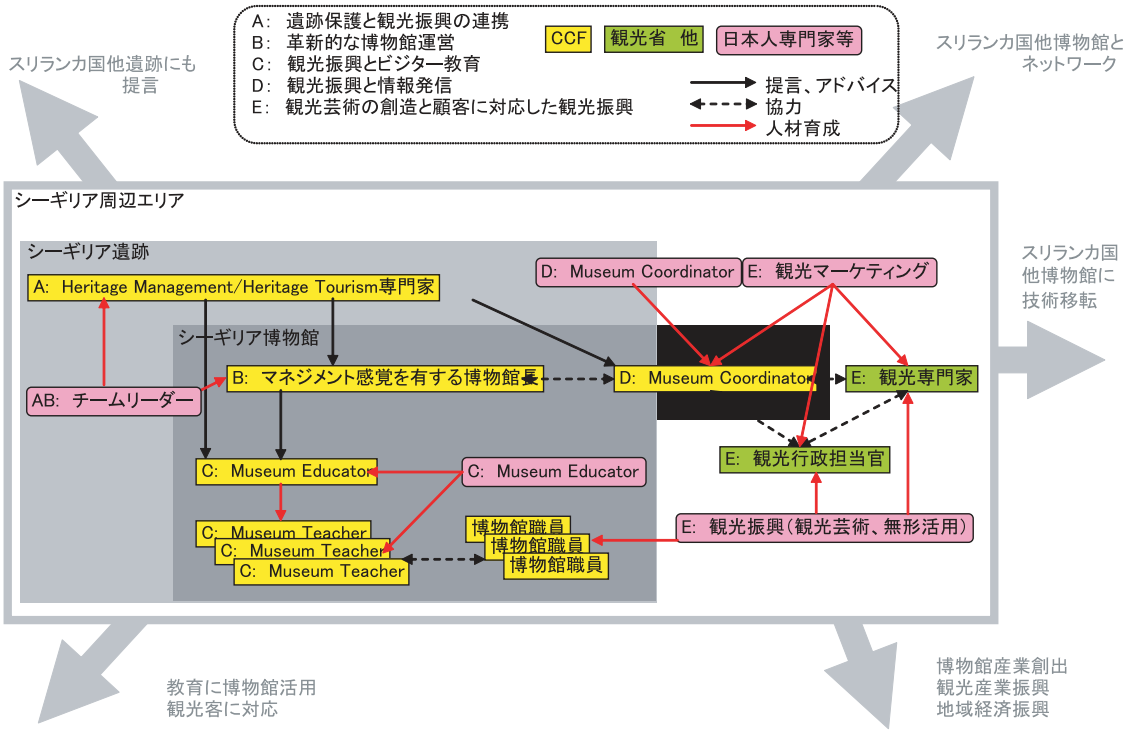


図５－１　A-E 項目の相互関係

5－3　前項を達成するための技術協力の方向性

以下にまとめ、後に詳しい技術協力形態の提案を述べる。

・ 文化三角地帯における文化遺産保護と観光振興のバランスを図ることが重要である。効率的で効果的な heritage management と heritage tourism の実現を図るためには専門家の養成が急務である（以下(1)参照)。
・ 文化三角地帯における文化観光を推進するうえで、シーギリア博物館は重要な役割を果たすことが期待されており、スリランカ人の博物館スタッフに対する JICA 研修事業の強化を図ることも必要である。museum educator や museum coordinator などの博物館で重要な役割を担う専門家の養成に対する技術協力が不可欠である（以下(3)、(4)参照)。
・ museum industry や tourist arts や無形文化遺産の活用などの分野における日本人の専門家を現地に派遣し､技術協力を行わなければならない。さらに､日本人観光客に対するマーケティングの強化を図るために、スリランカ人の観光専門家に対する研修事業などを行うとともに、観光省や自治体などにおける観光行政担当者に対する研修事業において技術協力を行うことが望ましい（以下(5)参照)。

(1)　遺跡保護と観光振興の連携：heritage management/heritage tourism 専門家

文化三角地帯における文化遺産保護と観光振興のバランスを図ることが重要である。効率的で効果的な heritage management と heritage tourism の実現を図るためには専門家の養成が急務である。文化遺産の保護だけでなく、文化遺産の創造的活用の一つのあり方として heritage tourism について熟知する人材の養成が不可欠である。スリランカにおいては、すでに文化遺産の保護に関する専門家は多数存在するが、heritage management と heritage tourism の双方についてのノウハウを習得した専門家がほとんど存在していない。北海道大学は、2007 年４月から観光創造専攻の大学院の新設が正式に認可されたので、heritage management と heritage tourism 専門家の養成に本格的に取り組む予定である。JICA のプログラムで、スリランカ人の大学院生が北海道大学の大学院「観光創造専攻」で学ぶことができるように協力することが重要である。

わが国の技術協力のまとめ役として、文化遺産保護と観光振興のバランスという観点から特に(1)、(2)分野でアドバイスできる日本人専門家を配置するのが望ましい。

(2)　革新的な博物館運営：マネージメント感覚を有する館長

館長の選抜はスリランカ側の問題であるが、上述の条件に該当する人物の選抜を強く勧め

ることが望ましい。

(3) 観光振興とビジター教育：博物館教育要員（museum educator/teacher）

文化の三角地帯における文化観光を推進するうえで、シーギリア博物館は重要な役割を果たすことが期待されており、スリランカ人の博物館スタッフに対する JICA 研修事業の強化を図ることも必要がある。museum educator や museum coordinator などの博物館で重要な役割を担う専門家の養成に対する技術協力は不可欠である。

museum educator は JICA 研修事業をとおして国立民族博物館の博物館キュレーター訓練コースに参加させ、または日本側から専門家やボランティアを派遣して現地で訓練すべきである。museum teacher は museum educator が訓練すべきである。

(4) 観光振興と情報発信：コーディネーター（museum coordinator）

文化の三角地帯における文化観光を推進するうえで、シーギリア博物館は重要な役割を果たすことが期待されており、スリランカ人の博物館スタッフに対する JICA 研修事業の強化を図ることも必要がある。museum educator や museum coordinator などの博物館で重要な役割を担う専門家の養成に対する技術協力は不可欠である。

博物館活動と観光振興の連携にキーパーソンとなる museum coordinator であるが、このスリランカ人博物館スタッフに関しては従来の博物館系研修にとらわれない新しい養成コースが望ましい。理想を述べれば、すでに博物館スタッフとして十分に経験ある人物を抜擢し、後述のスリランカ国観光省や自治体スタッフと同時に地域観光コーディネーター研修事業へ参加したり、上述の北海道大学大学院で短期研修を行ったりして、多分野にわたる知識を得ると同時に関連機関との連携が深まるような養成コースが望ましい。

museum coordinator、または後述の観光振興関連職の技術協力・人材育成に関連事業の JBIC/TRIP の仕組みが利用できれば、連携の強化という点でもより一層有効ではないかと考える。

(5) 観光芸術の創造と顧客に対応した観光振興

スリランカ人の観光専門家に対する研修事業などを行うとともに、観光省や自治体などにおける観光行政担当者に対する研修事業による国際協力を行うことが望ましい。研修形態としては、例えば JICA 札幌が札幌国際大学と共同で行った、東欧の観光振興事業対象の研修のようなものがふさわしいと考察する。

無形文化遺産活用、観光芸術創造、日本人観光客のニーズを把握したうえで、観光マーケ

ティングなどの分野に関しては、ボランティアの派遣などを通じての協力という形態も考えられる。この場合は、博物館開館時期をはさみ、準備と実施を両方行えるようなスケジュールが望ましい。

わが国の技術協力がスリランカ側から求められている人材（セクション４－５及び５－３）の投入案を、博物館建築施工・展示施工・完成開館の予想スケジュールと合わせて表示したのが図５－２である。

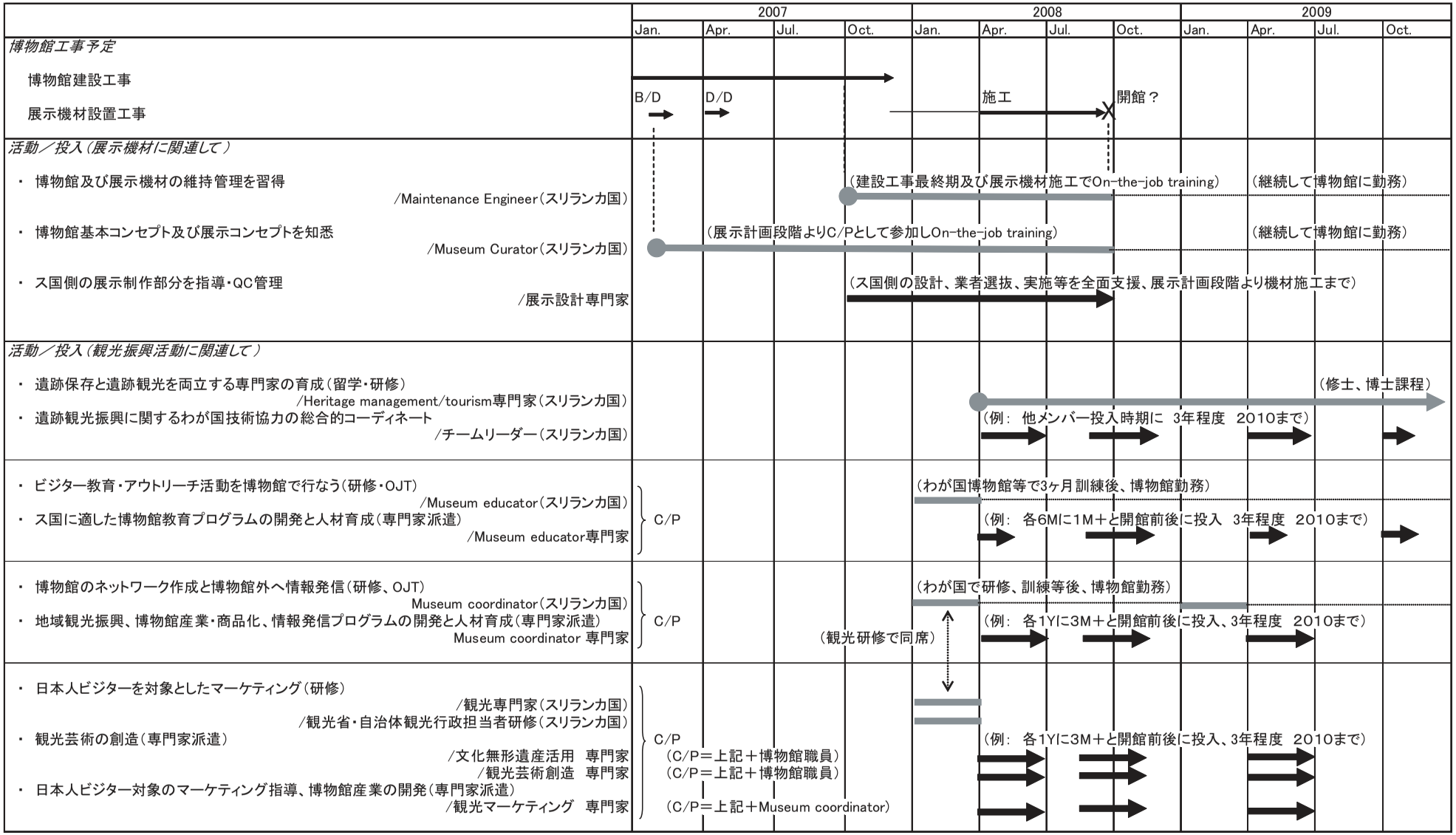

2007
2008
2009
Jan.
Apr.
Jul.
Oct.
博物館工事予定
博物館建設工事
展示機材設置工事
B/D
D/D
施工
開館？
活動／投入（展示機材に関連して）
・ 博物館及び展示機材の維持管理を習得
/Maintenance Engineer（スリランカ国）
（建設工事最終期及び展示機材施工でOn-the-job training）
（継続して博物館に勤務）
・ 博物館基本コンセプト及び展示コンセプトを知悉
/Museum Curator（スリランカ国）
（展示計画段階よりC/Pとして参加しOn-the-job training）
（継続して博物館に勤務）
・ ス国側の展示制作部分を指導・QC管理
/展示設計専門家
（ス国側の設計、業者選抜、実施等を全面支援、展示計画段階より機材施工まで）
活動／投入（観光振興活動に関連して）
・ 遺跡保存と遺跡観光を両立する専門家の育成（留学・研修）
/Heritage management/tourism専門家（スリランカ国）
（修士、博士課程）
・ 遺跡観光振興に関するわが国技術協力の総合的コーディネート
/チームリーダー（スリランカ国）
（例： 他メンバー投入時期に 3年程度 2010まで）
・ ビジター教育・アウトリーチ活動を博物館で行なう（研修・OJT）
/Museum educator（スリランカ国）
・ ス国に適した博物館教育プログラムの開発と人材育成（専門家派遣）
/Museum educator専門家
C/P
（わが国博物館等で3ヶ月訓練後、博物館勤務）
（例： 各6Mに1M＋と開館前後に投入 3年程度 2010まで）
・ 博物館のネットワーク作成と博物館外へ情報発信（研修、OJT）
Museum coordinator（スリランカ国）
・ 地域観光振興、博物館産業・商品化、情報発信プログラムの開発と人材育成（専門家派遣）
Museum coordinator 専門家
C/P
（わが国で研修、訓練等後、博物館勤務）
（観光研修で同席）
（例： 各1Yに3M＋と開館前後に投入、3年程度 2010まで）
・ 日本人ビジターを対象としたマーケティング（研修）
/観光専門家（スリランカ国）
/観光省・自治体観光行政担当者研修（スリランカ国）
・ 観光芸術の創造（専門家派遣）
/文化無形遺産活用 専門家
/観光芸術創造 専門家
・ 日本人ビジター対象のマーケティング指導、博物館産業の開発（専門家派遣）
/観光マーケティング 専門家
C/P
（C/P＝上記＋博物館職員）
（C/P＝上記＋博物館職員）
（C/P＝上記＋Museum coordinator）
（例： 各1Yに3M＋と開館前後に投入、3年程度 2010まで）

図５－２　技術協力投入案

添　付　資　料

1.　委員会作成　シーギリア博物館建築計画案、展示計画案プレゼンテーション資料（9 月 19 日発表）

① 建築家で新博物館設計者の Ellepola 氏プレゼンテーション資料

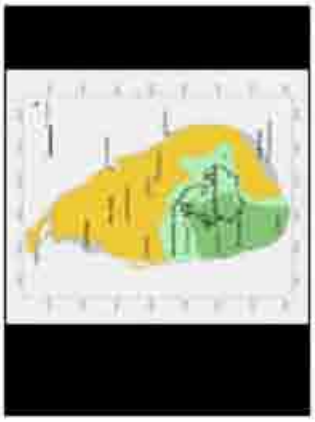
② シーギリア研究第一人者である考古学者 Bandaranayake 教授プレゼンテーション資料

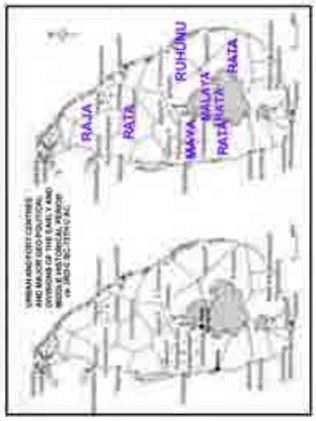
2.　調査団作成　シーギリア博物館展示計画案プレゼンテーション資料（9 月 27 日発表）

3.　収集資料リスト

1．委員会作成　シーギリア博物館建築計画案、展示計画案プレゼンテーション資料（9月19日発表）

①　建築家で新博物館設計者のEllepola氏プレゼンテーション資料





Periodisation

Sri Lankan history can be broadly divided into SIX major periods (with many overlaps and subdivisions):

Prehistory	125000 BC (or earlier)
Protohistory	1000 BC
Early Historical	3rd cent. BC-5th cent AC
Middle Historical	6th cent -13th cent AC
Late Historical	13th cent - 19th cent AC
Modern transitional	19th cent AC

Early Historical Period

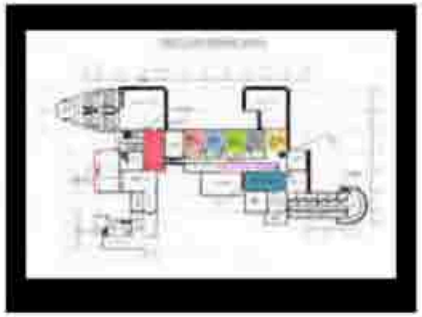
- Phase 1: 3rd cent BC -1 st cent BC/AC
- Phase 2: 1st cent BC/AC -3 rd cent AC
- Phase 3: 3rd cent -5 th cent AC
  — *'the Sigiriya episode'* —

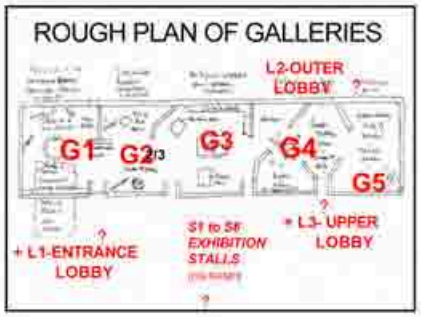
Middle Historical Period

- Phase 1: 6th cent - 8th cent AC
- Phase 2: 9th cent -10 th cent AC
- Phase 3: 11th cent -13 th cent AC

SIGIRIYA MUSEUM -1

ARCHITECTURAL SPACES





• END OF SECTION 1

SIGIRIYA MUSEUM -2

THE PHILOSOPHY
BEHIND THE DISPLAY

the main principle
"artefact is text"

The basic focus:
Sigiriya is a multi-layered,
multi-period archaeological
& aesthetic experience

the essential function

to provide the visitor with a series of
archaeological experiences
so that he or she is **immersed**
in the **different aspects** of
the archaeology of Sigiriya

total experience
"transported back in time"

visitor is transported
back in time to the
different periods in
Sigiriya 's history

immersion is primary
provision of information
comes second

the audience

CATEGORY A

first time Sri Lankan visitors incl. pilgrims, schoolchildren

-- sees the information video

-- moves quickly round the galleries

-- absorbs quite a lot (sometimes subliminally)

CATEGORY B

the average visitor

-- sees the information video

-- goes around the galleries but does not read each text

-- takes in the broad 'landscape'

-- looks closely at a few displays which attract his/her interest;

CATEGORY C

the interested visitor (and the 'specialist')

-- looks to learn something new

-- looks carefully at several displays

-- likes to be provided with essential information in a nutshell and may look for further reading

CATEGORY D

the foreign visitor to the World Heritage site

-- may belong to any one of the three categories above

the visitor information system

the exhibition display and the total 'Visitor Information System' must be operational at several levels

Level 1
the 'drama' factor

- immediately dramatic, attractive 'atmospheric' – attention-drawing!!
- even before it is 'read' or understood; "artefact=text + the 'drama' factor !

Level 2
basic headline information

indicating the main subject of the display
5 to 10 words max
(Sinhala-Tamil-English)

Level 3
artefact label

- (discreetly placed)

identity-provenance-date-
- material where relevant
(Sinh & Eng only)

Level 4
short explanatory texts

- relating to each unit, sub-unit or display
Around 80 to 120 words
(Sinhala -Tamil - English)

Level 5
maps, plans, diagrams

- clarifying, supplementing, expanding, supplanting, information and experience conveyed by artefact display
(Sinh and Eng only)

- **supplementary visitor information system in auditorium and bookshop**

Level 6
information leaflets

- expanded version of Level 4 texts or a wider subject, in all three languages in a brochure or guidebook form for purchase at a modest price

Level 7
*** auditorium video shows ***

short introductory information video of about 5 to 7 minutes in all three languages
(SinhalaX 3 / Tamil X1 English X 1
and other languages on request)
– Sequence: Sinh-Tam-Sinh-Eng-Sinh-Tam-Sinh-Eng-Sinh –

? Short videos on various aspects of the history archaeology & natural environment of Sigiriya
(in many different languages – everything available in DVD format for purchase)

Level 8
publications

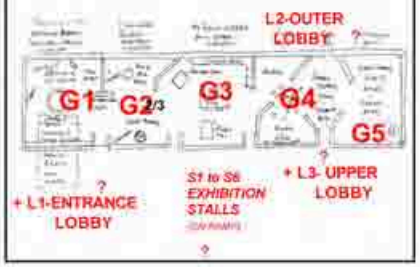
popular books, childrens' books, guide books and maps, more scholarly works, etc in the bookshop to add further material for information

- END OF SECTION 2
(The Philosophy behind the display)

SIGIRIYA MUSEUM - 3

THE EXHIBITION SPACES

ROUGH PLAN OF GALLERIES



8 Major Exhibition Spaces

- LOBBY 1: "SIGIRIYA IS 2500 MILLION YEARS OLD" - Geology of Sigiriya
- GALLERY 1: "SIGIRIYA IN ITS SETTING" - Archaeological landscape – Prehistory Protohistory – Iron production
  [Panchayatana Chart]
- GALLERY 2: THE EARLY AND LATER BUDDHIST MONASTERIES – Sculpture-Inscriptions-Plans
  [Kaduruwa Stone]
- GALLERY 3: THE ROYAL CITY – Urban plan – Palace - Architectural items - pottery - wells etc.-Gardens-Hydraulics -Mapagala (mainly slides, photos)
- GALLERY 4: THE PAINTINGS AND THE POETRY – Boulder Garden & other paintings – the Graffiti Wall – replica of a section - eye copies & translations
  [Terracottas, Ready Ceramics/Coins]
- GALLERY 5: THE HISTORY OF SIGIRIYA ARCHAEOLOGY- Hundred Centuries – History of Archaeology - Future research
- LOBBY 2: THE WATER GARDENS MODEL
- LOBBY 3: THE FRESCO POCKET – replica of a section of entire fresco (pocket

6 Supplementary Exhibition Spaces (on ramp)

- STALL 1: PAINTING TECHNIQUES – Historical and Traditional techniques in the preparation and application of pigments and plasters
- STALL 2 : TIMBER ARCHITECTURE – Display panels of Sri Lankan Timber Architecture and Architectural Technology through the centuries
- STALL 3 : WOOD CARVING – Historical and Traditional wood carving techqniues
- STALL 4 : STALL 5 STALL 6

ROUGH PLAN OF GALLERIES

- END OF SECTION 3
  [Exhibition Galleries]

SIGIRIYA MUSEUM - 4

Lobby 1
SIGIRIYA GEOLOGY

LOBBY 1

– "SIGIRIYA IS 2500 MILLION YEARS OLD"

LOBBY 1: "SIGIRIYA IS 2500 MILLION YEARS OLD"

- The Sigiriya rock goes back in Geological Time to the Precambrian Era, the earliest epoch in the Earth's formation.
- It is a Middle Precambrian *inselberg* or 'island-mountain' about 2500 to 1800 million years old.
- Geological strata visible on the rock face reflect successive Precambrian geological processes.
- Sigiriya has a variety of rock types useful for many practical purposes and geological research.

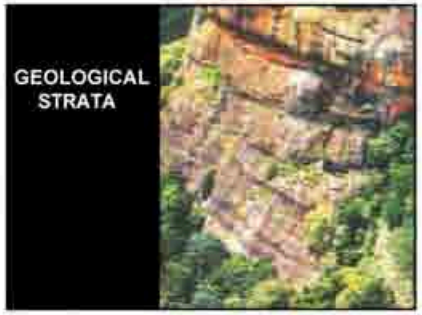
SIGIRIYA GEOLOGY DISPLAY

Artefacts

- Labelled **geological samples** (in table level or wall display glass cases)
- Large **Matale pink quartz chunk** as centrepiece

Plans/Diagrams/Photos

- Large **backlit photo** of a strip of the west face elevation of the rock, with lines marking the geological strata
- (Dr Kehelpannala of IFS has undertaken to do this)
- Other **smaller photos** of turgid geological strata showing dynamic geological processes



• END OF SECTION 4
(Sigiriya Geology)

SIGIRIYA MUSEUM - 5

Gallery 1

"SIGIRIYA IN ITS SETTING"

1a-the Archaeological Landscape

1b-Prehistory 1c - Protohistory

1d-Iron Production

GALLERY 1a

THE ARCHAEOLOGICAL LANDSCAPE

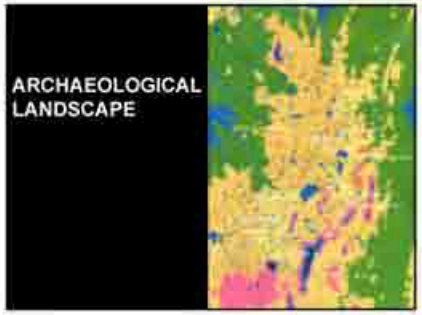
GALLERY 1a: "SIGIRIYA IN ITS SETTING"

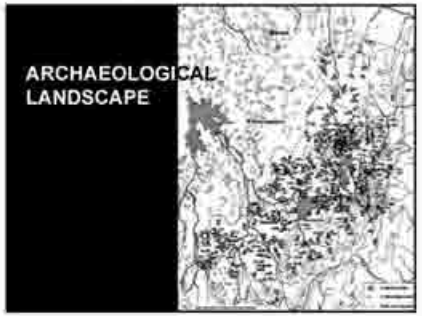
? The Sigiriya basin is defined by a rim of mountains on its horizon. Was this the ancient *Sihagiri bim* of the inscriptions?

? The Greater Sigiriya area, with its rich, dry tropical ecosystem, is a cultural landscape with many layers of human occupation. These extend over a period of 5000 years or more, from prehistory to the present day.

? It was an extensively populated region, as we see from its many archaeological monuments, irrigation works, settlement sites and production centres.

'A HORIZON RIM OF MOUNTAINS'





SIGIRIYA - A MAJOR COMMUNICATIONS HUB

In early and middle historic times Sigiriyawas a major communication hub between four key economic zones – urban, agrarian, irrigation, and port systems

It was also one of the gateways from the northern plains to the central mountains.

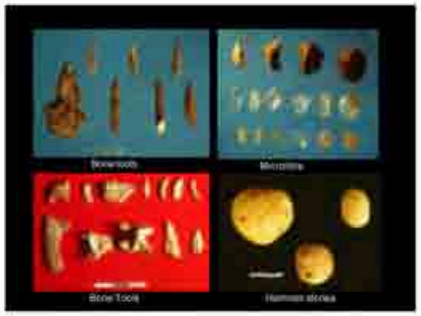
GALLERY 1b

PREHISTORIC SIGIRIYA

GALLERY 1b: PREHISTORIC SIGIRIYA

- Prehistoric humans occupied Sigiriya and the surrounding area from at least 5000 years ago.
- Excavations have revealed their ways of life, as evidenced by stone and bone tools, food residues and human and faunal remains.
- At rock shelters such as *Aligala* and *Potana* we have a stratigraphic sequence showing the connection between prehistoric, proto-historic and early historic layers.

POTANA ROCK-SHELTER EXCAVATIONS



'Potana Man' – well-preserved skeleton *circa 5000 BP* (now in National Museum Colombo – to be replicated for G1 display

PREHISTORY DISPLAY

Plans/Diagrams/Photos

- Photos of Potana and other **rock shelters** and **prehistoric environments**
- Large illuminated drawings and or computer enhanced photos of the best **stone and bone tools**
- **Stratigraphic sequence** from an excavation
- Sequence drawing of **Potana and Aligala sequence** from Set Arc 2 , showing pre-iron pottery usage (i.e. early food preparation)
- Colour map or satellite photo with site labels showing **prehistoric sites** in Greater Sigiriya area . This may be amalgamated with maps of **Proto-historic sites** and located in an area between the two displays
- Ethno-archaeology: Drawings or photos of hunting and trapping methods and Eva Myrdal's plan of a village catchment

PREHISTORIC SIGIRIYA:

THE ALIGALA AND POTANA SEQUENCE

- Aligala and Potana sequence – see SetArc 2 Page 14 – a ***simple colour diagram to be developed***

GALLERY 1c

THE PROTOHISTORIC TRANSITION

GALLERY 1c:THE PROTO-HISTORIC TRANSITION

? **The proto-historic transition (*circa* 1000-300 BC) was a step-by-step but fundamental change from itinerant food gathering and hunting to agrarian village settlement.**

? **This involved food production, pottery, irrigation, iron technology, the first written records and early urbanism.**

? **It is dramatically represented in the archaeological landscape by megalithic cemeteries, which carry signs of social differentiation and evidence of long-distance trade in luxury items.**

? **Sigiriya is surrounded by a 'megalithic landscape'.**

PROTOHISTORY DISPLAY

Artefacts

? **Ibbankatuva pottery** display –highly dramatic, a whole range of domestic pottery forms -from drinking bowls to large storage/burials jars

? **Ibbankatuva beads** – replicas

? **Copper items** from excavations

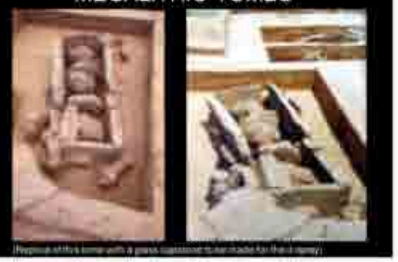
? **Three-chambered tomb** from Ibbankatuva with a clear plastic or glass moulded capstone

? **Estampages of letters** (framed in glass wall display unit, back lit ???)

PROTOHISTORY DISPLAY

- ***Plans/Diagrams/Photos***
- **Map of megalithic sites** in the region (see Prehistoric sites map above) with territorial radii indicators if relevant.
- Photos of excavations and of **megalithic tomb architecture**.
- Diagrammatic **conceptual sketch of the Ibbankatuva megalithic landscape** Enlarged back lit photos of **beads**

IBBANKATUVA MEGALITHIC TOMBS



(Replicas of this tomb with a glass capstone to be made for the display)

IBBANKAKATUVA MEGALITHIC TOMBS

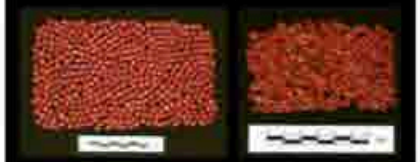
IBBANKATUVA MEGALITHIC TOMB

IBBANKATUVA POTTERY

complete set of pottery from Ibbankatuva
to be placed for display. (k-k-pottery typology)

IBBANKATUVA BEADS

IBBANKATUVA BEADS



IBBANKATUVA BEADS

GALLERY 1d

IRON PRODUCTION

GALLERY 1d: IRON PRODUCTION

- Iron technology played a historic role in the proto-historic transition and in later periods.
- Sigiriya was a core region in the production and distribution of iron, from as early as the 9th cent BC .
- About 45 iron production sites have been found in the area, including major ' industrial ' centres, using rows of furnaces based on a bellows driven multiple jet technique.
- The Alakolavava site, from where the furnace displayed here was excavated, was operational from the 1st to 4th century AC.
- Iron and later steel were of crucial importance in agriculture, domestic life, warfare, and architectural construction.

ALAKOLAVAVA IRON SMELTINGFURNACE WITH MULTIPLE TUYERES 1st -4 th Cent AC
(replica to be reconstructed for display)

- END OF SECTION 5
(Sigiriya in the setting)

SIGIRIYA MUSEUM - 6

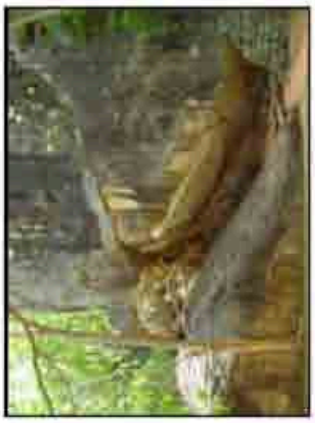
Gallery 2
THE EARLY AND LATER BUDDHIST MONASTERIES
2a: The Early Buddhist Monastery
2b: The Later Buddhist Monasteries

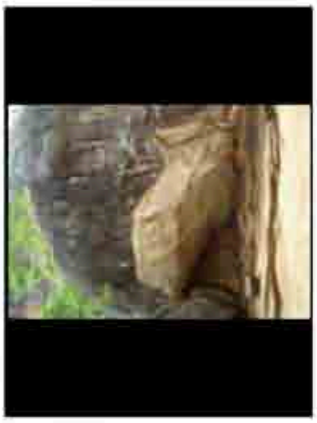
GALLERY 2a

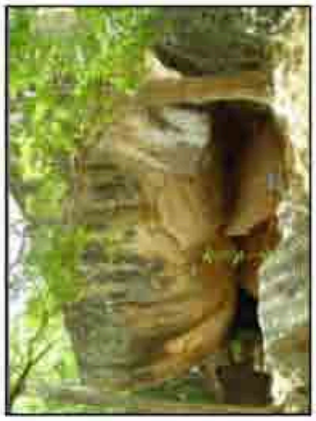
THE EARLY BUDDHIST MONASTERY

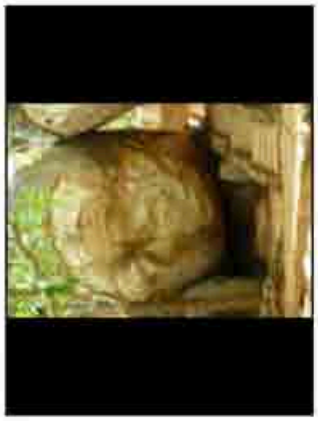
GALLERY 2a- THE EARLY BUDDHIST MONASTERY

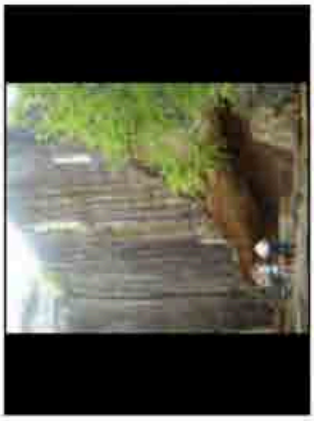
- An early Buddhist monastic settlement, was established at Sigiriya between the 3rd and 1st century BC.
- Remains of this are found in about 30 partially man-made rock-shelters on the hill slopes around the rock.
- Drip-ledge inscriptions record the donation of these dwellings to Buddhist monks.
- Several similar monastic settlements are found at Pidurangala and other sites in the region, including major settlements at Dambulla, Maha-Alagamuva and Ritigala
- The earliest sculptures in the Sigiriya area may be assigned to the later phases of these early settlements, after the 1st century BC.









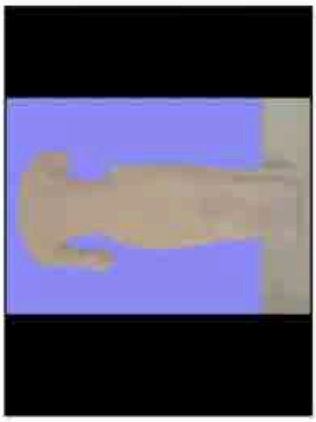
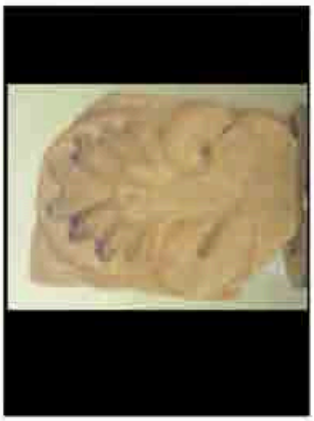


GALLERY 2b

THE LATER BUDDHIST MONASTERIES

GALLERY 2b: THE LATER BUDDHIST MONASTERIES

- After the royal and urban period under Kasyapa I (*circa* 477-95 AC), a Buddhist monastery was once again established at Sigiriya in its central and western precincts.
- This monastery and its successors lasted for about 800 years – through several phases of development, decline and reconstruction.
- Closely connected were neighbouring monasteries at Pidurangala and Ramakale.
- This complex of Sigiriya monasteries left behind a rich archaeological record of architecture, sculpture and fragments of painting.

– END OF SECTION 2
(The gallery and Sigiriya Museum)

SIGIRIYA MUSEUM - 7

Between Gallery 2 and Gallery3
THE STORY OF KASYAPA I

THE STORY OF KASYAPA I

- *Visitors will expect a brief narrative of the Kasyapa story. The new Sigiriya book has a circa 300 word summary which can be adapted into a three language notice, between Gallery 2 and Gallery 3 or in Gallery 3 itself.*
- *Somewhere in the exhibition area – outside the galleries (?) or in Gallery 3 – we will also need to reproduce the entire Culavamsa story (Chap.38.80 to about 39.430) in Sinhala (Batuwantudewe) and English (Geiger) translations (modified). Enough space must be available for three or four people to stand and read this, with others milling behind.*

– END OF SECTION 3
(The story of Kasyapa)

SIGIRIYA MUSEUM -8

Gallery 3
SIGIRIYA: ROYAL CITY,
PALACE AND GARDEN

GALLERY 3 – THE ROYAL CITY

- Between about 477and 495 AC., Kasyapa and his master-builders built a new capital city, to which they gave the name *Sinha-giri*, the 'Lion Mountain'.
- There were several phases of construction during Kasyapa's long reign and the complex was still unfinished at his death.
- Kasyapa's time is the golden age of Sigiriya, to which we owe much of what we see today – the ramparts, moats and gateways; its water systems and gardens; the ascent to the summit and the Lion Staircase; the Mirror Wall and the paintings; the palace on the rock and other architectural remains; the inner and outer cities east of the rock; and the final phases of the ancient Mapagala fortress.

THE GOLDEN AGE OF SIGIRIYA

We owe much of what we see today to Kasyapa's time, the golden age of Sigiriya:

- moats & gateways
- water systems & gardens
- ascent to the summit & the Lion Staircase
- Mirror Wall & paintings
- palace on the rock & architectural remains
- inner and outer cities to the east of the rock
- the final phases of the Mapagala fortress

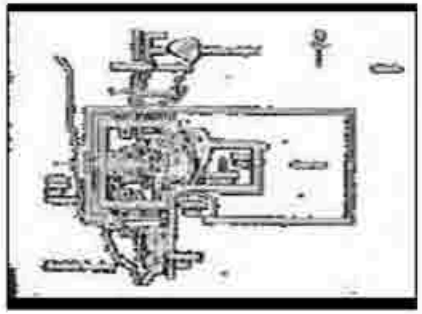
GALLERY 3:
SIGIRIYA – ROYAL CITY

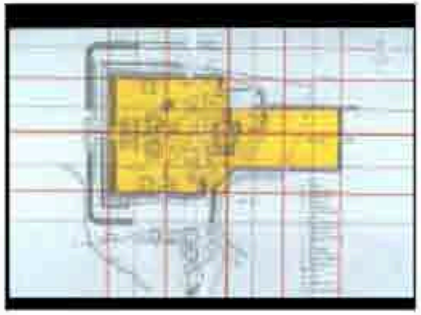
Artefacts

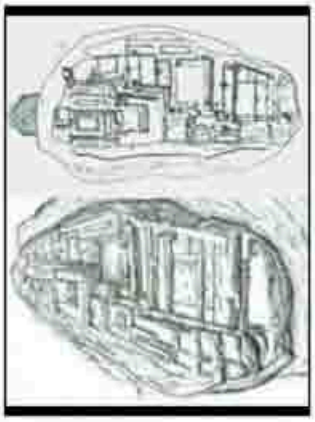
- terracotta architectural ornamentation
- tiles (incl. tile fragments from the palace)
- iron brackets and iron bands
- sword handle and replica of sword

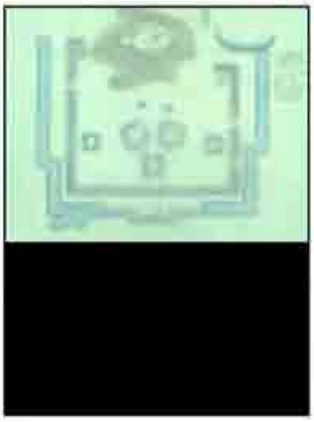
GALLERY 3:
SIGIRIYA – ROYAL CITY

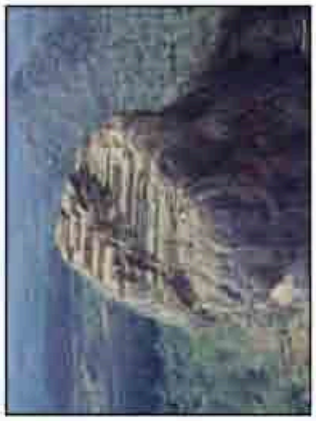
- *Photos/plans/diagrams*
- Centrepiece: backlit colour drawing of the Sigiriya complex, incl. Mapagala, monasteries, and part of Sigiriya lake (circular display table)
- wall centrepiece: *wall to ceiling* bird's eye view of palace, and plan of palace-in colour, backlit
- hologram, model or artist's impression of palace
- backlit table display plans of gardens, hydraulics
- Lion Staircase conjectures (at end of bridge?)
- panels of Kasyapa Story and Culavamsa description (in Gallery 3 ??)

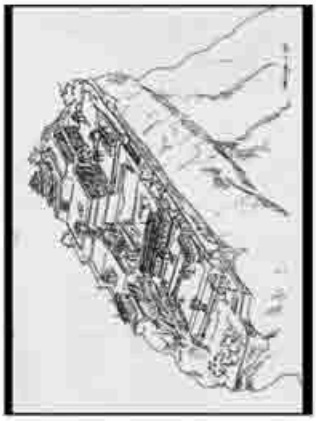


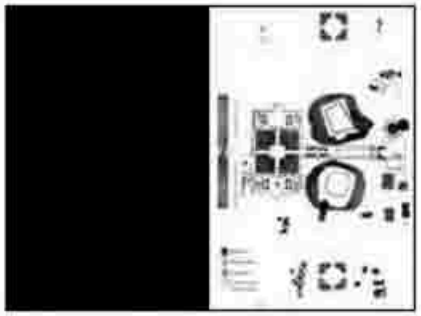


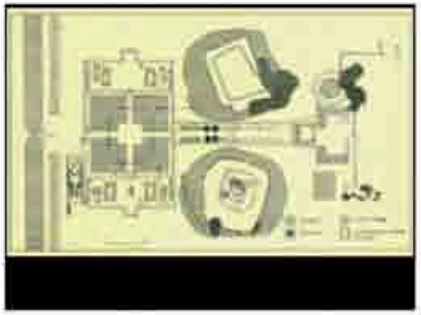


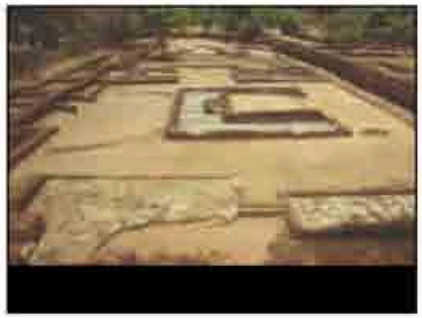


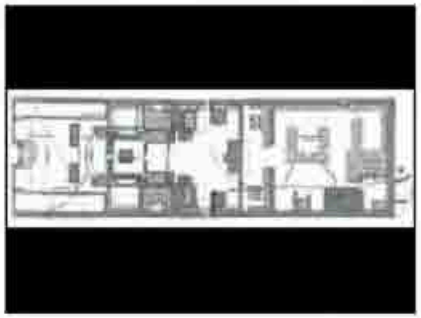












- END OF SECTION 8
(Sigiriya Rock Cliff)

SIGIRIYA MUSEUM - 9

Gallery 4

PAINTINGS, POETRY,

SOUVENIR SCULPTURES

GALLERY 4

PAINTINGS, POETRY AND SOUVENIR SCULPTURES

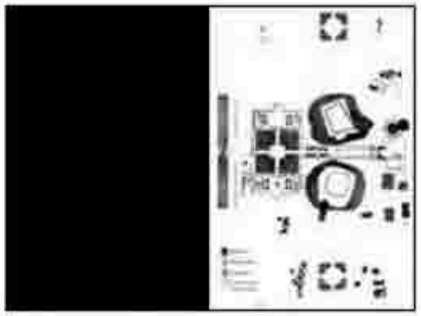
4a Paintings

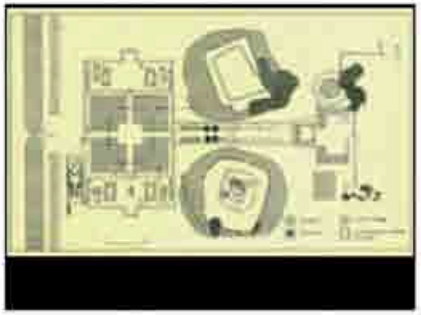
4b Poetry

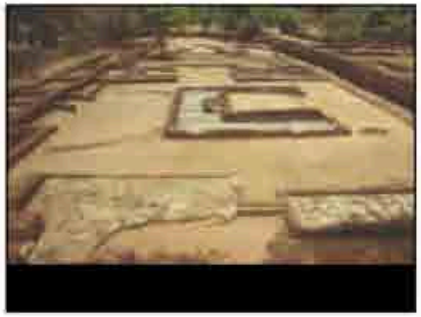
4c Souvenir Sculptures

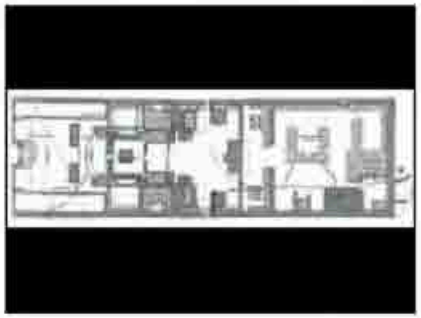
GALLERY 4: SIGIRIYA PAINTINGS, POETRY AND SOUVENIR SCULPTURES

- Note: This Gallery should be entirely dark, diagonally divided into two parts, with wall displays and the open centre space used for sculpture. Thus:
- (a) paintings – existing oil on canvas copies and, a few black-and-white linedrawings, enlarged (backlit ?), all hung on the walls;
- (b) replica of a section of the Mirror Wall and graffiti (if possible) and massive enlargements of rubbings, eye copies and Sinhala and English readings;
- (c) the central space occupied by a dramatic display of the terracotta souvenir figurines.









- END OF SECTION 8
(Sigiriya Rock Cliff)

SIGIRIYA MUSEUM - 9

Gallery 4

PAINTINGS, POETRY,

SOUVENIR SCULPTURES

GALLERY 4

PAINTINGS, POETRY AND SOUVENIR SCULPTURES

4a Paintings

4b Poetry

4c Souvenir Sculptures

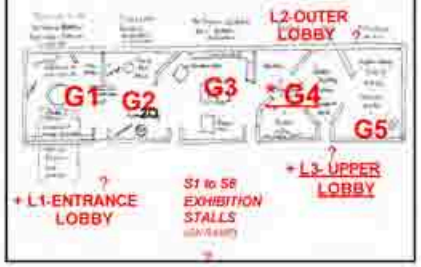
GALLERY 4: SIGIRIYA PAINTINGS, POETRY AND SOUVENIR SCULPTURES

- Note: This Gallery should be entirely dark, diagonally divided into two parts, with wall displays and the open centre space used for sculpture. Thus:
- (a) paintings – existing oil on canvas copies and, a few black-and-white linedrawings, enlarged (backlit ?), all hung on the walls;
- (b) replica of a section of the Mirror Wall and graffiti (if possible) and massive enlargements of rubbings, eye copies and Sinhala and English readings;
- (c) the central space occupied by a dramatic display of the terracotta souvenir figurines.

GALLERY 4a

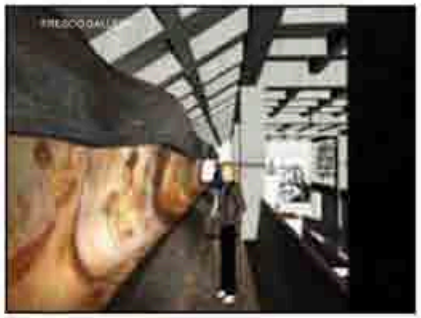
THE SIGIRIYA PAINTINGS

ROUGH PLAN OF GALLERIES



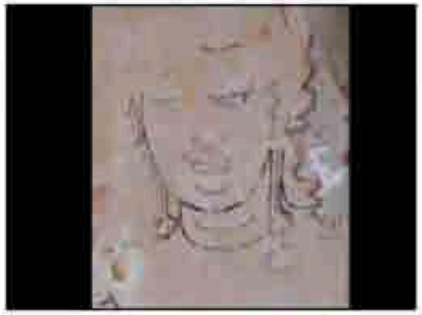
GALLERY 4a:
THE SIGIRIYA PAINTINGS

- The best-known feature of the Sigiriya complex is the sequence of 5th century paintings found in a depression halfway up the west face of the rock (*exhibited in upper lobby*).
- But the art of Sigiriya is not confined to these famous paintings.
- Equally important (for archaeology and art history) are paintings in the Boulder Gardens and fragments found on the outer surface of the Mirror Wall and in inaccessible depressions on the west face.



HIDDEN PAINTINGS ON THE OUTER FACE OF THE MIRROR WALL (recent discovery)

HIDDEN PAINTINGS THE ONLY MALE FIGURE IN THE SIGIRIYA PAINTINGS



GALLERY 4a:
THE SIGIRIYA PAINTINGS

- ***Artefacts***

Centrepiece: massive copy on canvas of ceiling painting from Rock-Shelter 9

Other copies of paintings from Rock-Shelters

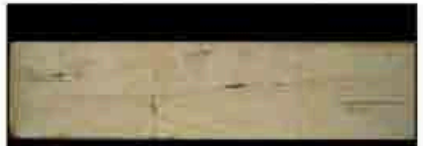
Copies of paintings from Mirror Wall and from 'Fresco' Pockets C, D, and E

GALLERY 4b

THE SIGIRI GRAFFITI

GALLERY 4 b:
THE SIGIRI GRAFFITI

- **Sigiriya and its paintings have attracted visitors over the centuries, from the time the palace was abandoned in the 5th or 6th century.**
- **Visitors from all over Sri Lanka came to see the paintings, the palace and the lion.**
- **Inspired by these, they composed poems and messages – mostly addressed to the ladies in the paintings – and inscribed their writings on the shining surface of the Mirror Wall.**
- **Known as the 'Sigiri Graffiti' there are more than 1200 writings on the wall and a few in the 'Fresco' Pocket and the Boulder Garden, most of which have now been read.**



This is our old working 'map' of the inside of the Mirror Wall showing the exact location of the graffiti texts. It indicates those which have been read by Paranavitana (1956) and by Priyanka (1990, 1994). Priyanka has now almost completed the reading of all the writings. We need him to indicate the best section to replicate in Gallery 4b. We also need to discuss and decide what to use for the display in general. In the meantime this 'map' must be redrawn at Sigiriya!

GALLERY 4c

THE SIGIRIYA TERRACOTTAS

GALLERY 4c:
THE SIGIRIYA TERRACOTTAS

- **Closely connected with the paintings and poems are the terracotta figurines found in the Boulder Garden, dated between the 7th/8th and 10th centuries (?).**
- **These are models of the women in the paintings and were probably souvenirs to be taken away by visitors to the site – rare expressions of 'art about art'.**
- **These souvenir sculptures and the graffiti poems are unique examples from such early times of aesthetic and historical interest in artistic and archaeological remains at an abandoned historical site.**
- **Although the Sigiriya figurines are unique, they are part of a tradition of terracotta sculpture, found also at other sites in the area such as Piduranagala and Manikdenaand, from very different contexts in the folk sculpture associated with Ituikvava and Manavava.**

TERRACOTTAS IN
SIGIRIYA MUSEUM
FROM NEIGHBOURING
ARCHAEOL. SITES

GALLERY 4c:
THE SIGIRIYA TERRACOTTAS

- Although the Sigiriya figurines are unique, they are part of a tradition of terracotta sculpture, found also at other sites in the area such as Pidurangala and Manikdena.

The terracotta display should include as many outstanding pieces as possible from the collection in the present Sigiriya museum.

The folk sculpture associated with Ilukvava and Manavava can be in the next room under the concept 'The Hidden Centuries'.

END OF SECTION 9

(Plantings, Pottery and Accounts Inscriptions)

SIGIRIYA MUSEUM - 10

COURTLY AND MONASTIC
LIFE AND FOREIGN TRADE

GALLERY4/5:COURTLY AND MONASTIC LIFE AND FOREIGN TRADE

- Apart from the architectural remains and the spatial organisation of city,palace, monastery, and gardens archaeological finds tell us little about courtly and monastic life and its wider social and economic contexts.
- Some insights are provided by bead and ceramic finds – especially from strata associated with the royal occupation in the 5th century, from the Later Monastic Period, and – and from fragments of import ceramics from East and West Asia and Roman and Indo-Roman coins

A rare example of a complete sword from an archaeological context. Found in unstratified sit in the inner moat (?) and of uncertain date and origin. It is possible that it is from as late as the 17th-19 th century. Channa Wickremasekera will help in identification and dating. If it is of an early date it can be exhibited in G4/5 as indicating 'courtly life' ; if later in G5a -'Hidden Centuries'

The object badly needs conservation !!

POTTERY TYPOLOGY AND SEQUENCE and BEAD TYPOLOGY

- *It is possible to prepare two wall-chart diagrams showing a selected range of pottery and a pottery sequence – the drawings and the sequence already exist !*
- *A selection of beads has already been published*
- *These drawings can be made into an interesting exhibit if combined with colour enlargements of selected specimens in large backlit panels !*

IMPORT CERAMICS and COINS

- ***Sigiriya has a very small amount of import ceramics from East and West Asia. We need some expert identifications of this ware (rough identifications exist). Careful photography will make the fragments interesting.***
- ***Map or labels clearly showing Sigiriya's trans-Asian connections is important***
- ***The Sassanian jar in the Colombo National Museum might be loaned to the Sigiriya Museum. It will make a beautiful exhibit if carefully restored***

END OF SECTION 10

SIGIRIYA MUSEUM - 11

Gallery 5a: "THE HIDDEN CENTURIES"
Gallery 5b: THE HISTORY OF ARCHAEOLOGY AT SIGIRIYA

GALLERY 5a: "THE HIDDEN CENTURIES"

- We know very little about Sigiriya in the period between the 14th and the17th century.
- Like many other major centres and monumental sites of the Dry Zone, Sigiriya was abandoned, but not forgotten by the surviving villages of its hinterland.
- Terracotta figurines depicting animals and humans, found at sites in the vicinity such as *Manavava* and *Ilukvava* may belong to this time.
- Sigiriya re-appears in the historical record during the reign of Rajasinha I of Sitavaka (1515-1593) and is an outpost and military centre of the Kingdom of Kandy in the 18th and early 19th centuries.

Artefacts

- **The Sigiriya Lion** – (from A'pura Museum) – a folk representation of the lion of uncertain date but possibly from the 14 th/15 th century, before the lion collapsed.
- **Ilukavava** and **Manavava terracottas**
- The **Sigiriya doorlock** – 17th 18th century

GALLERY 5a: "THE HIDDEN CENTURIES"

Photos/plans/diagrams

- Large blow-up photo of terracotta lion
- Large blow up or drawings of selected Ilukvavaor Manavava terracottas.

An extraordinary discovery! ... a small terra-cotta from Sigiriya a 'lost die' (?) and/or a 'free' representation of the Lion Staircase before its collapse (?). The exact find spot is not known and the date uncertain, but it could be from the post 13th century period as it bears some broad stylistic resemblances to lion representations of the Polonnaruwa to Post Polonnaruwa Period.

It is in the Anuradhapura Archaeological Department Museum and should be obtained on loan for the Sigiriya Museum. A huge photo blow up in the 'Hidden Centuries' gallery would be sensational and very popular.

THE TERRACOTTA FIGURINES LEAD US DIRECTLY TO ETHNOARCHAEOLOGY.

THE STUDY OF THE SURVIVING TRADITIONAL LIFEWAYS WHICH HELP US TO BETTER INVESTIGATE THE ARCHAEOLOGY OF THE VILLAGE. THE SIGIRIYA AREA IS STILL RICH IN SUCH MATERIAL: METHODS OF HUNTING AND GATHERING; FOOD PRODUCTION AND PROCESSING, HOUSE FORMS; COOKING; METHODS AND UTENSILS ... MUCH OF IT FAST DISAPPEARING...

ETHNOARCHAEOLOGY IS ANOTHER GATEWAY TO THE STUDY OF THE PAST...

THIS MODEL, BASED ON EXTENSIVE FIELDWORK SHOWS THE COMPLEX ORGANISATION OF SUPPLEMENTARY HUNTING IN A TYPICAL POORLY-RESOURCED 'DRY ZONE' VILLAGE IN THE SIGIRIYA AREA.

GALLERY 5b

THE HISTORY OF ARCHAEOLOGY AT SIGIRIYA

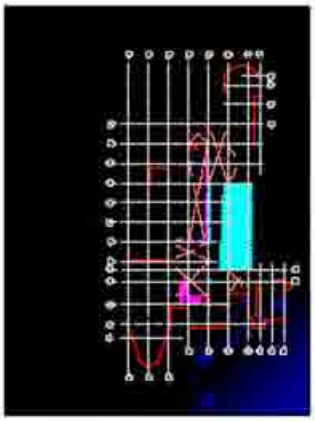
GALLERY 5b: HISTORY OF ARCHAEOLOGY AT SIGIRIYA

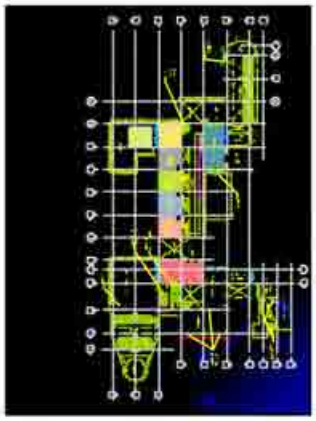
- Sigiriya was never forgotten, but the rediscovery of its art, inscriptions, palace remains and history begins in the18th century.
- The Dambullapainters, influenced no doubt by the Sigiriya paintings, produce their 19th century version of the cloud maidens in the 'Defeat of Mara' panel at Dambulla
- In the 1830s, the scholar-monk at Pidurangala makes copies of the inscriptions in the area, and early antiquarians explore Sigiriya and its antiquities through 19th century.
- Systematic archaeology begins in 1894, and nearly 90 years later, in 1982, wide-ranging, multidisciplinary inves-tigations of Sigiriya and its hinterland are launched and a comprehensive heritage management program begins.

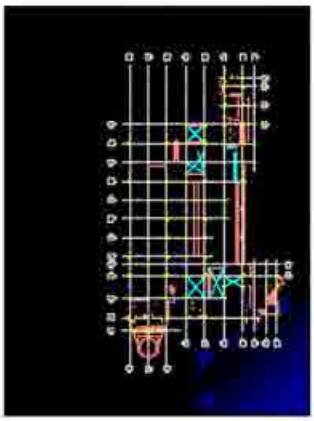
END OF SECTION 11

END OF PRESENTATION

② シーギリア研究第一人者である考古学者Bandaranayake教授プレゼンテーション資料

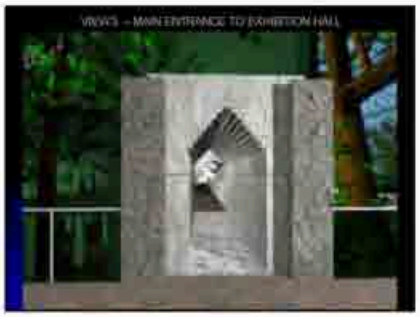


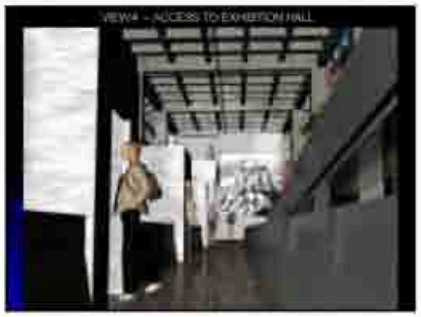


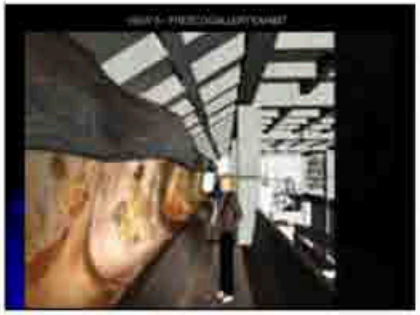


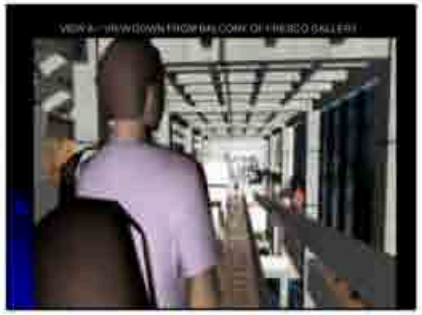
INTERIOR SETTING

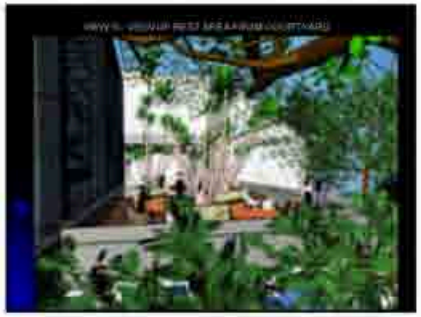
SIGIRIYA CORBAL ARCH



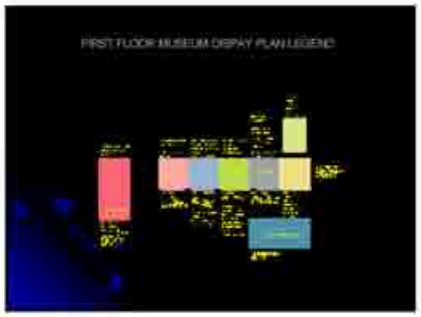








VIEW 12 – VIEW OF EXIT PASSAGE ALONG LOTUS BRIDGE


FIRST FLOOR MUSEUM DISPAY PLAN LEGEND

2. 調査団作成　シーギリア博物館展示計画案プレゼンテーション資料（9月27日発表）

Tourism Promotion: 'Museum Industry' Concept

- Effective use of museum resources
  - → performances Museum amphitheater
  - → traditional crafts with twist Souvenirs
  - → high-end reproductions Terracotta
- Marketing and info release
  - → Spokesperson Museum Coordinator
  - → Coordination with other sectors/actors
  - → Networking of museums Publications

Sigiriya Heritage Site Schemes

JBIC (TRIP) Tourism promotion
- Access road
- Visitor facilities
- Visitor safety
- Landscaping
- *(Planned)*
- *Conservation*

Grant Aid Museum Display
- Display design
- Equipment
- Installation

2KR Fund Museum construction

JICA *(Requested)* *Technical cooperation*

Sigiriya Heritage Site Schemes

Sigiriya Museum

JBIC (TRIP) Tourism promotion
- Access road
- Visitor facilities
- Visitor safety
- Landscaping
- *(Planned)*
- *Conservation*

Grant Aid Museum Display
- Display design
- Equipment
- Installation

2KR Fund Museum construction

JICA *(Requested)* *Technical cooperation*

Sigiriya Heritage Site Schemes

Sigiriya Museum

JBIC (TRIP) Tourism promotion
- Access road
- Visitor facilities
- Visitor safety
- Landscaping
- *(Planned)*
- *Conservation*

Grant Aid Museum Display
- Display design
- Equipment
- Installation
- Management

2KR Fund Museum construction

JICA *(Requested)* *Technical cooperation*

Sigiriya Heritage Site Schemes

Sigiriya Museum

JBIC (TRIP) Tourism promotion
- Access road
- Visitor facilities
- Visitor safety
- Landscaping
- *(Planned)*
- *Conservation*

Grant Aid Museum Display
- Display design
- Equipment
- Installation
- Management

2KR Fund Museum construction

JICA *(Requested)* *Technical cooperation*

Networking

Sigiriya Museum: Ongoing Activities

2006 — 2007 — 2008

- Building construction
- Design, supply, and installation of museum display (Grant Aid. Approved 6/2006)
- Area tourism resources improvement (JBIC Yen Loan Project. Approved 3/2006)
- Tourism promotion activities in museum (Technical Cooperation Project. Applied 7/2006)

Basic Concept (Committee)

"World-class, one-of-a-kind museum"

↓

- Attracts visitors from all over the world
- Conveys the wonder that is Sigiriya
- Immersive experience
  - *…'artefact as text' interpretive freedom*
  - *…provision of info comes second*
  - *…atmosphere, mystique*

Target Audience (Committee)

- Domestic pilgrims and students
  - – Average visitor
  - – Interested specialists
- Foreign visitors
  - – Average visitor
  - – Interested specialists

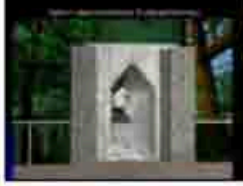
Languages Sinhala, Tamil, English

Architectural Concept (Committee)

- Organic, permeable
- Ancient concepts
  - Water
  - Corbel arch
- Invisible yet attractive

Architectural Concept (Committee)

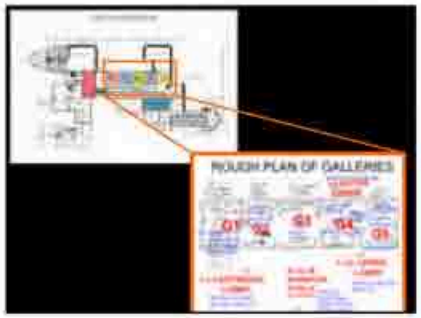
- A journey through time
- Functional separation
  - Exhibition space
  - Rest/picnic/shop
  - Office area



Display Plan (Committee)

Required elements:

- Multi-layered, multi-faceted wonder
- Introduction of a subtle archaeological site
- Immersive experience
  - → One-of-a-kind presentation
- Virtual experience of Sigiriya
  - → Bad weather
  - → Old or infirm visitors



Basic Concept (Committee)

"World-class, one-of-a-kind museum"

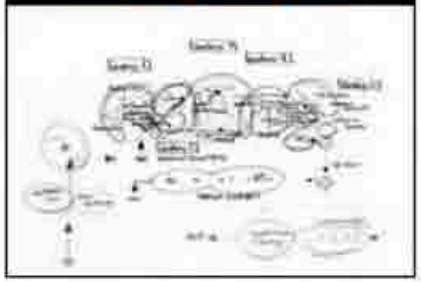
↓

how can the Study Team improve on the Committee's ideas?

Display Recommendations (Study Team)

- Display should follow dramatic storyline
  - → attention-grabbing centrepiece
  - → 'focus artefacts'
- Further functional separation
  - → Entrance lobby and 'visitor center'
- Clearer visitor guidance
  - → Locating the visitor in time/space
  - → Information levels

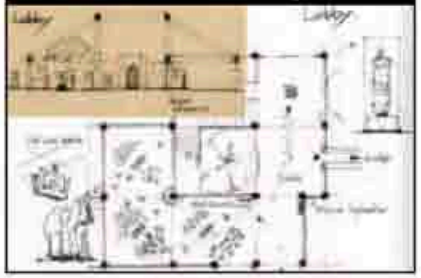
Overall Design (Study Team)



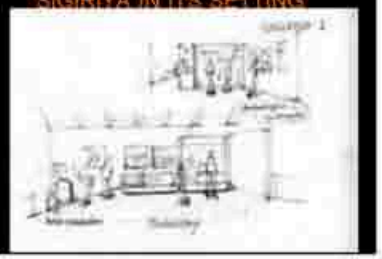
Galleries

Galleries

Auditorium & Lobby



Gallery 1
"SIGIRIYA IN ITS SETTING"



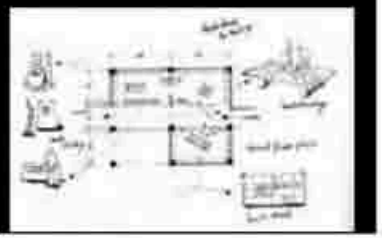
Gallery 2
"EARLY/LATE MONASTERIES"

Gallery 3
"ROYAL CITY, PALACE & GARDEN"

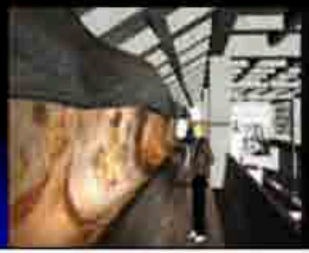
Gallery 4
"PAINTINGS, POETRY & SCULPTURES"

Gallery 5
"COURTLY & MONASTIC LIFE & TRADE"
"HIDDEN CENTURIES"

Bookstore/Gallery (Study Team)



The Fresco Pocket



Summary of Recommendations

Committee — Study Team

Architectural concept

Basic display concept → Dramatic presentation

Functional separation } Clarify

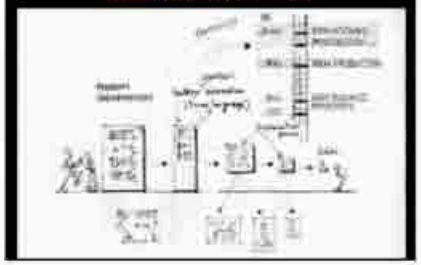
Visitor information } Clarify

Functional Separation of 1st Floor

'Visitor Center'

- Site introduction through AV
  - → Quick introduction
- Evening performances in amphitheater
- Rent space for seminars
- School workshops
  - → Income generation
- Security
  - → Can lock down exhibit space

Information Levels



Display Design Equipment (1)

1. Interior hardware
   e.g. Flooring, stairs/steps, hand rails
2. Display backing
   e.g. Walls
3. Display hardware
   e.g. Glass case, stage, backlit panel case
   Hooks, supports

Max. Necessary Equipment Set (1)

1. Interior hardware
   - Raised floor deck, hand rails
   - Glass floor (over landscape model)
2. Display backing
   - Walls between galleries
3. Display hardware
   - Glass cases, stages, artefact supports

Display Design Equipment (2)

4. Informational hardware
   - a) Descriptive/graphic panels
   - b) Models, replicas, and dioramas
   - c) Audiovisual (AV) equipment
     e.g. projector, monitor, touch panel
   - d) ICT equipment
     e.g. data search terminals
5. Lighting fixtures
   e.g. non-UV tube lighting, tungusten, halogen
6. Software production
   e.g. creation, editing

Max. Necessary Equipment Set (2a)

4. Informational hardware
   - a) Descriptive/graphic panels
     - Panels for various information levels
   - b) Models, replicas, and dioramas
     - Landscape model
     - Replicas (Potana burial, Ibbankatuwa, Furnace, Mirror Wall, Earring, Fresco (painting not incl.))
   - c) Audiovisual (AV) equipment
     - Auditorium (3 or 6), Seminar room
     - Touch panel & projector set
   - d) ICT equipment
     - Data search terminals? (1 per gallery?)

Max. Necessary Equipment Set (2b)

5. Lighting fixtures
   - Spotlights
   - Dramatic and with mystique
     - Gallery: 150 Luxor lower
     - Artefacts: 300 Lux
     - Text: 400 Luxmaximum
   - Technically appropriate selection necessary
   - Maintenance necessary
6. Software Production
   - *Not covered by Grant Aid*

Approximate Cost Calculation

1. Interior hardware	¥27,250,000
2. Display backing	¥ 1,500,000
3. Display hardware	¥19,300,000
4. Informational hardware	
a) Descriptive/graphic panels	¥13,600,000
b) Models, replicas, and dioramas	¥49,300,000
c) Audiovisual (AV) equipment	¥13,000,000
d) ICT equipment	¥ 7,500,000
5. Lighting fixtures	¥ 3,500,000
SUBTOTAL	¥134,950,000

Implementation costs (if +20% @ ¥135,000,000)

TOTAL ¥162,000,000

Sigiriya Heritage Site Schemes

JBIC (TRIP)
Tourism promotion
- Access road
- Visitor facilities
- Visitor safety
- Landscaping
- *(Planned)*
- Conservation

Sigiriya Museum

Grant Aid
Museum Display
- Display design
- Equipment
- Installation
- Management

2KR Fund
Museum construction

JICA
(Requested)
Technical cooperation

Sigiriya Heritage Site Schemes

JBIC (TRIP)
Tourism promotion
- Access road
- Visitor facilities
- Visitor safety
- Landscaping
- *(Planned)*
- Conservation

Marketing
HR Development

Sigiriya Museum

Grant Aid
Museum Display
- Display design
- Equipment
- Installation
- Management

Dispatch of experts

2KR Fund
Museum construction

Additional construction

JICA
(Requested)
Technical cooperation

The Next Step: Display Design

Exhibit Structure Chart

The Next Step: Feasibility

- Inter-organizational cooperation
  - → Artefact loans
  - → Funding
- Local talent
  - → Modeling
  - → Painting
  - → Software
  - etc.

The Next Step: Sustainability

- Creation of Management Structure
  - → Schedule of appointment
  - → Progress
- Identification of Key Personnel
  - → Museum Curator (C/P for design phase)
  - → Maintenance Engineer
- Budget Allocation
  - → Museum Maintenance

Future of Museum Management

- Opportunity for 'Museum Revolution'
  - → Innovate design, world-class display
  - → Latest educational programs
  - → Increased visitor satisfaction
  - → Balance between heritage tourism and heritage management

↓

Museum management innovation

Management: Suggestions (Study Team)

- Museum Coordinator
  - → marketing, networking, spokesperson
- Museum Educator
  - → educational program planning
- Museum Teacher
  - → educational program implementation
- Heritage Tourism specialist
  - → balance of tourism/conservation

Management: Suggestions (Study Team)

- Museum Coordinator
  - → marketing, networ
- Museum Educator
  - → educational progra
- Museum Teacher
  - → educational progra
- Heritage Tourism specia
  - → balance of tourism

JICA technical cooperation

Heritage studies

Management: Suggestions (Study Team)

- Museum Coordinator
  - → marketing, networ
- Museum Educator
  - → educational progra
- Museum Teacher
  - → educational progra
- Heritage Tourism specia
  - → balance of tourism

JICA technical cooperation

Heritage studies

Technical Cooperation

JICA technical cooperation

Display planning expert

JICA technical cooperation

Management
Marketing
Heritage studies

Summary

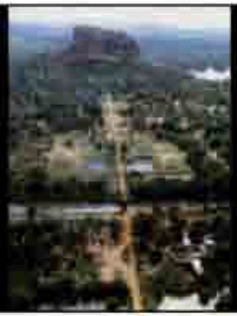
- World-class museum desired
- Show of firm commitment
- Show of active involvement at higher level
- Committee concept sound

↓

Preliminary display plan presented
Tourism promotion tie-in explored

↓

Basis for continued dialogue and planning



3. 収集資料リスト

1 地図

1-1 Sigiriya Heritage City: Sigiriya 遺跡地図・案内図（1999、CCF）

2 関連条例

2-1 Antiquities Ordinance 1956 Revision

2-2 Irrigation Ordinance (Chapter 453) as amended by Act No. 48 of 1968

2-3 Urban Development Authority Law No. 41 of 1978

2-4 Central Cultural Fund Act No. 57 of 1980

2-5 National Environmental (Amendment) Act No. 56 of 1988

2-6 Sigiriya Heritage Foundation: A Bill 1998

2-7 Tourism Act No. 38 of 2005

3 報告書・書籍等（観光局）

3-1 Sri Lanka Tourism Annual Statistical Report 2005 (Sri Lanka Tourist Board) ウェブ版

3-2 Airport Survey on Foreign Departing Tourists at Bandaranayake International Airport July 2005 to February 2006 (Sri Lanka Tourist Board) ウェブ版

4 報告書・書籍等（CCF）

4-1 UNESCO-Sri Lanka Project of the Cultural Triangle: Sigiriya Project Conservation Progress Report 1982

4-2 UNESCO-Sri Lanka Project of the Cultural Triangle: Sigiriya Project Third Archaeological Excavation and Research Report (January-June 1983)

4-3 UNESCO-Sri Lanka Project of the Cultural Triangle: Sigiriya Project Fourth Progress Report Excavations at Sigiriya (July-December 1983)

4-4 UNESCO-Sri Lanka Project of the Cultural Triangle: Fifth Progress Report Excavations at Sigiriya (January-June 1984)

4-5 The Cultural Triangle (UNESCO/CCF, 1993)

4-6 Sigiriya (Bandaranayake, 1999)

4-7 Sigiriya: city palace gardens monasteries paintings (Bandaranayake, 2005)

5 映像資料

5-1 VCD “Roots of Sri Lanka”

5-2 DVD (copy) “Sigiriya”

5-3 VCD “Sigirya”

6 その他

6-1 CCF 決算資料(コピー)、2003、2004、3005 提供:CCF

6-2 CCF 入場者数及び収益資料(コピー)、2000、2001、2003, 2004 提供:CCF

6-3 JBIC Shopping List 及び活動エリア地図(コピー) 提供:JBIC

7 デジタル資料(Ellepola 氏提供)

JICA
ジャイカ